

I 2011（平成23）年度「学生による授業評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

この「学生による授業評価アンケート」は、自己点検・評価作業の一環として、本学の教育上の課題を明確にし、質的な向上を図ることを目的に全学的規模で2008（平成20）年度から継続的に実施されている。

本報告書の主旨は、全学的観点及び各学部・学科、研究科・専攻及び共通教育科目の観点から、評価結果の傾向・特徴を把握してその全体像を描き出すことにある。これにより、学生が本学の教育体制・教育活動、教育レベルをどのようにとらえているのかを把握し、検討することによって、今後の授業改善及び教育内容・方法の見直しに役立てるとともに、かつ、建学の理念である『徳と知』に基づき本学教育のアイデンティティの明確化と教育の質向上に資することを目的としている。

2. 実施方法

（1）実施期間

前期は、2011（平成23）年7月7日（木）～7月29日（金）、後期は、2012（平成24）年1月7日（土）～1月30日（月）に実施した。

表 I・2・1 本学の学部・大学院の構成

学 部	人間文化学部	英語英文学科
		人間文化学科
	生活福祉文化学部	生活福祉文化学科
	心理学部	心理学科 発達心理専攻
学校心理専攻		
臨床心理専攻		
大学院	人間文化研究科	応用英語専攻
		人間文化専攻
		生活福祉文化専攻
	心理学研究科	発達・学校心理学専攻（博士前期課程）
		臨床心理学専攻（博士前期課程）
		心理学専攻（博士後期課程）

（2）調査対象科目

学部・大学院とも、科目については、ゼミナール（特論及び卒業研究）及び集中講義（不定期に開講される科目）は調査の対象外とした。

(3) 実施科目数・回収率

1) 学部・学科

調査対象者：全学部の学生。以下に、各学部・学科・共通教育科目等の科目数（専任教員、非常勤講師）、回収率（履修者数、回収数、回収率）を、年度・前期・後期別に示す。

表 I・2・2 学部（年度）の実施科目数・回収率の内訳

科目数 (単位：科目)			
学部・学科名等	専任	非常勤	計
共通教育科目	85	137	222
英語英文学科	113	56	169
人間文化学科	73	20	93
生活福祉文化学部	110	51	161
心理学部	83	14	97
その他の資格科目	22	26	48
計	486	304	790

回収率 (単位：人)			
学部・学科名等	履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	10,446	7,806	74.7%
英語英文学科	4,244	3,086	72.7%
人間文化学科	2,604	1,960	75.3%
生活福祉文化学部	4,099	3,137	76.5%
心理学部	6,255	4,715	75.4%
その他の資格科目	1251	958	76.6%
計	28,899	21,662	75.0%

表 I・2・3 学部（前期）の実施科目数・回収率の内訳

科目数 (単位：科目)			
学部・学科名等	専任	非常勤	計
共通教育科目	44	71	115
英語英文学科	56	27	83
人間文化学科	36	11	47
生活福祉文化学部	54	34	88
心理学部	39	5	44
その他の資格科目	13	13	26
計	242	161	403

回収率 (単位：人)			
学部・学科名等	履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	4,952	3,819	77.1%
英語英文学科	2,352	1,782	75.8%
人間文化学科	1,464	1,136	77.6%
生活福祉文化学部	2,399	1,849	77.1%
心理学部	3,036	2,290	75.4%
その他の資格科目	729	562	77.1%
計	14,932	11,438	77.9%

表 I・2・4 学部（後期）の実施科目数・回収率の内訳

科目数 (単位：科目)			
学部・学科名等	専任	非常勤	計
共通教育科目	41	66	107
英語英文学科	57	29	86
人間文化学科	37	9	46
生活福祉文化学部	56	17	73
心理学部	44	9	53
その他の資格科目	9	13	22
計	244	143	387

回収率 (単位：人)			
学部・学科名等	履修者数	回収数	回収率
共通教育科目	5,494	3,987	72.6%
英語英文学科	1,892	1,304	68.9%
人間文化学科	1,140	824	72.3%
生活福祉文化学部	1,700	1,288	75.8%
心理学部	3,219	2,425	75.3%
その他の資格科目	522	396	75.9%
計	13,967	10,224	73.2%

2) 研究科・専攻

調査対象者：全研究科の大学院生。以下に、各研究科・専攻毎の科目数（専任教員、非常勤講師）、回収率（履修者数、回収数、回収率）を年度、前期、後期別に示す。

表 I-2-5 大学院（年度）の実施科目数・回収率の内訳

科目数 (単位：科目)				回収率 (単位：人)			
研究科・専攻名	専任	非常勤	計	研究科・専攻名	履修者数	回収数	回収率
人間文化研究科	50	7	57	人間文化研究科	162	151	93.2%
応用英語専攻	9	3	12	応用英語専攻	18	16	88.9%
人間文化専攻	29	0	29	人間文化専攻	88	87	98.9%
生活福祉文化専攻	12	4	16	生活福祉文化専攻	56	48	85.7%
心理学研究科	32	7	39	心理学研究科	311	285	91.6%
計	82	14	96	計	473	436	92.2%

表 I-2-6 大学院（前期）の実施科目数・回収率の内訳

科目数 (単位：科目)				回収率 (単位：人)			
研究科・専攻名	専任	非常勤	計	研究科・専攻名	履修者数	回収数	回収率
人間文化研究科	28	4	32	人間文化研究科	87	84	96.6%
応用英語専攻	7	1	8	応用英語専攻	11	11	100.0%
人間文化専攻	15	0	15	人間文化専攻	46	45	97.8%
生活福祉文化専攻	6	3	9	生活福祉文化専攻	30	28	93.3%
心理学研究科	18	3	21	心理学研究科	173	164	94.8%
計	46	7	53	計	260	248	95.4%

表 I-2-7 大学院（後期）の実施科目数・回収率の内訳

科目数 (単位：科目)				回収率 (単位：人)			
研究科・専攻名	専任	非常勤	計	研究科・専攻名	履修者数	回収数	回収率
人間文化研究科	22	3	25	人間文化研究科	75	67	89.3%
応用英語専攻	2	2	4	応用英語専攻	7	5	71.4%
人間文化専攻	14	0	14	人間文化専攻	42	42	100.0%
生活福祉文化専攻	6	1	7	生活福祉文化専攻	26	20	76.9%
心理学研究科	14	4	18	心理学研究科	138	121	87.7%
計	36	7	43	計	213	188	88.3%

(4) 調査内容 (学部、大学院)

最初に、回答者の属性 (学部学生については、学年・所属学部 (学科)、大学院学生については、学年・所属研究科 (専攻))、次に当該科目に関する以下の項目について尋ねた。

学部、大学院、それぞれの調査項目は以下の通りである。

学部の当該科目に関する調査項目

1. 評価項目

(1) 教員 (授業) について

- ①授業のテーマは、はっきりしていた
- ②授業の内容を理解できた
- ③授業の内容に興味・関心をもてた
- ④この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ
- ⑤この授業では、学習に集中することができた
- ⑥授業中に使う教材 (テキスト・配布資料など) は適切であった
- ⑦成績評価の仕方が明確に示されていた
- ⑧教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- ⑨教員のプレゼンテーション (授業における伝達方法) は適切であった
- ⑩教員は学生の質問や相談に適切に対応した
- ⑪教員の授業への取り組みに、熱意を感じた
- ⑫教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた

(2) あなたについて

- ⑬私はこの授業に満足した
- ⑭私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ
- ⑮授業中は意欲的・積極的に取り組んだ
- ⑯教員から要求された自主学習 (予習／復習、宿題や準備) をしましたか
- ⑰この授業で、何回欠席しましたか

[基準：4 (0回)、3 (1回)、2 (2～3回)、1 (4回以上)]

(3) 自由記述

「この科目 (授業) について『よかった点』や『改善すべき点』等を記入してください」と教示し、調査用紙に自由回答欄を設けた。

2. 回答形式

評価項目 (1)、(2) については、以下の4件法で回答させた。

- 4: そう思う
- 3: どちらかと言えばそう思う
- 2: どちらかと言えばそう思わない
- 1: そう思わない

はできるだけ教室外で待機するなどの配慮をした。

(6) 経年比較

同じ科目を経年比較するため、集計結果の全体平均値の変動値を「◎・・・去年より平均が 0.5 以上増加」、「○・・・平均が 0.1～0.49 増加」、「▼・・・平均が 0.1 以上減少」で表示した。

(7) 結果の集計

集計は、株式会社学習調査エデュフロントに依頼した。

(8) 集計結果についての検討

2012（平成 24）年 3 月 7 日（水）に全学教員研修会にて、2011（平成 23）年度授業評価アンケートの集計結果をもとに、全体的にみた現状、長所と改善点、改善の方策、今後の課題について意見交換を行った。

(9) 教員への結果通知と集計結果の配布

全学及び、共通教育科目、その他の資格科目、学部・学科別、研究科・専攻別の集計結果（年度・前期・後期）については、全学教員研修会時に全専任教員へ配布した。

各科目の教員別集計結果における配布時期は、前期については専任教員・非常勤教員とも 9 月中旬～下旬に配布し、後期については専任教員には 3 月上旬、非常勤教員には 4 月上旬に配布した。

平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	全学	教員	曜日・講時	履修者数	28,899名
科目				回収数(率)	21,662名 75.0%

単純集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ○ …平均が0.1~0.49増加 ▼ …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 13388	7199	834	217	14	3.6	0.62	3.6	
	% 61.8	33.2	3.9	1.0	0.1				
Q2 授業の内容を理解できた	人 9782	9382	2026	451	11	3.3	0.73	3.3	
	% 45.2	43.3	9.4	2.1	0.1				
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 10822	8323	1973	515	19	3.4	0.75	3.4	
	% 50.0	38.4	9.1	2.4	0.1				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 10217	8634	2251	535	15	3.3	0.76	3.3	
	% 47.2	39.9	10.4	2.5	0.1				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 10017	9098	2072	452	13	3.3	0.73	3.3	
	% 46.3	42.0	9.6	2.1	0.1				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 11335	8527	1419	322	49	3.4	0.68	3.4	
	% 52.4	39.4	6.6	1.5	0.2				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 10393	8764	2034	427	34	3.3	0.73	3.3	
	% 48.0	40.5	9.4	2.0	0.2				
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 12100	7703	1447	380	22	3.5	0.70	3.5	
	% 55.9	35.6	6.7	1.8	0.1				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 11727	8115	1426	359	25	3.4	0.69	3.4	
	% 54.2	37.5	6.6	1.7	0.1				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 11740	8152	1404	333	23	3.4	0.69	3.4	
	% 54.2	37.7	6.5	1.5	0.1				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 12600	7739	1022	265	26	3.5	0.65	3.5	
	% 58.2	35.7	4.7	1.2	0.1				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 11549	8073	1606	398	26	3.4	0.71	3.4	
	% 53.3	37.3	7.4	1.8	0.1				
Q13 私はこの授業に満足した	人 10927	8565	1640	480	40	3.4	0.72	3.4	
	% 50.5	39.6	7.6	2.2	0.2				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 7405	8085	4220	1887	55	3.0	0.94	3.0	
	% 34.2	37.3	19.5	8.7	0.3				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 9155	9879	2094	416	108	3.3	0.72	3.3	
	% 42.3	45.6	9.7	1.9	0.5				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 8458	9042	3066	966	120	3.2	0.83	3.2	
	% 39.1	41.8	14.2	4.5	0.6				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 9855	5521	5065	1121	90	3.1	0.94	3.1	
	% 45.5	25.5	23.4	5.2	0.4				

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

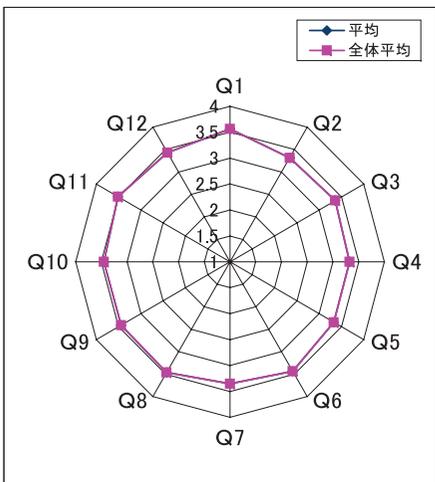
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 11016	7383	663	68	34	3.5	0.58	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 11729	6711	640	74	10	3.6	0.58	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 11393	7062	630	65	14	3.6	0.58	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 12034	6607	461	49	13	3.6	0.55	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 11211	7108	740	92	13	3.5	0.60	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 8940	8851	1151	138	84	3.4	0.63	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 8771	4930	4408	981	74	3.1	0.94	3.1	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

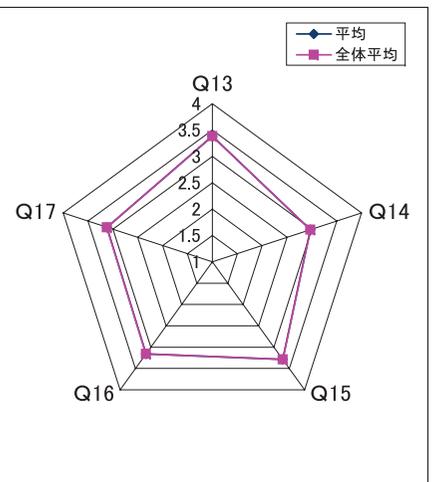
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 319	1141	754	254	9	2.6	0.84	2.6	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 371	988	806	306	6	2.6	0.89	2.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 333	1050	795	294	5	2.6	0.87	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 564	1130	561	216	6	2.8	0.88	2.8	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 337	962	865	306	7	2.5	0.88	2.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 214	1026	941	277	19	2.5	0.81	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 1082	589	655	140	11	3.1	0.96	3.1	

評価レーダーチャート

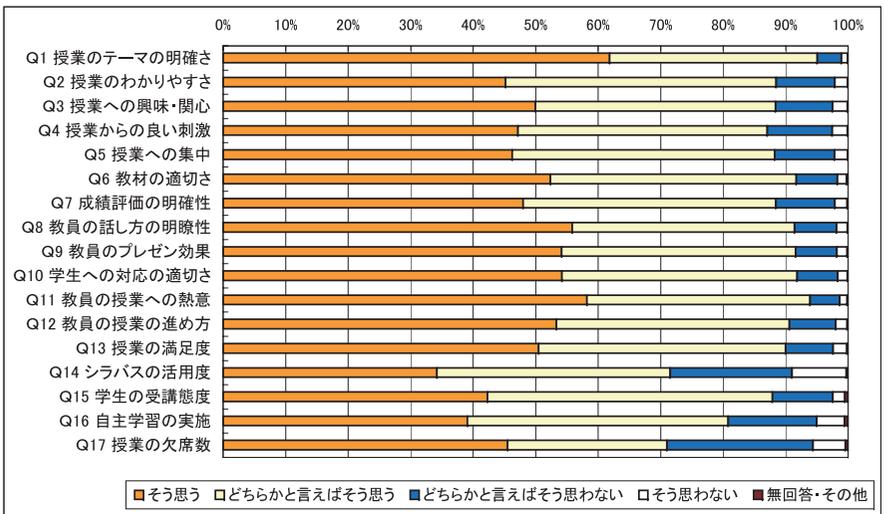
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	全学	教員	曜日・講時	履修者数	14,932名
科目				回収数(率)	11,438名 76.6%

単純集計

(…一番回答の多い選択肢 …全体平均より高い …去年より平均が0.5以上増加 …平均が0.1~0.49増加 …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 7038	3796	479	116	9	3.6	0.63	3.6	
	% 61.5	33.2	4.2	1.0	0.1				
Q2 授業の内容を理解できた	人 5113	4915	1125	279	6	3.3	0.74	3.3	
	% 44.7	43.0	9.8	2.4	0.1				
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 5725	4303	1094	305	11	3.4	0.76	3.4	
	% 50.1	37.6	9.6	2.7	0.1				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 5361	4496	1263	310	8	3.3	0.77	3.3	
	% 46.9	39.3	11.0	2.7	0.1				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 5302	4772	1102	256	6	3.3	0.74	3.3	
	% 46.4	41.7	9.6	2.2	0.1				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 5970	4505	750	181	32	3.4	0.69	3.4	
	% 52.2	39.4	6.6	1.6	0.3				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 5374	4678	1128	237	21	3.3	0.74	3.3	
	% 47.0	40.9	9.9	2.1	0.2				
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 6298	4063	832	231	14	3.4	0.72	3.4	
	% 55.1	35.5	7.3	2.0	0.1				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 6102	4343	772	203	18	3.4	0.70	3.4	
	% 53.3	38.0	6.7	1.8	0.2				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 6161	4300	777	190	10	3.4	0.69	3.4	
	% 53.9	37.6	6.8	1.7	0.1				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 6602	4090	587	145	14	3.5	0.65	3.5	
	% 57.7	35.8	5.1	1.3	0.1				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 6027	4289	883	226	13	3.4	0.72	3.4	
	% 52.7	37.5	7.7	2.0	0.1				
Q13 私はこの授業に満足した	人 5755	4489	902	273	19	3.4	0.73	3.4	
	% 50.3	39.2	7.9	2.4	0.2				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 3821	4264	2325	997	31	3.0	0.94	3.0	
	% 33.4	37.3	20.3	8.7	0.3				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 4857	5202	1098	228	53	3.3	0.72	3.3	
	% 42.5	45.5	9.6	2.0	0.5				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 4424	4722	1695	529	68	3.1	0.84	3.1	
	% 38.7	41.3	14.8	4.6	0.6				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 5692	2737	2405	556	48	3.2	0.93	3.2	
	% 49.8	23.9	21.0	4.9	0.4				

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

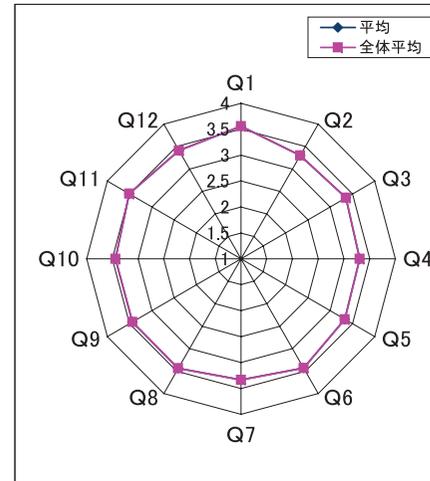
	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	5794	3839	339	31	25	3.5	0.58	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	6109	3520	355	36	8	3.6	0.58	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	5927	3738	323	29	11	3.6	0.57	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	6297	3448	257	20	6	3.6	0.55	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	5853	3746	386	37	6	3.5	0.59	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	4734	4616	561	74	43	3.4	0.63	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	5007	2423	2069	492	37	3.2	0.93	3.2	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

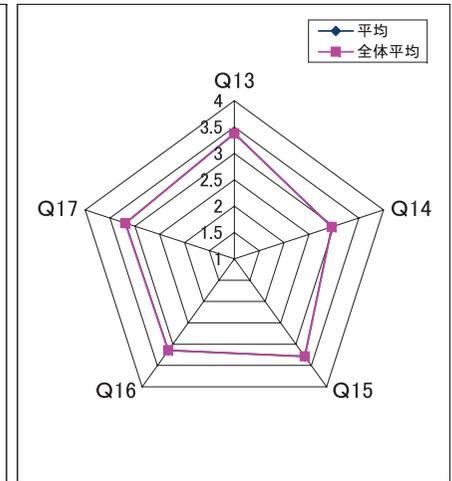
	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	176	664	410	150	4	2.6	0.84	2.6	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	189	541	476	195	3	2.5	0.89	2.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	174	603	449	174	4	2.6	0.86	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	303	642	330	125	4	2.8	0.88	2.8	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	173	541	497	189	4	2.5	0.88	2.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	122	585	536	153	8	2.5	0.80	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	683	313	335	64	9	3.2	0.94	3.2	

評価レーダーチャート

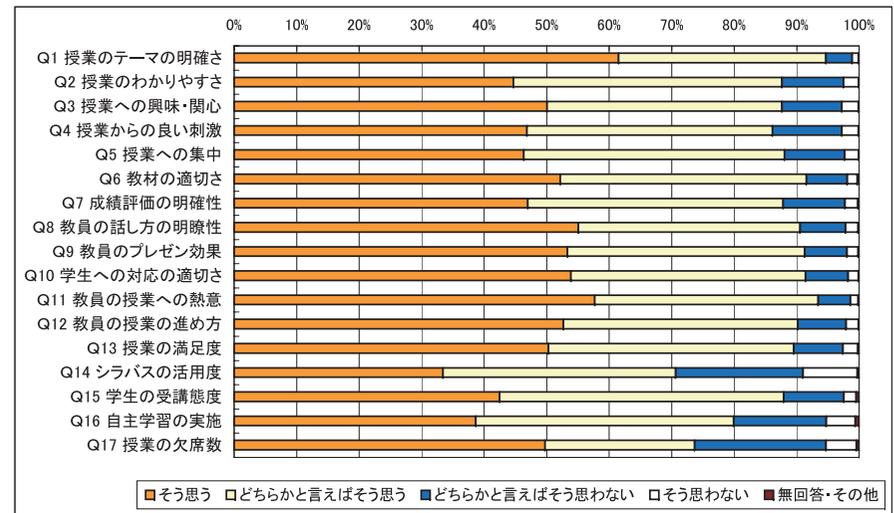
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	全学	教員	曜日・講時	履修者数	13,967名
科目				回収数(率)	10,224名 73.2%

単純集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ■ …平均が0.1~0.49増加 ■ …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 6357	3405	355	101	5	3.6	0.61	3.6	
	% 62.2	33.3	3.5	1.0	0.0				
Q2 授業の内容を理解できた	人 4674	4471	901	172	5	3.3	0.71	3.3	
	% 45.7	43.7	8.8	1.7	0.0				
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 5104	4022	879	210	8	3.4	0.73	3.4	
	% 49.9	39.3	8.6	2.1	0.1				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 4862	4140	988	226	7	3.3	0.74	3.3	
	% 47.6	40.5	9.7	2.2	0.1				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 4719	4330	970	197	7	3.3	0.73	3.3	
	% 46.2	42.4	9.5	1.9	0.1				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 5367	4029	669	141	17	3.4	0.68	3.4	
	% 52.5	39.4	6.5	1.4	0.2				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 5023	4090	906	191	13	3.4	0.72	3.4	
	% 49.1	40.0	8.9	1.9	0.1				
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 5808	3642	616	149	8	3.5	0.68	3.5	
	% 56.8	35.6	6.0	1.5	0.1				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 5631	3774	655	156	7	3.5	0.68	3.5	
	% 55.1	36.9	6.4	1.5	0.1				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 5586	3854	627	143	13	3.5	0.67	3.5	
	% 54.6	37.7	6.1	1.4	0.1				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 6004	3652	435	120	12	3.5	0.64	3.5	
	% 58.7	35.7	4.3	1.2	0.1				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 5528	3787	723	172	13	3.4	0.70	3.4	
	% 54.1	37.0	7.1	1.7	0.1				
Q13 私はこの授業に満足した	人 5175	4082	738	207	21	3.4	0.71	3.4	
	% 50.6	39.9	7.2	2.0	0.2				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 3585	3822	1899	893	24	3.0	0.94	3.0	
	% 35.1	37.4	18.6	8.7	0.2				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 4300	4683	996	189	55	3.3	0.72	3.3	
	% 42.1	45.8	9.7	1.8	0.5				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 4038	4325	1371	437	52	3.2	0.82	3.2	○
	% 39.5	42.3	13.4	4.3	0.5				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 4170	2786	2660	565	42	3.0	0.94	3.0	
	% 40.8	27.3	26.0	5.5	0.4				

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

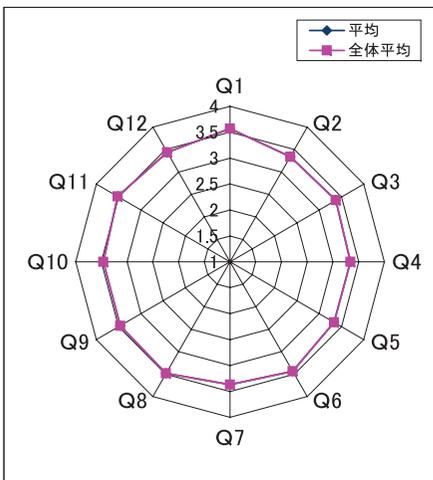
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 5224	3551	324	37	9	3.5	0.59	3.5
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 5626	3193	286	38	2	3.6	0.58	3.6
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 5472	3326	308	36	3	3.6	0.58	3.6
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 5743	3162	204	29	7	3.6	0.55	3.6
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 5364	3365	354	55	7	3.5	0.60	3.5
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 4208	4241	590	65	41	3.4	0.64	3.4
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 3771	2509	2339	489	37	3.0	0.94	3.0

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

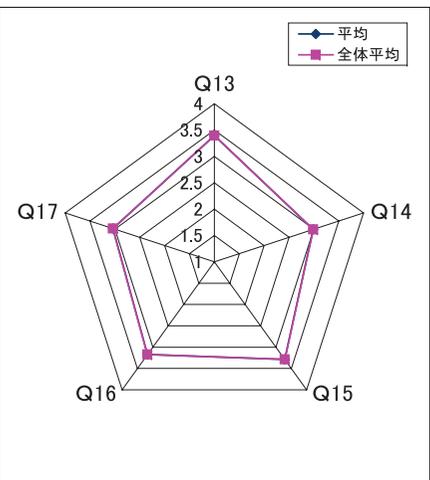
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 143	477	344	104	5	2.6	0.84	2.6
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 182	447	330	111	3	2.7	0.88	2.7
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 159	447	346	120	1	2.6	0.87	2.6
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 261	488	231	91	2	2.9	0.88	2.9
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 164	421	368	117	3	2.6	0.88	2.6
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 92	441	405	124	11	2.5	0.81	2.5
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 399	276	320	76	2	2.9	0.97	2.9

評価レーダーチャート

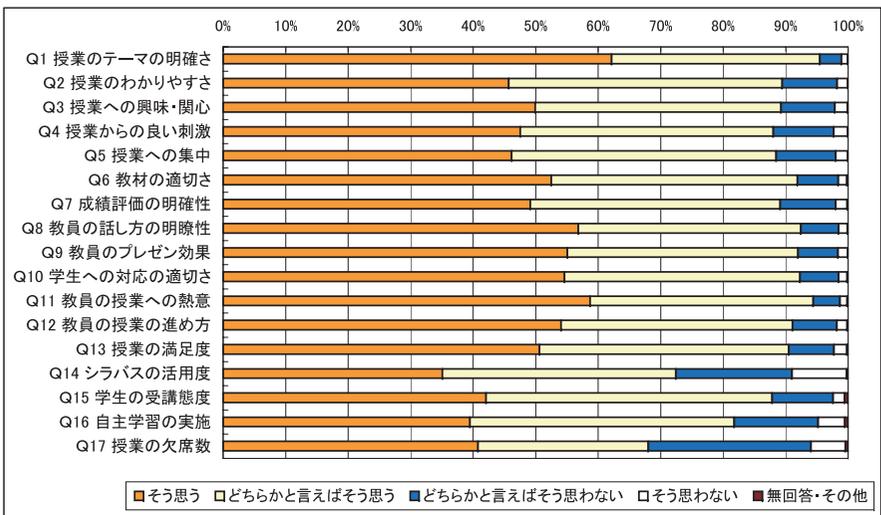
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(1) 共通教育科目	教員	曜日・講時	履修者数	10,446名
科目				回収数(率)	7,806名 74.7%

集計

(〇 …一番回答の多い選択肢 〇 …全体平均より高い 〇 …去年より平均が0.5以上増加 〇 …平均が0.1~0.49増加 ▼ …平均が0.1以上減少)

質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	4485	2806	402	110	2		3.5	0.66	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	3218	3462	911	212	2		3.2	0.76	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	3348	3181	993	276	7		3.2	0.80	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	3133	3284	1110	276	2		3.2	0.81	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	3152	3466	964	220	3		3.2	0.77	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	3634	3329	124	149	20		3.3	0.72	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	3336	3302	943	215	9		3.3	0.77	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3955	3007	675	162	6		3.4	0.73	3.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	3810	3154	682	151	8		3.4	0.72	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	3689	3220	729	158	9		3.3	0.73	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	4141	3054	476	123	11		3.4	0.68	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	3656	3155	801	182	11		3.3	0.75	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	3440	3277	824	254	10		3.3	0.78	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	2341	2866	1747	834	17		2.9	0.97	3.0	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	2907	3725	946	198	29		3.2	0.75	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	2842	3194	1293	427	49		3.1	0.86	3.2	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	3710	1944	1775	347	29		3.2	0.93	3.1	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

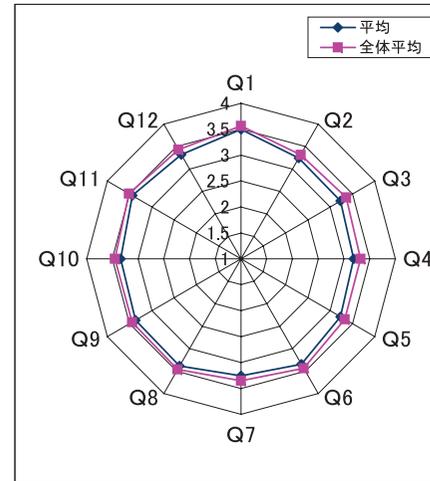
質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	3497	2822	314	31	16		3.5	0.61	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	3802	2560	280	35	3		3.5	0.60	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	3661	2698	290	25	6		3.5	0.60	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	3894	2539	218	22	7		3.5	0.58	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	3516	2737	375	46	6		3.5	0.63	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	2818	3271	507	59	25		3.3	0.65	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	3208	1666	1493	289	24		3.2	0.92	3.1	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

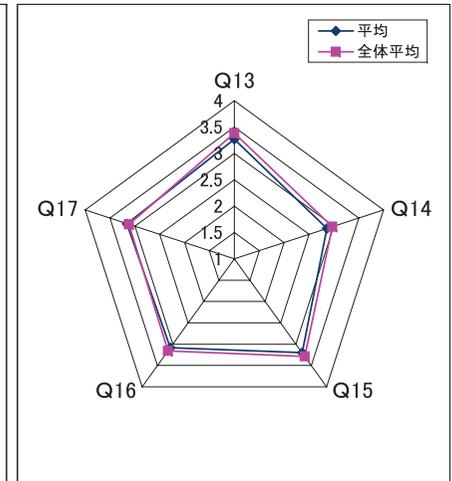
質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	137	505	359	118	4		2.6	0.84	2.6	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	153	445	395	127	3		2.6	0.86	2.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	148	455	392	126	2		2.6	0.86	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	246	515	258	101	3		2.8	0.88	2.8	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	139	417	426	136	5		2.5	0.86	2.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	89	453	439	138	4		2.4	0.81	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	502	277	281	58	5		3.1	0.95	3.1	

評価レーダーチャート

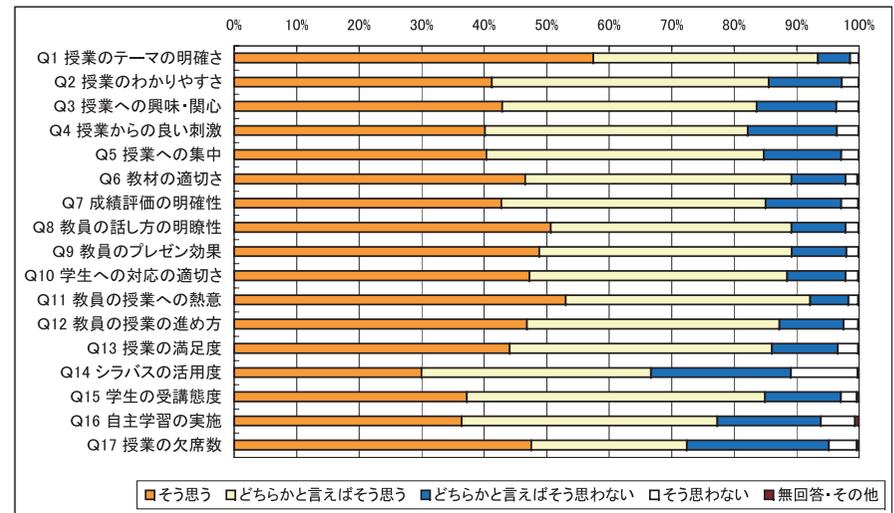
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(1) 共通教育科目	教員	曜日・講時	履修者数	4,952名
科目				回収数(率)	3,819名 77.1%

単純集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ■ …平均が0.1~0.49増加 ■ …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 2212 % 57.9	1367 35.8	197 5.2	41 1.1	2 0.1	3.5	0.65	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	人 1568 % 41.1	1659 43.4	479 12.5	111 2.9	2 0.1	3.2	0.78	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 1653 % 43.3	1508 39.5	511 13.4	144 3.8	3 0.1	3.2	0.82	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 1516 % 39.7	1575 41.2	585 15.3	143 3.7	0 0.0	3.2	0.82	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 1563 % 40.9	1687 44.2	466 12.2	101 2.6	2 0.1	3.2	0.76	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1804 % 47.2	1629 42.7	305 8.0	66 1.7	15 0.4	3.4	0.70	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1610 % 42.2	1634 42.8	475 12.4	97 2.5	3 0.1	3.2	0.77	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1938 % 50.7	1461 38.3	343 9.0	74 1.9	3 0.1	3.4	0.73	3.4	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1848 % 48.4	1573 41.2	328 8.6	65 1.7	5 0.1	3.4	0.71	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1806 % 47.3	1575 41.2	368 9.6	65 1.7	5 0.1	3.3	0.72	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 2017 % 52.8	1508 39.5	243 6.4	44 1.2	7 0.2	3.4	0.67	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1783 % 46.7	1557 40.8	395 10.3	79 2.1	5 0.1	3.3	0.74	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	人 1694 % 44.4	1593 41.7	414 10.8	112 2.9	6 0.2	3.3	0.77	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 1124 % 29.4	1385 36.3	913 23.9	387 10.1	10 0.3	2.9	0.96	3.0	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1441 % 37.7	1813 47.5	459 12.0	91 2.4	15 0.4	3.2	0.74	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 1398 % 36.6	1541 40.4	668 17.5	181 4.7	31 0.8	3.1	0.85	3.1	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 1947 % 51.0	880 23.0	805 21.1	164 4.3	21 0.5	3.2	0.92	3.2	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

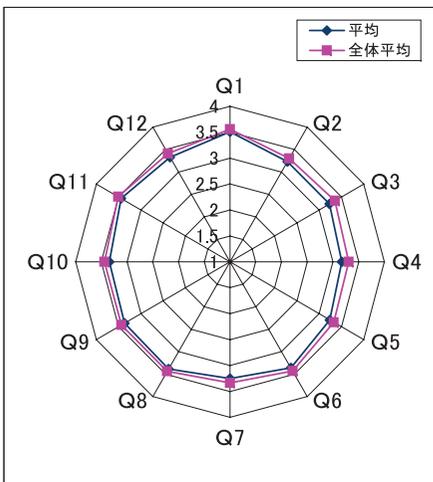
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1726	1331	145	12	13	3.5	0.60	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1854	1222	137	12	2	3.5	0.60	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1767	1313	136	8	3	3.5	0.59	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1884	1225	110	5	3	3.5	0.57	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1709	1327	174	15	2	3.5	0.62	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1391	1568	227	26	15	3.3	0.65	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 1673	737	664	137	16	3.2	0.92	3.2	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

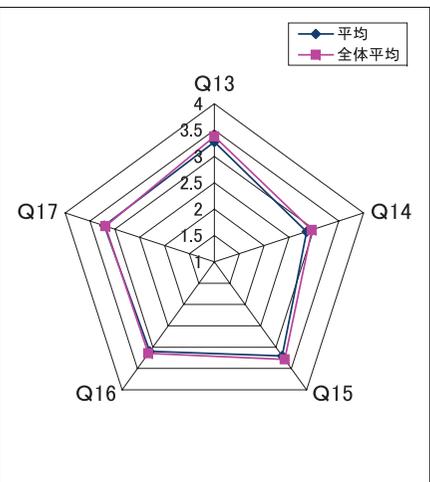
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 78	296	160	54	2	2.7	0.82	2.6	○
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 84	237	206	62	1	2.6	0.86	2.5	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 80	259	192	57	2	2.6	0.84	2.6	○
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 132	283	133	39	3	2.9	0.84	2.8	○
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 73	229	221	64	3	2.5	0.85	2.5	○
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 50	244	232	64	0	2.5	0.80	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 274	142	142	27	5	3.1	0.94	3.2	

評価レーダーチャート

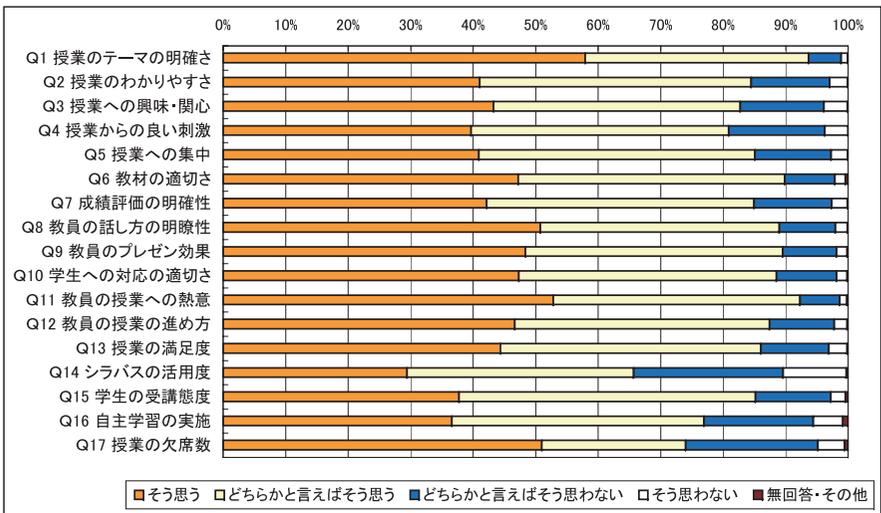
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部 (1) 共通教育科目	教員	曜日・講時	履修者数	5,494名
科目			回収数(率)	3,987名 72.6%

単純集計

(〇…一番回答の多い選択肢 ㊦…全体平均より高い ㊧…去年より平均が0.5以上増加 ㊨…平均が0.1~0.49増加 ㊩…平均が0.1以上減少)

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 2273 % 57.0	1439 36.1	205 5.1	69 1.7	0 0.0	3.5	0.68	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	人 1650 % 41.4	1803 45.2	432 10.8	101 2.5	0 0.0	3.3	0.75	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 1695 % 42.5	1673 42.0	482 12.1	132 3.3	4 0.1	3.2	0.79	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 1617 % 40.6	1709 42.9	525 13.2	133 3.3	2 0.1	3.2	0.79	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 1589 % 39.9	1779 44.6	498 12.5	119 3.0	1 0.0	3.2	0.77	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1830 % 45.9	1700 42.6	368 9.2	83 2.1	5 0.1	3.3	0.73	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1726 % 43.3	1668 41.8	468 11.7	118 3.0	6 0.2	3.3	0.78	3.4	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 2017 % 50.6	1546 38.8	332 8.3	88 2.2	3 0.1	3.4	0.73	3.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1982 % 49.2	1581 39.7	354 8.9	86 2.2	3 0.1	3.4	0.73	3.5	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1883 % 47.2	1645 41.3	361 9.1	93 2.3	4 0.1	3.3	0.74	3.5	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 2124 % 53.3	1546 38.8	233 5.8	79 2.0	4 0.1	3.4	0.69	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1873 % 47.0	1598 40.1	406 10.2	103 2.6	6 0.2	3.3	0.76	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	人 1746 % 43.8	1684 42.2	410 10.3	142 3.6	4 0.1	3.3	0.78	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 1217 % 30.5	1481 37.2	834 20.9	447 11.2	7 0.2	2.9	0.97	3.0	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1466 % 36.8	1912 48.0	487 12.2	107 2.7	14 0.4	3.2	0.75	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 1444 % 36.2	1653 41.5	625 15.7	246 6.2	18 0.5	3.1	0.87	3.2	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか 【基準：4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)】	人 1783 % 44.2	1064 26.7	968 24.3	183 4.6	8 0.2	3.1	0.93	3.0	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

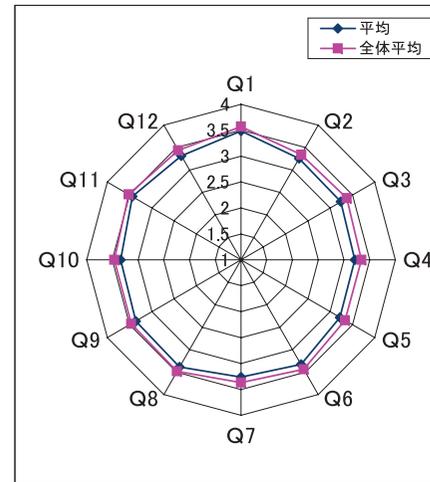
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1771	1491	169	19	3	3.5	0.62	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1948	1338	143	23	1	3.5	0.61	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1894	1385	154	17	3	3.5	0.61	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 2010	1314	108	17	4	3.5	0.58	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1807	1410	201	31	4	3.4	0.65	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1427	1703	280	33	10	3.3	0.66	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 1535	929	829	152	8	3.1	0.92	3.0	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

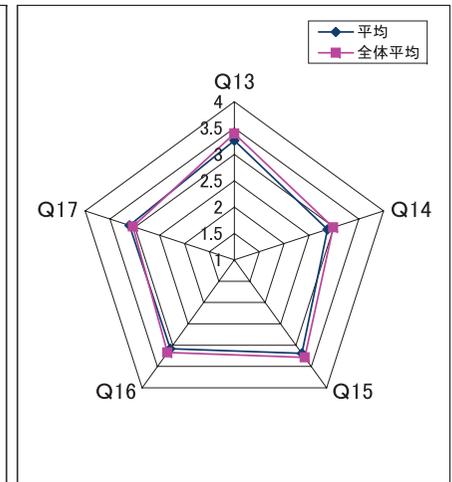
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 59	209	199	64	2	2.5	0.84	2.6	▼
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 69	208	189	65	2	2.5	0.87	2.7	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 68	196	200	69	0	2.5	0.87	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 114	232	125	62	0	2.7	0.92	2.9	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 66	188	205	72	2	2.5	0.88	2.6	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 39	209	207	74	4	2.4	0.82	2.5	▼
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 228	135	139	31	0	3.1	0.96	2.9	

評価レーダーチャート

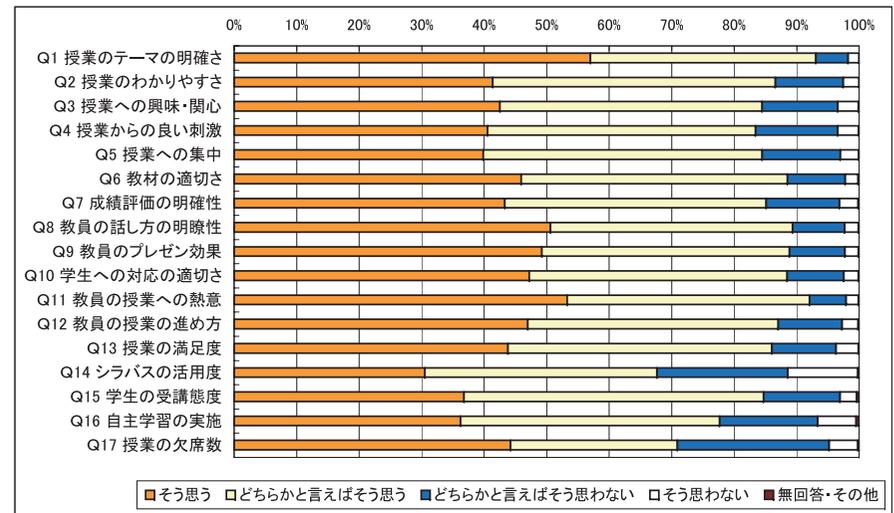
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(6) その他の資格科目	教員	曜日・講時	履修者数	1,251名
科目				回収数(率)	958名 76.6%

単純集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ■ …平均が0.1~0.49増加 ■ …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 610 % 63.7	308 32.2	31 3.2	8 0.8	1 0.1	3.6	0.60	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	人 409 % 42.7	430 44.9	99 10.3	20 2.1	0 0.0	3.3	0.73	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 473 % 49.4	375 39.1	92 9.6	18 1.9	0 0.0	3.4	0.73	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 449 % 46.9	399 41.6	89 9.3	21 2.2	0 0.0	3.3	0.73	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 418 % 43.6	439 45.8	78 8.1	22 2.3	1 0.1	3.3	0.72	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 512 % 53.4	379 39.6	48 5.0	18 1.9	1 0.1	3.4	0.68	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 466 % 48.8	392 40.9	81 8.5	17 1.8	2 0.2	3.4	0.71	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 533 % 55.6	343 35.8	63 6.6	19 2.0	0 0.0	3.5	0.71	3.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 520 % 54.3	367 38.3	50 5.2	21 2.2	0 0.0	3.4	0.70	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 572 % 59.7	323 33.7	52 5.4	11 1.1	0 0.0	3.5	0.65	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 594 % 62.0	316 33.0	33 3.4	14 1.5	1 0.1	3.6	0.64	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 525 % 54.8	344 35.9	73 7.6	16 1.7	0 0.0	3.4	0.71	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	人 487 % 50.8	390 40.7	58 6.1	20 2.1	3 0.3	3.4	0.70	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 377 % 39.4	359 37.5	147 15.3	73 7.6	2 0.2	3.1	0.92	3.0	○
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 424 % 44.3	438 45.7	75 7.8	14 1.5	7 0.7	3.3	0.69	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 399 % 41.8	399 41.6	118 12.3	31 3.2	11 1.1	3.2	0.79	3.2	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 439 % 45.8	261 27.2	223 23.3	30 3.1	5 0.5	3.2	0.89	3.1	▼

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

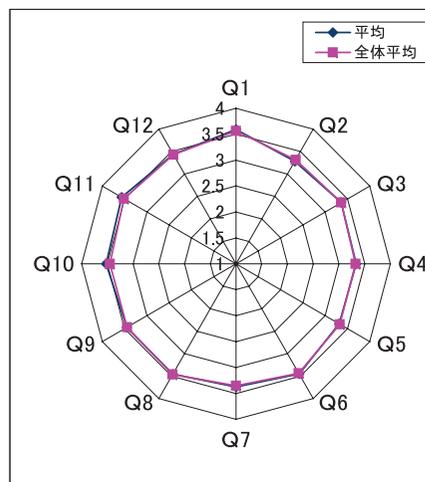
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 497	321	17	3	1	3.6	0.55	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 515	291	31	2	0	3.6	0.58	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 507	305	25	2	0	3.6	0.56	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 568	256	12	2	1	3.7	0.52	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 511	291	35	2	0	3.6	0.59	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 411	381	38	3	6	3.4	0.60	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 388	233	190	23	5	3.2	0.88	3.1	▼

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

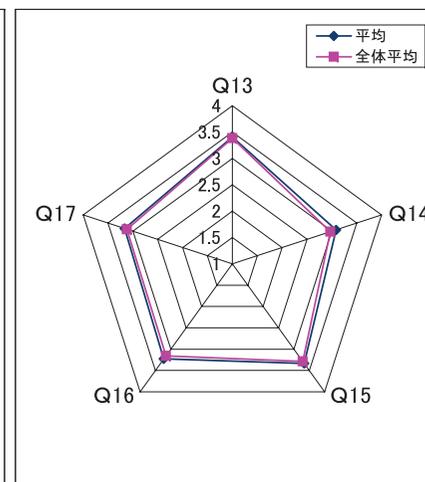
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 15	58	31	15	0	2.6	0.86	2.6	▼
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 18	52	32	17	0	2.6	0.91	2.6	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 13	62	25	19	0	2.6	0.88	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 26	60	21	12	0	2.8	0.88	2.8	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 14	53	38	14	0	2.6	0.85	2.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 13	57	37	11	1	2.6	0.80	2.5	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 51	28	33	7	0	3.0	0.97	3.1	▼

評価レーダーチャート

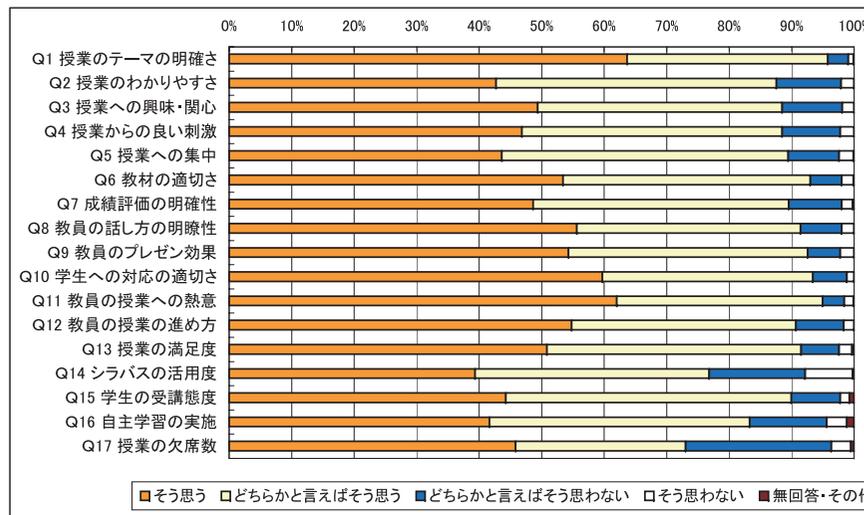
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(6) その他の資格科目	教員	曜日・講時	履修者数	729名
科目				回収数(率)	562名 77.1%

単集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ■ …平均が0.1~0.49増加 ■ …平均が0.1以上減少)

質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	359	177	19	6	1		3.6	0.61	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	246	258	49	9	0		3.3	0.70	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	283	222	48	9	0		3.4	0.71	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	270	230	50	12	0		3.3	0.73	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	246	256	48	11	1		3.3	0.71	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	317	215	21	9	0		3.5	0.65	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	272	234	43	11	2		3.4	0.71	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	309	206	38	9	0		3.5	0.69	3.4	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	310	218	26	8	0		3.5	0.65	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	343	192	20	7	0		3.5	0.63	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	352	185	14	10	1		3.6	0.63	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	311	205	38	8	0		3.5	0.68	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	295	226	28	11	2		3.4	0.68	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	196	214	99	51	2		3.0	0.94	3.0	○
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	241	266	41	8	6		3.3	0.67	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	413	232	74	18	6		3.2	0.79	3.1	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	287	152	109	13	1		3.3	0.85	3.2	▼

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

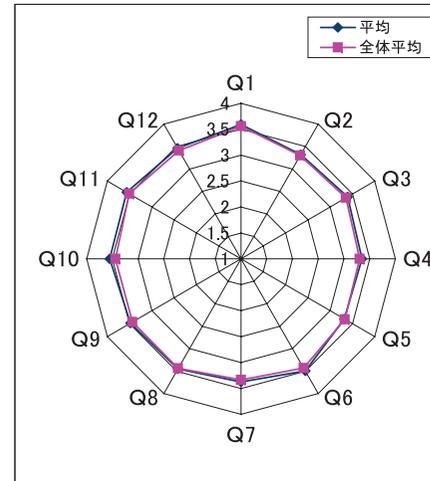
質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	309	187	8	0	0		3.6	0.52	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	302	183	18	1	0		3.6	0.57	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	304	189	11	0	0		3.6	0.54	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	338	160	4	1	1		3.7	0.50	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	304	178	21	1	0		3.6	0.58	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	236	239	21	2	6		3.4	0.59	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	257	138	98	10	1		3.3	0.84	3.2	▼

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

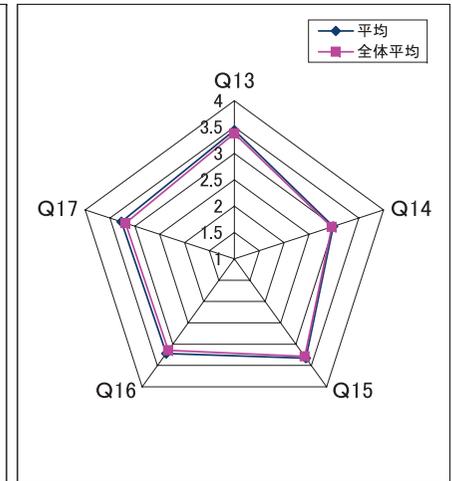
質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	8	28	13	9	0		2.6	0.91	2.6	▼
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	7	23	20	8	0		2.5	0.88	2.5	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	6	29	15	8	0		2.6	0.85	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	14	25	10	9	0		2.8	0.99	2.8	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	7	27	17	7	0		2.6	0.85	2.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	5	27	20	6	0		2.5	0.79	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	30	14	11	3	0		3.2	0.93	3.2	

評価レーダーチャート

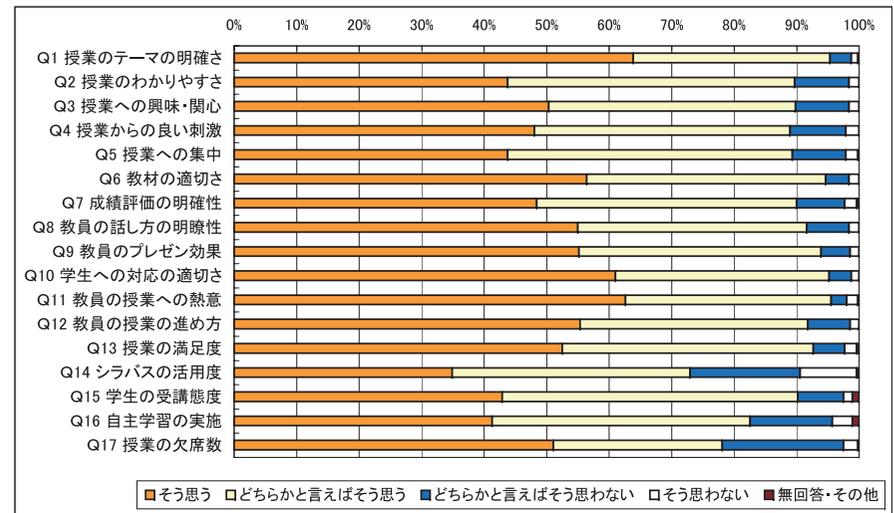
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(6) その他の資格科目	教員	曜日・講時	履修者数	522名
科目				回収数(率)	396名 75.9%

単純集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ■ …平均が0.1~0.49増加 ■ …平均が0.1以上減少)

質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	251	131	12	2	0	0	3.6	0.58	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	163	172	50	11	0	0	3.2	0.77	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	190	153	44	9	0	0	3.3	0.76	3.4	○
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	179	169	39	9	0	0	3.3	0.74	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	172	183	30	11	0	0	3.3	0.73	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	195	164	27	9	1	0	3.4	0.71	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	194	158	38	6	0	0	3.4	0.72	3.4	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	224	137	25	10	0	0	3.5	0.72	3.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	210	149	24	13	0	0	3.4	0.75	3.5	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	229	131	62	4	0	0	3.5	0.69	3.5	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	242	131	19	4	0	0	3.5	0.64	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	214	139	35	8	0	0	3.4	0.73	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	192	164	30	9	1	0	3.4	0.72	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	181	145	48	22	0	0	3.2	0.87	3.0	○
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	183	172	34	6	1	0	3.3	0.70	3.3	○
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	167	167	44	13	5	0	3.2	0.78	3.2	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	152	109	114	17	4	0	3.0	0.92	3.0	▼

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

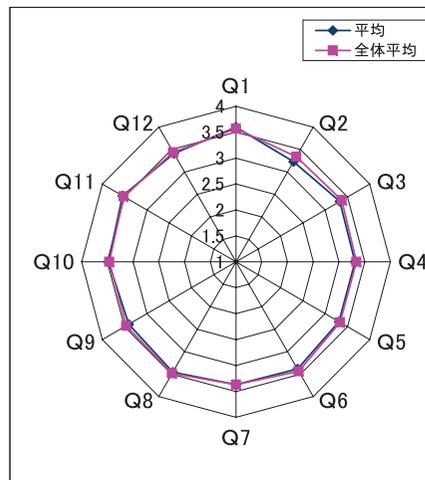
質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	188	134	9	3	1	0	3.5	0.60	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	213	108	13	1	0	0	3.6	0.58	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	203	116	14	2	0	0	3.6	0.61	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	230	96	8	1	0	0	3.7	0.54	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	207	113	14	1	0	0	3.6	0.59	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	175	142	17	1	0	0	3.5	0.61	3.4	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	131	95	92	13	4	0	3.0	0.91	3.0	▼

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

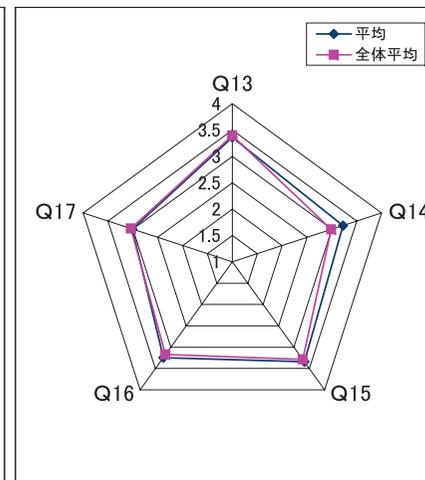
質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	7	30	18	6	0	0	2.6	0.81	2.6	▼
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	11	29	12	9	0	0	2.7	0.93	2.7	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	7	33	10	11	0	0	2.6	0.91	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	12	35	11	3	0	0	2.9	0.75	2.9	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	7	28	21	7	0	0	2.5	0.84	2.6	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	8	30	17	5	1	0	2.7	0.81	2.5	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	21	14	22	4	0	0	2.9	0.97	2.9	▼

評価レーダーチャート

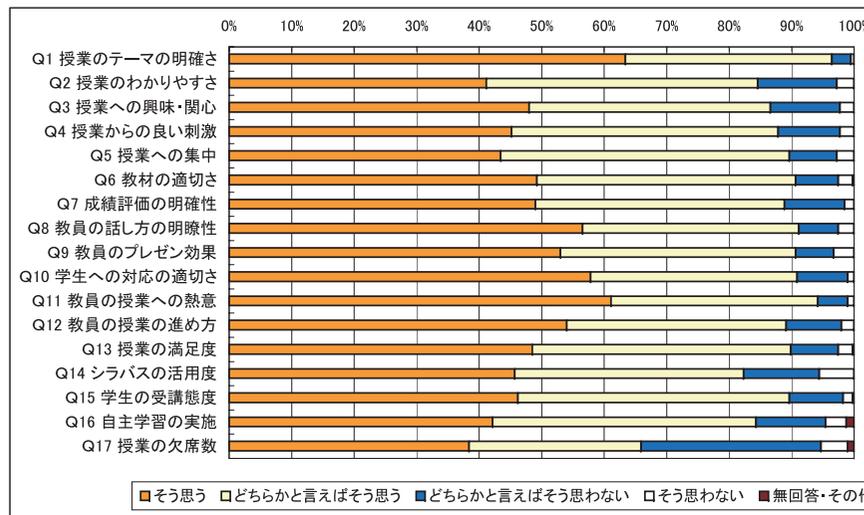
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(2) 英語英文学科	教員	曜日・講時	履修者数	4,244名
科目				回収数(率)	3,086名 72.7%

単純集計

(…一番回答の多い選択肢 …全体平均より高い …去年より平均が0.5以上増加 …平均が0.1~0.49増加 …平均が0.1以上減少)

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 2306	682	76	20	2	3.7	0.54	3.6	
	% 74.7	22.1	2.5	0.6	0.1				
Q2 授業の内容を理解できた	人 1966	917	174	28	1	3.6	0.64	3.3	○
	% 63.7	29.7	5.6	0.9	0.0				
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 2101	779	156	45	5	3.6	0.65	3.4	○
	% 68.1	25.2	5.1	1.5	0.2				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 2039	811	185	49	2	3.6	0.68	3.3	○
	% 66.1	26.3	6.0	1.6	0.1				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 2054	855	144	31	2	3.6	0.63	3.3	○
	% 68.6	27.7	4.7	1.0	0.1				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 2148	771	129	29	9	3.6	0.61	3.4	○
	% 69.6	25.0	4.2	0.9	0.3				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1948	910	172	47	9	3.5	0.67	3.3	○
	% 63.1	29.5	5.6	1.5	0.3				
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 2208	692	135	46	5	3.6	0.64	3.5	
	% 71.5	22.4	4.4	1.5	0.2				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 2223	677	143	40	3	3.6	0.63	3.4	
	% 72.0	21.9	4.6	1.3	0.1				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 2223	716	112	33	2	3.7	0.60	3.4	
	% 72.0	23.2	3.6	1.1	0.1				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 2348	624	84	28	2	3.7	0.56	3.5	
	% 76.1	20.2	2.7	0.9	0.1				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 2221	705	121	37	2	3.7	0.61	3.4	
	% 72.0	22.8	3.9	1.2	0.1				
Q13 私はこの授業に満足した	人 2105	790	149	38	4	3.6	0.64	3.4	
	% 68.2	25.6	4.8	1.2	0.1				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 1504	1004	386	188	4	3.2	0.89	3.0	○
	% 48.7	32.5	12.5	6.1	0.1				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1855	1010	172	34	15	3.5	0.65	3.3	○
	% 60.1	32.7	5.6	1.1	0.5				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 1602	1150	259	62	13	3.4	0.73	3.2	○
	% 51.9	37.3	8.4	2.0	0.4				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 1207	736	84	24	18	2.9	1.00	3.1	
	% 39.1	23.8	28.6	7.8	0.6				

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

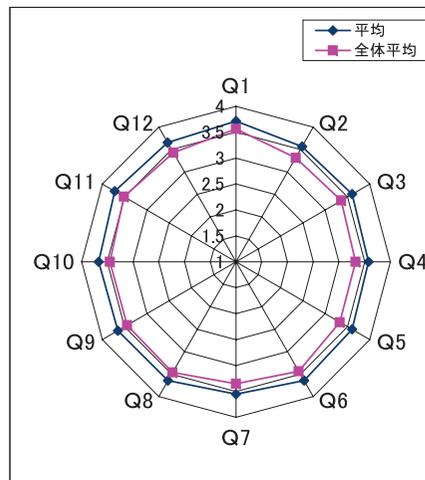
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 2116	683	70	7	7	3.7	0.52	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 2165	626	74	15	3	3.7	0.53	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 2187	607	77	11	1	3.7	0.53	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 2284	548	42	8	1	3.8	0.47	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 2181	639	51	11	1	3.7	0.50	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1834	926	94	17	12	3.6	0.58	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 1126	690	822	228	17	2.9	1.00	3.1	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

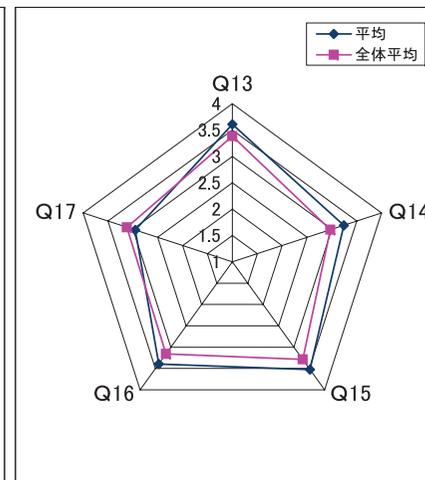
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 32	88	59	22	1	2.6	0.88	2.6	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 43	66	61	31	1	2.6	0.99	2.6	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 36	70	66	29	1	2.6	0.94	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 64	76	42	20	0	2.9	0.96	2.8	○
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 40	66	70	26	0	2.6	0.95	2.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 21	84	78	17	2	2.5	0.79	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 81	46	62	13	0	3.0	0.98	3.1	

評価レーダーチャート

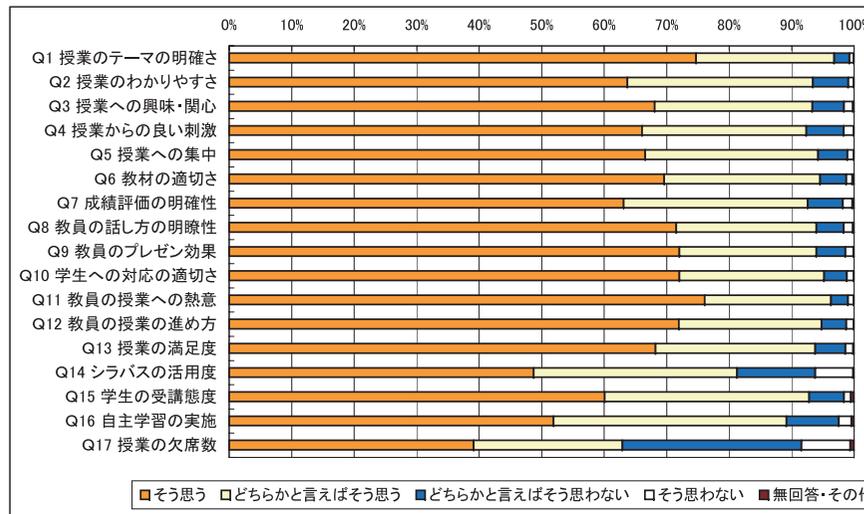
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(2) 英語英文学科	教員	曜日・講時	履修者数	2,352名
科目				回収数(率)	1,782名 75.8%

単純集計

(…一番回答の多い選択肢 …全体平均より高い …去年より平均が0.5以上増加 …平均が0.1~0.49増加 …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 1302	406	55	18	1	3.7	0.58	3.6	
	% 73.1	22.8	3.1	1.0	0.1				
Q2 授業の内容を理解できた	人 1082	554	122	24	0	3.5	0.68	3.3	
	% 60.7	31.1	6.8	1.3	0.0				
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 1163	471	110	34	4	3.6	0.70	3.4	
	% 65.3	26.4	6.2	1.9	0.2				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 1133	487	123	38	1	3.5	0.72	3.3	
	% 63.6	27.3	6.9	2.1	0.1				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 1146	515	96	25	0	3.6	0.66	3.3	
	% 64.3	28.9	5.4	1.4	0.0				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1200	466	87	24	5	3.6	0.65	3.4	
	% 67.3	26.2	4.9	1.3	0.3				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1072	551	113	38	8	3.5	0.71	3.3	○
	% 60.2	30.9	6.3	2.1	0.4				
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1222	420	99	37	4	3.6	0.69	3.4	
	% 68.6	23.6	5.6	2.1	0.2				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1228	424	95	33	2	3.6	0.68	3.4	
	% 68.9	23.8	5.3	1.9	0.1				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1235	440	82	24	1	3.6	0.64	3.4	
	% 69.3	24.7	4.6	1.3	0.1				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1390	369	61	21	1	3.7	0.59	3.5	
	% 74.6	20.7	3.4	1.2	0.1				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1236	433	87	25	1	3.6	0.65	3.4	
	% 69.4	24.3	4.9	1.4	0.1				
Q13 私はこの授業に満足した	人 1159	488	104	30	1	3.6	0.68	3.4	
	% 65.0	27.4	5.8	1.7	0.1				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 833	585	240	122	2	3.2	0.92	3.0	
	% 46.7	32.8	13.5	6.8	0.1				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1038	599	115	25	5	3.5	0.68	3.3	
	% 58.2	33.6	6.5	1.4	0.3				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 895	668	164	49	6	3.4	0.76	3.1	○
	% 50.2	37.5	9.2	2.7	0.3				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 768	402	48	127	5	3.0	0.99	3.2	
	% 43.1	22.6	26.9	7.1	0.3				

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

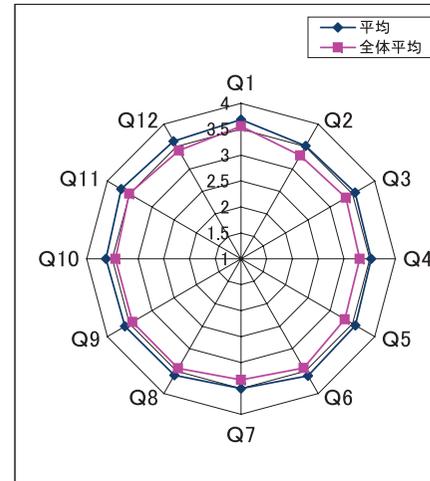
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1179	405	43	5	4	3.7	0.53	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1194	375	55	9	3	3.7	0.56	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1204	376	48	7	1	3.7	0.54	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1290	312	29	4	1	3.8	0.48	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1209	386	37	3	1	3.7	0.51	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1023	537	61	12	3	3.6	0.60	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 710	367	436	118	5	3.0	1.00	3.2	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

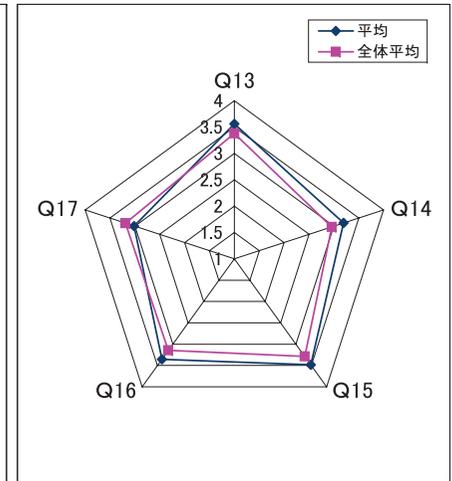
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 21	61	44	19	1	2.6	0.89	2.6	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 28	45	44	28	1	2.5	1.01	2.5	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 24	48	47	26	1	2.5	0.97	2.6	○
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 40	57	32	17	0	2.8	0.96	2.8	○
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 27	47	50	22	0	2.5	0.96	2.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 15	62	54	13	2	2.5	0.80	2.5	▼
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 58	35	44	9	0	3.0	0.97	3.2	▼

評価レーダーチャート

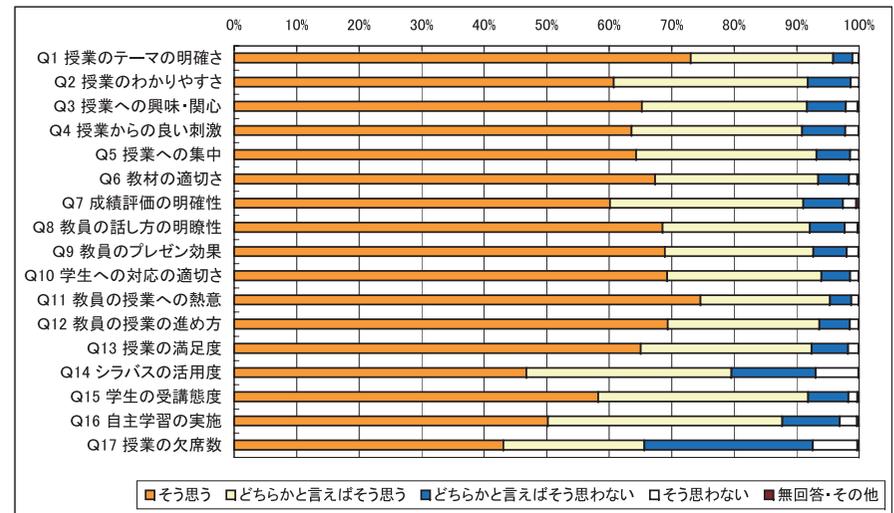
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(2) 英語英文学科	教員	曜日・講時	履修者数	1,892名
科目				回収数(率)	1,304名 68.9%

単純集計

(…一番回答の多い選択肢 …全体平均より高い …去年より平均が0.5以上増加 …平均が0.1~0.49増加 …平均が0.1以上減少)

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	1004	276	21	2	1	3.8	0.48	3.6	○
Q2 授業の内容を理解できた	894	363	52	4	1	3.6	0.58	3.3	○
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	938	308	46	11	1	3.7	0.59	3.4	○
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	906	324	62	11	1	3.6	0.62	3.3	○
Q5 この授業では、学習に集中することができた	908	340	48	6	2	3.7	0.57	3.3	○
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	948	305	42	5	4	3.7	0.55	3.4	○
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	876	359	59	9	1	3.6	0.61	3.4	○
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	986	272	36	9	1	3.7	0.55	3.5	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	995	253	48	7	1	3.7	0.56	3.5	○
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	988	276	30	9	1	3.7	0.54	3.5	○
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	1018	255	23	7	1	3.8	0.50	3.5	○
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	985	272	34	12	1	3.7	0.56	3.4	○
Q13 私はこの授業に満足した	946	302	45	8	3	3.7	0.57	3.4	○
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	671	419	146	66	2	3.3	0.86	3.0	○
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	817	411	57	9	10	3.6	0.61	3.3	○
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	542	370	73	10	5	3.5	0.67	3.2	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	439	334	404	114	13	2.9	0.99	3.0	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

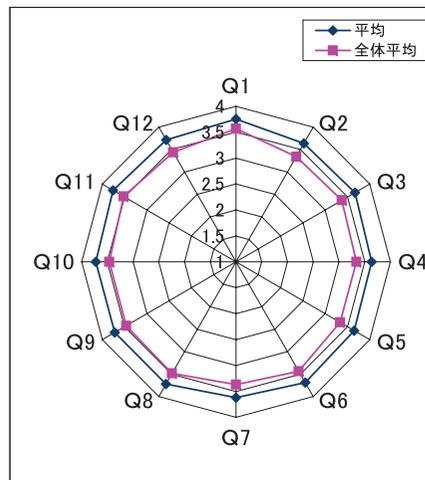
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	937	278	27	2	3	3.7	0.50	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	971	251	19	6	0	3.8	0.49	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	983	231	29	4	0	3.8	0.50	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	994	236	13	4	0	3.8	0.46	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	972	253	14	8	0	3.8	0.50	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	811	389	33	5	9	3.6	0.56	3.4	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	416	323	386	110	12	2.8	0.99	3.0	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

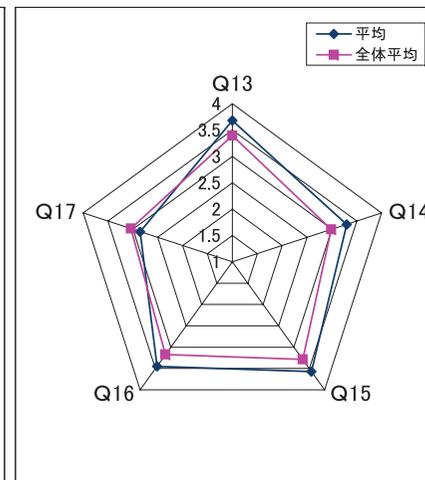
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	11	27	15	3	0	2.8	0.80	2.6	○
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	15	21	17	3	0	2.9	0.87	2.7	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	12	22	19	3	0	2.8	0.84	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	24	19	10	3	0	3.1	0.89	2.9	○
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	13	19	20	4	0	2.7	0.90	2.6	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	6	22	24	4	0	2.5	0.78	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	23	11	18	4	0	2.9	1.01	2.9	

評価レーダーチャート

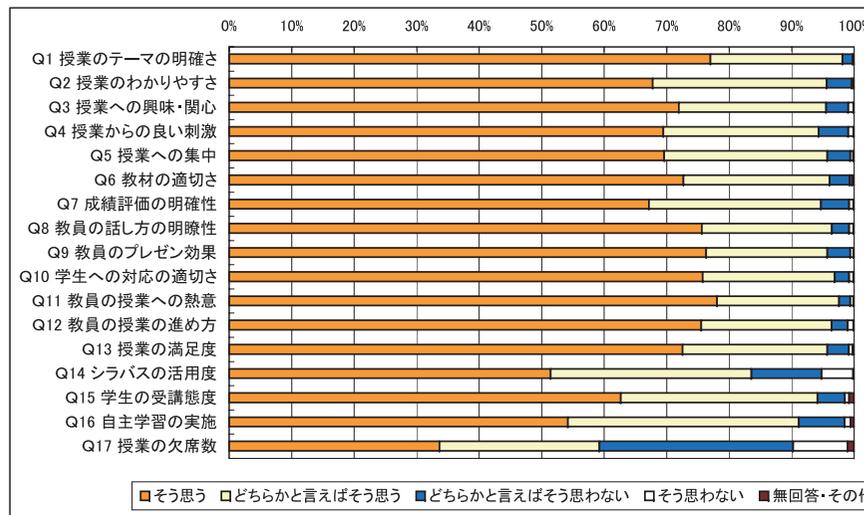
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(3) 人間文化学科	教員	曜日・講時	履修者数	2,604名
科目				回収数(率)	1,960名 75.3%

単純集計

(〇…一番回答の多い選択肢 ㊦…全体平均より高い ㊧…去年より平均が0.5以上増加 ㊨…平均が0.1~0.49増加 ㊩…平均が0.1以上減少)

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 1260 % 64.3	609 31.1	67 3.4	23 1.2	1 0.1	3.6	0.62	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	人 914 % 46.6	833 42.5	177 9.0	33 1.7	3 0.2	3.3	0.71	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 1070 % 54.6	699 35.7	161 8.2	28 1.4	2 0.1	3.4	0.70	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 1004 % 51.2	742 37.9	177 9.0	34 1.7	3 0.2	3.4	0.72	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 943 % 48.1	801 40.9	190 9.7	25 1.3	1 0.1	3.4	0.71	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1110 % 56.6	735 37.5	90 4.6	20 1.0	5 0.3	3.5	0.64	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1037 % 52.9	757 38.6	137 7.0	26 1.3	3 0.2	3.4	0.68	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1196 % 61.0	644 32.9	99 5.1	20 1.0	1 0.1	3.5	0.64	3.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1160 % 59.2	683 34.8	92 4.7	21 1.1	4 0.2	3.5	0.64	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1191 % 60.8	661 33.7	85 4.3	20 1.0	3 0.2	3.5	0.63	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1288 % 65.7	589 30.1	61 3.1	20 1.0	2 0.1	3.6	0.60	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1175 % 59.9	650 33.2	104 5.3	29 1.5	2 0.1	3.5	0.67	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	人 1096 % 55.9	694 35.4	122 6.2	38 1.9	10 0.5	3.5	0.70	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 826 % 42.1	779 39.7	253 12.9	92 4.7	10 0.5	3.2	0.84	3.0	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 863 % 44.0	885 45.2	170 8.7	25 1.3	17 0.9	3.3	0.69	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 747 % 38.1	851 43.4	278 14.2	71 3.6	13 0.7	3.2	0.80	3.2	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 844 % 43.1	491 25.1	486 24.8	131 6.7	8 0.4	3.0	0.97	3.1	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

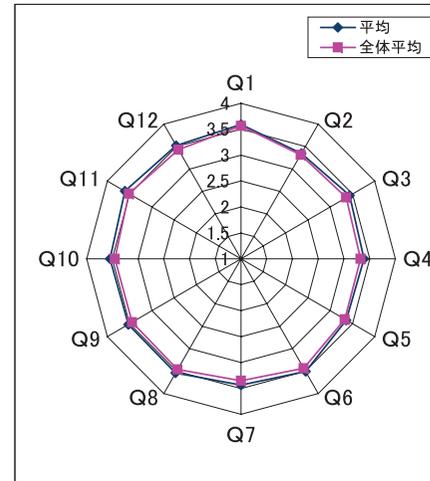
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1072 % 44.0	628 25.1	39 1.5	5 0.2	3 0.1	3.6	0.55	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1155 % 46.2	559 21.3	30 1.1	3 0.1	0	3.6	0.52	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1116 % 43.8	593 22.8	30 1.1	5 0.2	3	3.6	0.54	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1220 % 47.9	502 18.7	20 0.7	4 0.1	1	3.7	0.50	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1133 % 45.1	566 21.2	39 1.4	8 0.3	1	3.6	0.56	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 838 % 31.4	797 30.1	89 3.3	10 0.4	13	3.4	0.62	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 736 % 28.6	444 17.0	441 17.0	119 4.5	7	3.0	0.97	3.1	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

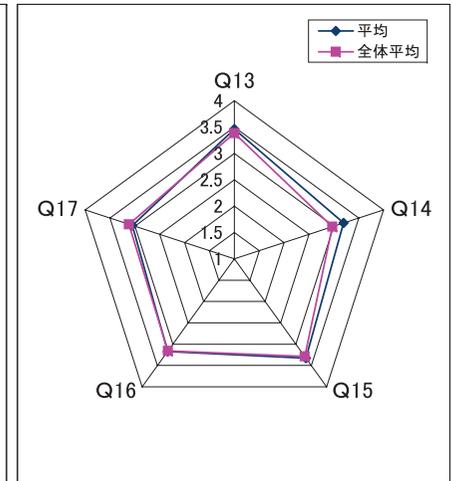
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 38 % 1.5	107 4.3	49 1.9	15 0.6	1	2.8	0.82	2.6	○
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 41 % 1.6	84 3.2	68 2.6	17 0.6	0	2.7	0.87	2.6	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 44 % 1.7	89 3.4	61 2.3	16 0.6	0	2.8	0.87	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 67 % 2.6	86 3.2	41 1.5	16 0.6	0	3.0	0.90	2.8	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 42 % 1.6	82 3.1	65 2.5	21 0.8	0	2.7	0.90	2.5	▼
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 24 % 0.9	87 3.3	80 3.0	15 0.6	4	2.6	0.79	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 106 % 4.1	46 1.8	45 1.7	12 0.5	1	3.2	0.96	3.1	○

評価レーダーチャート

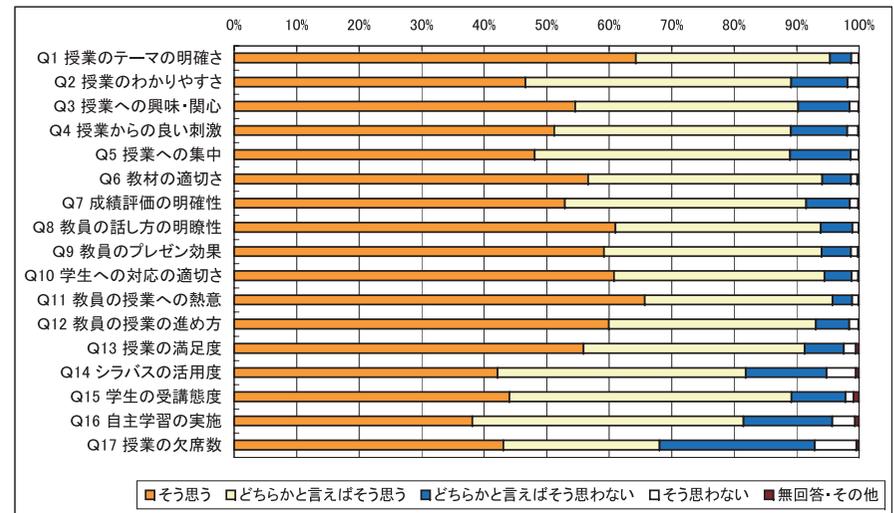
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(3) 人間文化学科	教員	曜日・講時	履修者数	1,464名
科目				回収数(率)	1,136名 77.6%

単純集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ■ …平均が0.1~0.49増加 ■ …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 672 % 59.2	395 34.8	52 4.6	16 1.4	1 0.1	3.5	0.65	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	人 478 % 42.1	494 43.5	136 12.0	26 2.3	2 0.2	3.3	0.75	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 579 % 51.0	413 36.4	121 10.7	21 1.8	2 0.2	3.4	0.75	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 537 % 47.3	444 39.1	127 11.2	26 2.3	2 0.2	3.3	0.76	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 506 % 44.5	475 41.8	134 11.8	20 1.8	1 0.1	3.3	0.74	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 602 % 53.0	454 40.0	65 5.7	13 1.1	2 0.2	3.5	0.66	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 550 % 48.4	469 41.3	96 8.5	19 1.7	2 0.2	3.4	0.71	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 643 % 56.6	398 35.0	77 6.8	17 1.5	1 0.1	3.5	0.69	3.4	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 626 % 55.1	424 37.3	67 5.9	15 1.3	4 0.4	3.5	0.67	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 647 % 57.0	412 36.3	61 5.4	14 1.2	2 0.2	3.5	0.66	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 705 % 62.1	370 32.6	44 3.9	15 1.3	2 0.2	3.6	0.64	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 633 % 55.7	405 35.7	77 6.8	19 1.7	2 0.2	3.5	0.70	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	人 592 % 52.1	420 37.0	88 7.7	29 2.6	7 0.6	3.4	0.74	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 434 % 38.2	454 40.0	177 15.6	64 5.6	7 0.6	3.1	0.87	3.0	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 474 % 41.7	520 45.8	114 10.0	18 1.6	10 0.9	3.3	0.71	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 417 % 36.7	490 42.3	181 15.9	52 4.6	6 0.5	3.1	0.84	3.1	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 543 % 47.8	266 23.4	250 22.0	73 6.4	4 0.4	3.1	0.97	3.2	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

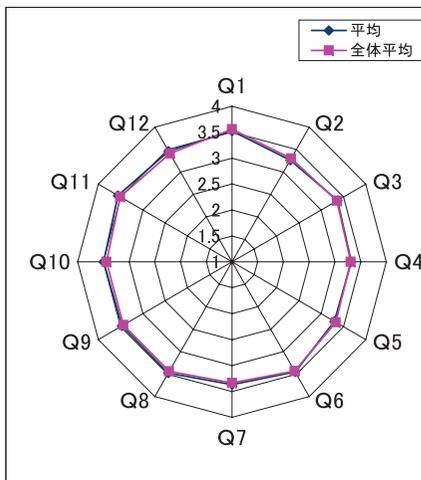
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 573	372	24	2	1	3.6	0.56	3.5
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 614	332	23	3	0	3.6	0.55	3.6
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 595	349	21	4	3	3.6	0.56	3.6
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 654	299	14	4	1	3.7	0.53	3.6
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 607	337	22	5	1	3.6	0.56	3.5
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 455	451	52	6	8	3.4	0.62	3.4
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 451	233	220	65	3	3.1	0.97	3.2

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

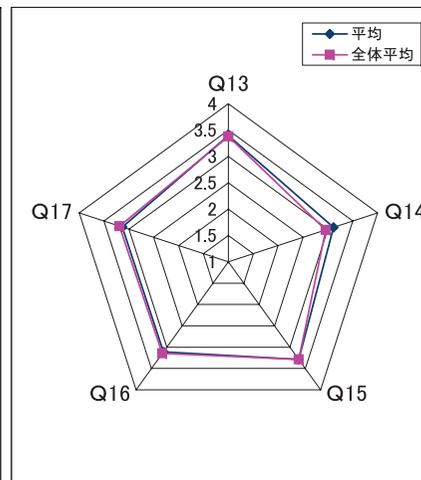
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 29	82	40	11	0	2.8	0.81	2.6
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 29	66	53	14	0	2.7	0.87	2.5
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 31	74	46	11	0	2.8	0.83	2.6
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 50	71	30	11	0	3.0	0.87	2.8
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 26	67	55	14	0	2.6	0.85	2.5
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 18	69	61	12	2	2.6	0.79	2.5
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 90	33	30	8	1	3.3	0.93	3.2

評価レーダーチャート

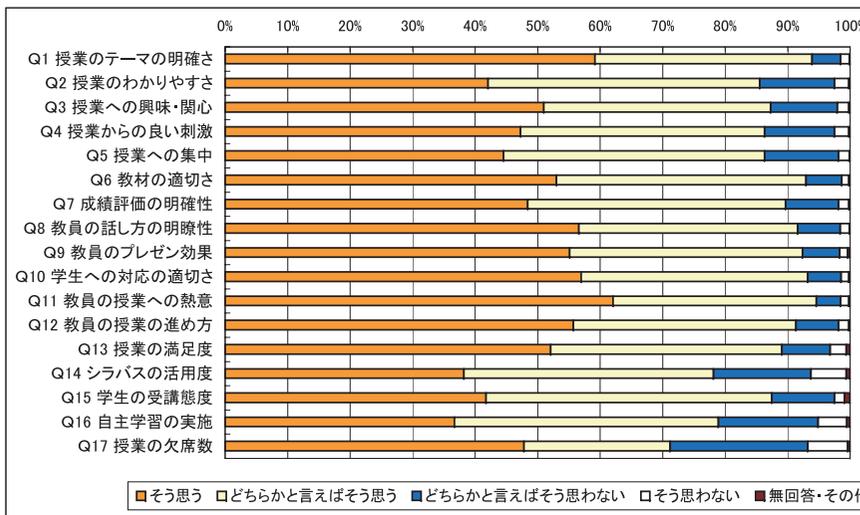
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(3) 人間文化学科	教員	曜日・講時	履修者数	1,140名
科目				回収数(率)	824名 72.3%

集計

(〇…一番回答の多い選択肢 〇…全体平均より高い 〇…去年より平均が0.5以上増加 〇…平均が0.1~0.49増加 〇…平均が0.1以上減少)

質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	588	214	15	7	0		3.7	0.55	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	436	26.0	1.8	0.8	0.0		3.5	0.63	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	491	286	40	7	0		3.5	0.63	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	467	298	50	8	1		3.5	0.66	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	437	326	56	5	0		3.5	0.65	3.3	○
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	508	281	25	7	3		3.6	0.60	3.4	○
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	487	288	41	7	1		3.5	0.63	3.4	○
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	553	246	22	3	0		3.6	0.55	3.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	534	259	25	6	0		3.6	0.59	3.5	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	544	249	24	6	1		3.6	0.58	3.5	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	583	219	17	5	0		3.7	0.55	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	542	245	27	10	0		3.6	0.61	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	504	274	34	9	3		3.6	0.63	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	392	325	76	28	3		3.3	0.78	3.0	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	389	365	56	7	7		3.4	0.65	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	330	371	97	19	7		3.2	0.75	3.2	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	301	225	236	58	4		2.9	0.97	3.0	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

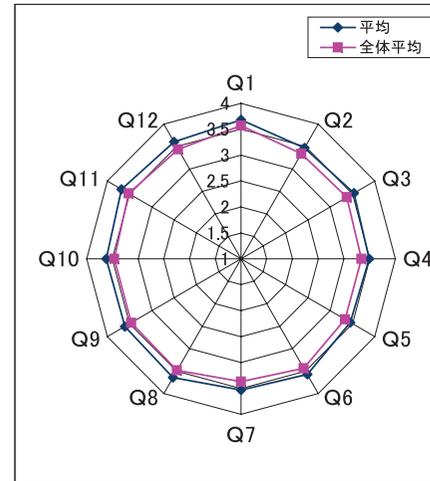
質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	499	256	15	3	2		3.6	0.55	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	541	227	7	0	0		3.7	0.48	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	521	244	9	1	0		3.7	0.51	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	566	203	6	0	0		3.7	0.46	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	526	229	17	3	0		3.6	0.54	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	383	346	37	4	5		3.4	0.61	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	285	211	221	54	4		2.9	0.97	3.0	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

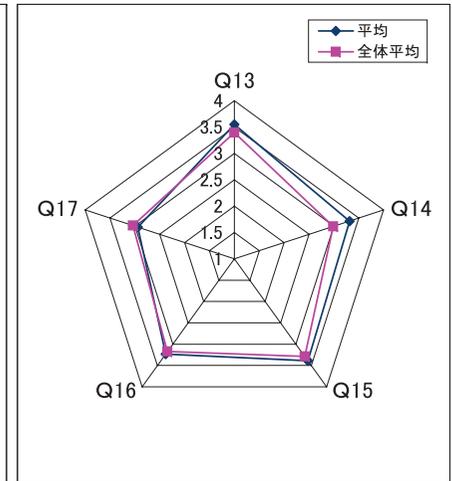
質問	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	9	25	9	4	1		2.8	0.83	2.6	○
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	12	18	15	3	0		2.8	0.88	2.7	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	13	15	15	5	0		2.8	0.97	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	17	15	11	5	0		2.9	1.00	2.9	▼
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	16	15	10	7	0		2.8	1.05	2.6	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	6	18	19	3	2		2.6	0.80	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	16	13	15	4	0		2.9	0.98	2.9	○

評価レーダーチャート

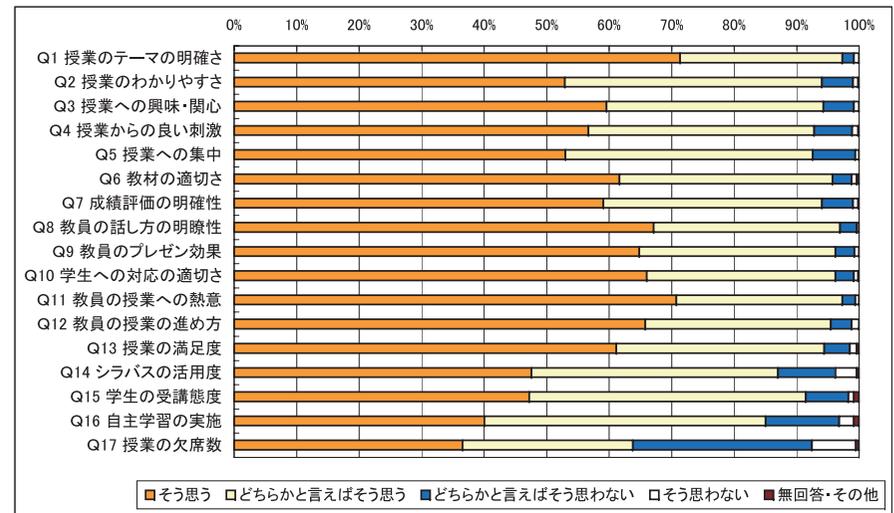
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(4) 生活福祉文化学部	教員	曜日・講時	履修者数	4,099名
科目				回収数(率)	3,137名 76.5%

単純集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ■ …平均が0.1~0.49増加 ■ …平均が0.1以上減少)

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	1960	1072	77	14	5	3.6	0.56	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	1400	1456	220	50	2	3.3	0.68	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	1564	1303	201	57	3	3.4	0.69	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	1502	1335	230	57	4	3.4	0.70	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	1428	1416	225	56	3	3.3	0.69	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	1623	1313	154	29	9	3.5	0.63	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	1534	1348	205	36	5	3.4	0.66	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	1758	1186	148	33	3	3.5	0.64	3.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	1694	1252	140	38	4	3.5	0.64	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	1707	1235	143	41	2	3.5	0.65	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	1801	1187	115	22	3	3.5	0.60	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	1658	1262	161	42	5	3.5	0.66	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	1609	1316	146	53	4	3.4	0.66	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	1002	1240	655	225	6	3.0	0.90	3.0	▼
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	1248	1497	301	68	14	3.3	0.72	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	1117	1362	465	173	11	3.1	0.85	3.2	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	1381	879	678	175	15	3.1	0.93	3.1	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

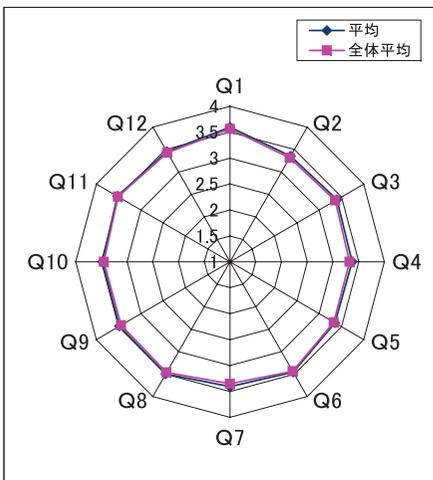
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	1589	1179	74	8	6	3.5	0.56	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	1718	1066	66	5	1	3.6	0.55	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	1684	1118	64	8	2	3.6	0.56	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	1745	1056	52	2	1	3.6	0.53	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	1617	1148	84	5	2	3.5	0.56	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	1230	1395	205	18	8	3.3	0.64	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	1265	824	604	153	10	3.1	0.93	3.1	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

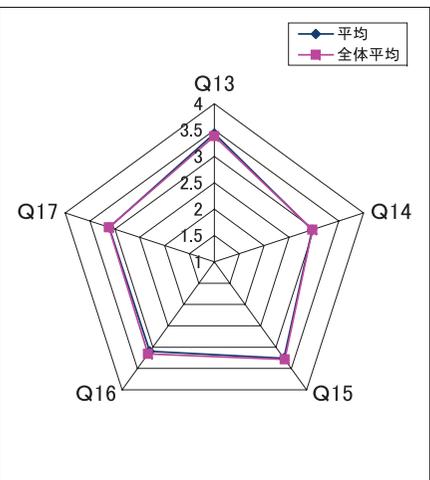
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	34	134	80	21	1	2.7	0.79	2.6	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	40	120	82	28	0	2.6	0.86	2.6	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	30	134	76	30	0	2.6	0.83	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	56	131	63	20	0	2.8	0.84	2.8	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	41	114	77	37	1	2.6	0.91	2.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	18	102	96	50	4	2.3	0.86	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	116	55	74	22	3	3.0	1.02	3.1	

評価レーダーチャート

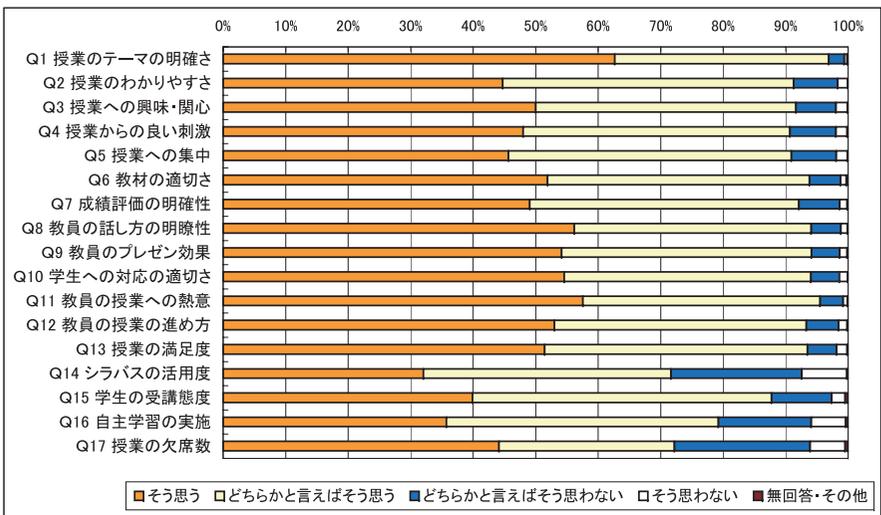
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(4) 生活福祉文化学部	教員	曜日・講時	履修者数	2,399名
科目				回収数(率)	1,849名 77.1%

集計

(〇…一番回答の多い選択肢 〇…全体平均より高い 〇…去年より平均が0.5以上増加 〇…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

Q	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	1121	662	55	9	2		3.6	0.58	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	789	892	133	35	0		3.3	0.69	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	895	785	131	38	0		3.4	0.71	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	844	806	161	36	2		3.3	0.72	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	809	858	146	36	0		3.3	0.70	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	922	797	105	18	7		3.4	0.65	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	847	841	135	23	3		3.4	0.67	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	997	727	101	23	1		3.5	0.66	3.4	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	943	787	90	27	2		3.4	0.66	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	958	766	94	31	0		3.4	0.67	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	1008	740	84	17	0		3.5	0.63	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	921	793	103	30	2		3.4	0.67	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	917	798	95	39	0		3.4	0.69	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	561	721	422	143	2		2.9	0.91	3.0	▼
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	703	918	176	45	7		3.2	0.72	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	626	806	291	120	6		3.1	0.87	3.1	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	924	483	339	93	10		3.2	0.92	3.2	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

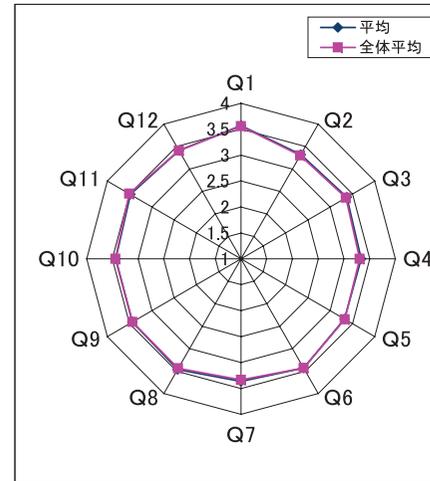
Q	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	906	715	50	4	6		3.5	0.57	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	982	649	46	3	1		3.6	0.56	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	931	703	40	5	2		3.5	0.56	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	979	658	42	2	0		3.6	0.55	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	901	721	54	4	1		3.5	0.57	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	695	851	119	12	4		3.3	0.64	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	836	454	300	84	7		3.2	0.91	3.2	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

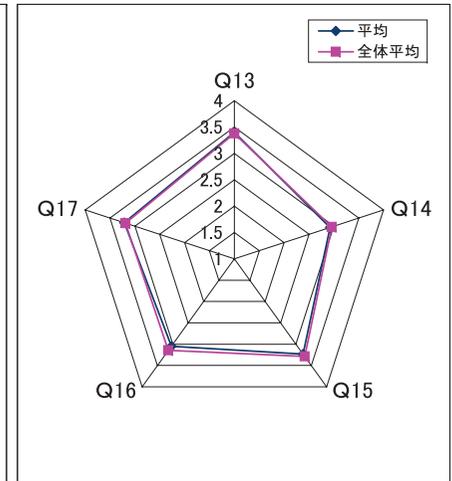
Q	人	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	16	82	55	14	1		2.6	0.77	2.6	▼
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	15	78	55	20	0		2.5	0.82	2.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	12	84	50	22	0		2.5	0.81	2.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	29	82	42	15	0		2.7	0.85	2.8	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	20	72	49	26	1		2.5	0.89	2.5	▼
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	8	67	57	33	3		2.3	0.84	2.5	▼
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	88	29	39	9	3		3.2	0.98	3.2	

評価レーダーチャート

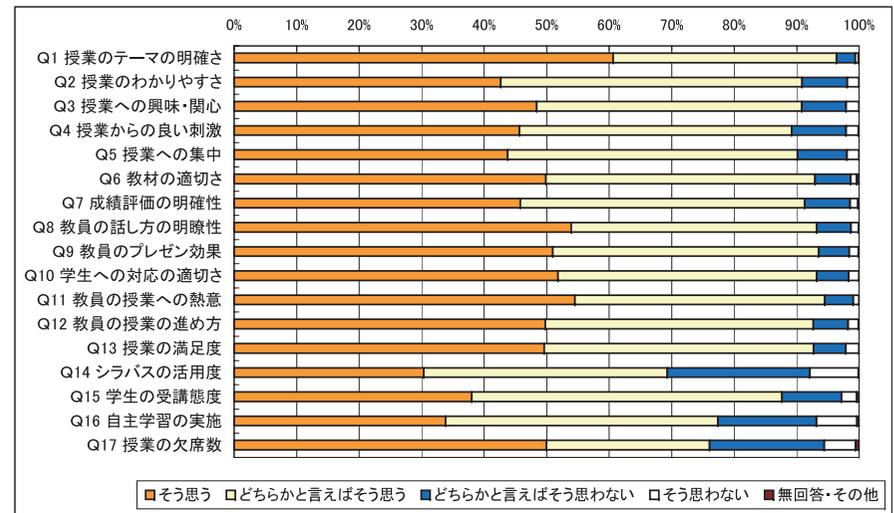
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(4) 生活福祉文化学部	教員	曜日・講時	履修者数	1,700名
科目				回収数(率)	1,288名 75.8%

単純集計

(□) …一番回答の多い選択肢 (■) …全体平均より高い (●) …去年より平均が0.5以上増加 (○) …平均が0.1~0.49増加 (▼) …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 846	412	22	5	3	3.6	0.54	3.6	
	% 65.7	32.0	1.7	0.4	0.2				
Q2 授業の内容を理解できた	人 616	568	87	15	2	3.4	0.67	3.3	
	% 47.8	44.1	6.8	1.2	0.2				
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 676	520	70	19	3	3.4	0.67	3.4	
	% 52.5	40.4	5.4	1.5	0.2				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 664	531	69	22	2	3.4	0.67	3.3	
	% 51.6	41.2	5.4	1.7	0.2				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 623	562	79	21	3	3.4	0.68	3.3	
	% 48.4	43.6	6.1	1.6	0.2				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 703	523	49	11	2	3.5	0.61	3.4	
	% 54.6	40.6	3.8	0.9	0.2				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 691	511	70	14	2	3.5	0.65	3.4	
	% 53.8	39.7	5.4	1.1	0.2				
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 767	461	48	10	2	3.5	0.61	3.5	
	% 59.5	35.8	3.7	0.8	0.2				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 757	467	51	11	2	3.5	0.62	3.5	
	% 58.8	36.3	4.0	0.9	0.2				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 756	471	49	10	2	3.5	0.61	3.5	
	% 58.7	36.6	3.8	0.8	0.2				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 799	450	31	5	3	3.6	0.56	3.5	
	% 62.0	34.9	2.4	0.4	0.2				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 743	472	58	12	3	3.5	0.63	3.4	
	% 57.7	36.6	4.5	0.9	0.2				
Q13 私はこの授業に満足した	人 695	524	51	14	4	3.5	0.63	3.4	
	% 54.0	40.7	4.0	1.1	0.3				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 442	520	237	85	4	3.0	0.89	3.0	
	% 34.3	40.4	18.4	6.6	0.3				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 547	585	125	24	7	3.3	0.72	3.3	
	% 42.5	45.4	9.7	1.9	0.5				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 495	561	174	53	5	3.2	0.81	3.2	
	% 38.4	43.6	13.5	4.1	0.4				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 464	398	339	82	5	3.0	0.94	3.0	
	% 36.0	30.9	26.3	6.4	0.4				

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

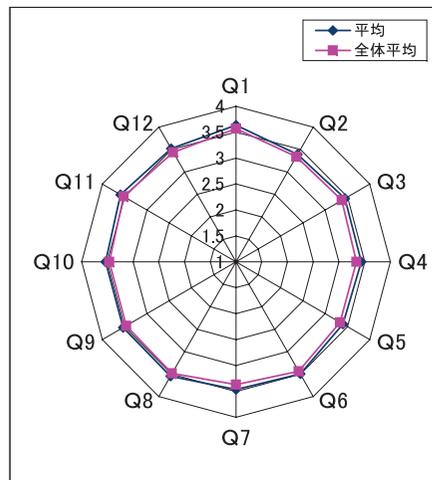
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 685	471	24	4	0	3.6	0.56	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 742	419	21	2	0	3.6	0.53	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 739	417	25	3	0	3.6	0.55	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 772	401	10	0	1	3.6	0.50	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 722	430	30	1	1	3.6	0.55	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 537	550	86	7	4	3.4	0.64	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 436	372	304	69	3	3.0	0.93	3.0	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

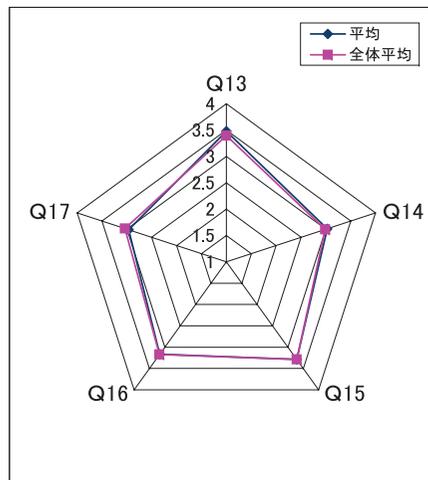
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 18	52	25	7	0	2.8	0.81	2.6	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 25	42	27	8	0	2.8	0.89	2.7	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 18	50	26	8	0	2.8	0.83	2.6	○
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 27	49	21	5	0	3.0	0.82	2.9	○
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 21	42	28	11	0	2.7	0.91	2.6	○
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 10	35	39	17	1	2.4	0.88	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 28	26	35	13	0	2.7	1.01	2.9	▼

評価レーダーチャート

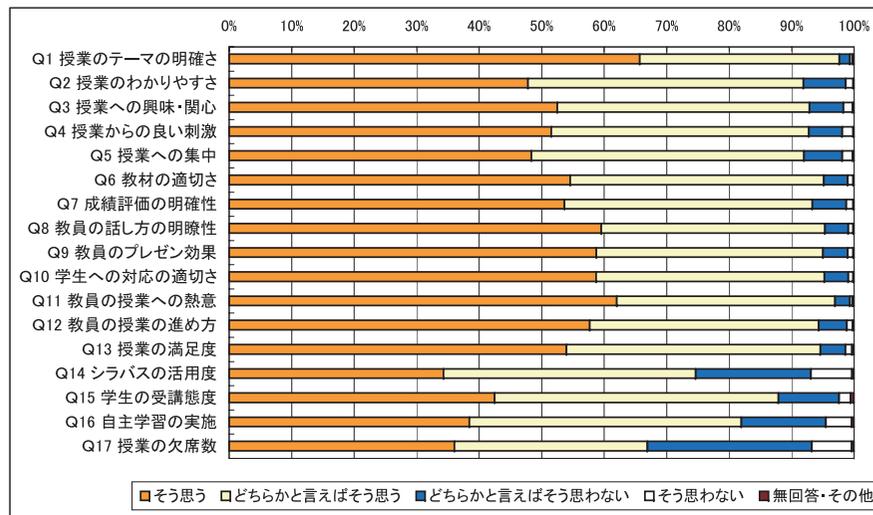
<教員>



<学生>



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(5) 心理学部	教員	曜日・講時	履修者数	6,255名
科目				回収数(率)	4,715名 75.4%

単純集計

(…一番回答の多い選択肢 …全体平均より高い …去年より平均が0.5以上増加 …平均が0.1~0.49増加 …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 2767 % 58.7	1722 36.5	181 3.8	42 0.9	3 0.1	3.5	0.62	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	人 1875 % 39.8	2284 48.4	445 9.4	108 2.3	3 0.1	3.3	0.72	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 2266 % 48.1	1986 42.1	370 7.8	91 1.9	2 0.0	3.4	0.71	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 2090 % 44.3	2063 43.8	460 9.8	98 2.1	4 0.1	3.3	0.73	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 2022 % 42.9	2121 45.0	471 10.0	98 2.1	3 0.1	3.3	0.73	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 2308 % 49.0	2000 42.4	325 6.9	77 1.6	5 0.1	3.4	0.69	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 2072 % 43.9	2055 43.6	496 10.5	86 1.8	6 0.1	3.3	0.73	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 2450 % 52.0	1831 38.8	327 6.9	100 2.1	7 0.1	3.4	0.71	3.5	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 2320 % 49.2	1982 42.0	319 6.8	88 1.9	6 0.1	3.4	0.70	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 2358 % 50.0	1997 42.4	283 6.0	70 1.5	7 0.1	3.4	0.67	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 2428 % 51.5	1969 41.8	253 5.4	58 1.2	7 0.1	3.4	0.65	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 2314 % 49.1	1957 41.5	346 7.3	92 2.0	6 0.1	3.4	0.71	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	人 2190 % 46.4	2098 44.5	341 7.2	77 1.6	9 0.2	3.4	0.69	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 1355 % 28.7	1837 39.0	1032 21.9	475 10.1	16 0.3	2.9	0.95	3.0	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1858 % 39.4	2324 49.3	430 9.1	77 1.6	26 0.6	3.3	0.69	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 1751 % 37.1	2086 44.2	653 13.8	202 4.3	23 0.5	3.1	0.81	3.2	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 2274 % 48.2	1210 25.7	1019 21.6	197 4.2	15 0.3	3.2	0.91	3.1	

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

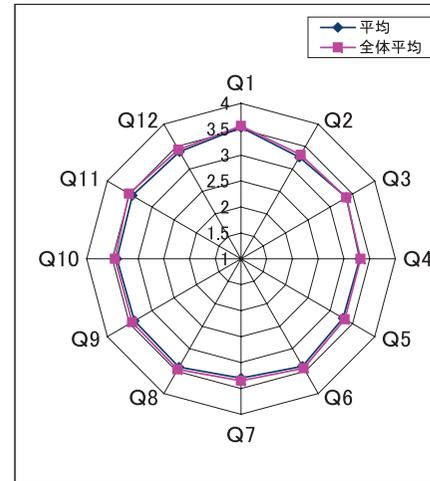
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 2245	1750	149	14	1	3.5	0.58	3.5
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 2374	1609	159	14	3	3.5	0.59	3.6
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 2258	1741	144	14	2	3.5	0.58	3.6
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 2323	1706	117	11	2	3.5	0.57	3.6
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 2253	1727	156	20	3	3.5	0.59	3.5
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 1809	2081	218	31	20	3.4	0.62	3.4
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 2048	1073	858	169	11	3.2	0.91	3.1

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

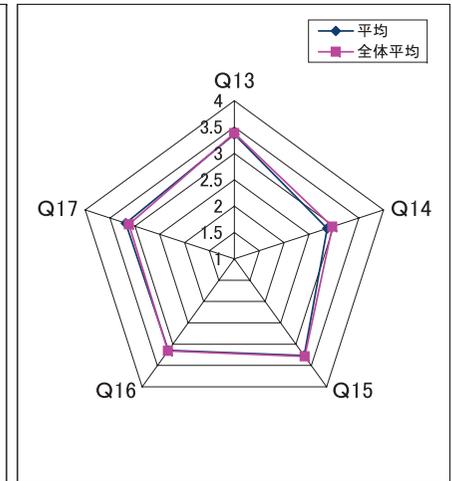
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 63	249	176	63	2	2.6	0.84	2.6
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 76	221	168	86	2	2.5	0.92	2.6
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 62	240	175	74	2	2.5	0.86	2.6
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 105	282	136	47	3	2.8	0.85	2.8
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 61	230	189	72	1	2.5	0.86	2.5
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 49	243	211	46	4	2.5	0.77	2.5
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 226	137	160	28	2	3.0	0.95	3.1

評価レーダーチャート

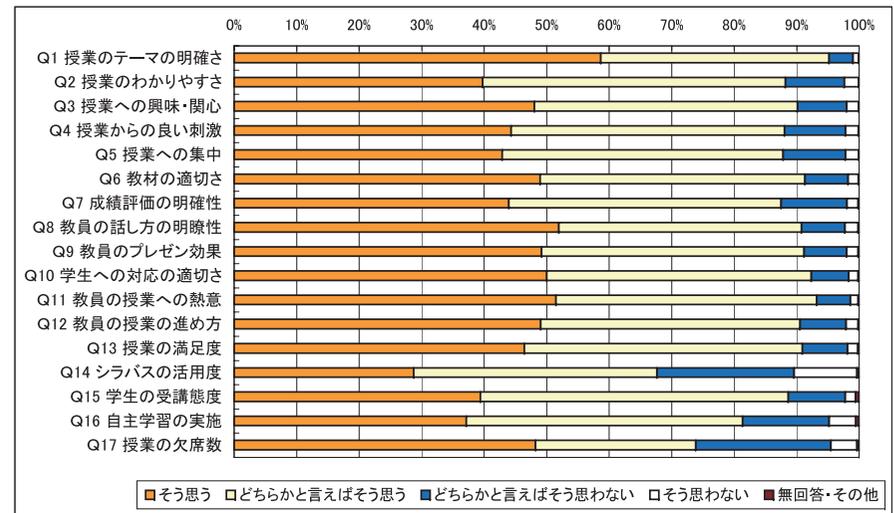
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(5) 心理学部	教員	曜日・講時	履修者数	3,036名
科目				回収数(率)	2,290名 75.4%

単純集計

(■ …一番回答の多い選択肢 ■ …全体平均より高い ■ …去年より平均が0.5以上増加 ■ …平均が0.1~0.49増加 ■ …平均が0.1以上減少

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 1372 % 59.9	789 34.5	101 4.4	26 1.1	2 0.1	3.5	0.64	3.6	
Q2 授業の内容を理解できた	人 950 % 41.5	1058 46.2	206 9.0	74 3.2	2 0.1	3.3	0.75	3.3	
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 1152 % 50.3	904 39.5	173 7.6	59 2.6	2 0.1	3.4	0.74	3.4	
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 1061 % 46.3	954 41.7	217 9.5	55 2.4	3 0.1	3.3	0.74	3.3	
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 1032 % 45.1	981 42.8	212 9.3	63 2.8	2 0.1	3.3	0.75	3.3	
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1125 % 49.1	944 41.2	167 7.3	51 2.2	3 0.1	3.4	0.72	3.4	
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1023 % 44.7	949 41.4	266 11.6	49 2.1	3 0.1	3.3	0.75	3.3	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1189 % 51.9	851 37.2	174 7.6	71 3.1	5 0.2	3.4	0.76	3.4	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1147 % 50.1	917 40.0	166 7.2	55 2.4	5 0.2	3.4	0.72	3.4	
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1172 % 51.2	915 40.0	152 6.6	49 2.1	2 0.1	3.4	0.71	3.4	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1190 % 52.0	918 40.1	141 6.2	38 1.7	3 0.1	3.4	0.68	3.5	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1143 % 49.9	896 39.1	183 8.0	65 2.8	3 0.1	3.4	0.75	3.4	
Q13 私はこの授業に満足した	人 1098 % 47.9	964 42.1	173 7.6	52 2.3	3 0.1	3.4	0.72	3.4	
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 673 % 29.4	905 39.5	474 20.7	230 10.0	8 0.3	2.9	0.94	3.0	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 960 % 41.9	1086 47.4	193 8.4	41 1.8	10 0.4	3.3	0.70	3.3	
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 856 % 37.4	995 43.4	317 13.8	109 4.8	13 0.6	3.1	0.83	3.1	○
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 1223 % 53.4	554 24.2	420 18.3	86 3.8	7 0.3	3.3	0.89	3.2	▼

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

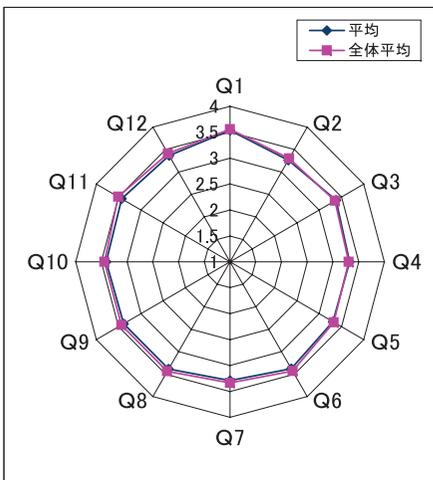
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1101	829	69	8	1	3.5	0.59	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1163	759	76	8	2	3.5	0.59	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1126	808	67	5	2	3.5	0.58	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1152	794	58	4	0	3.5	0.56	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1123	797	78	9	1	3.5	0.60	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 934	970	81	16	7	3.4	0.61	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 1080	494	351	78	5	3.3	0.89	3.2	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

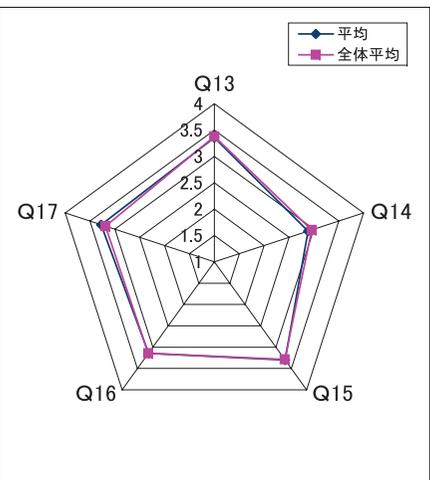
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 24	115	98	43	0	2.4	0.85	2.6	▼
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 26	92	98	63	1	2.3	0.92	2.5	▼
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 21	109	99	50	1	2.4	0.86	2.6	▼
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 38	124	83	34	1	2.6	0.87	2.8	▼
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 20	99	105	56	0	2.3	0.87	2.5	▼
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 26	116	112	25	1	2.5	0.78	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 143	60	69	8	0	3.2	0.91	3.2	▼

評価レーダーチャート

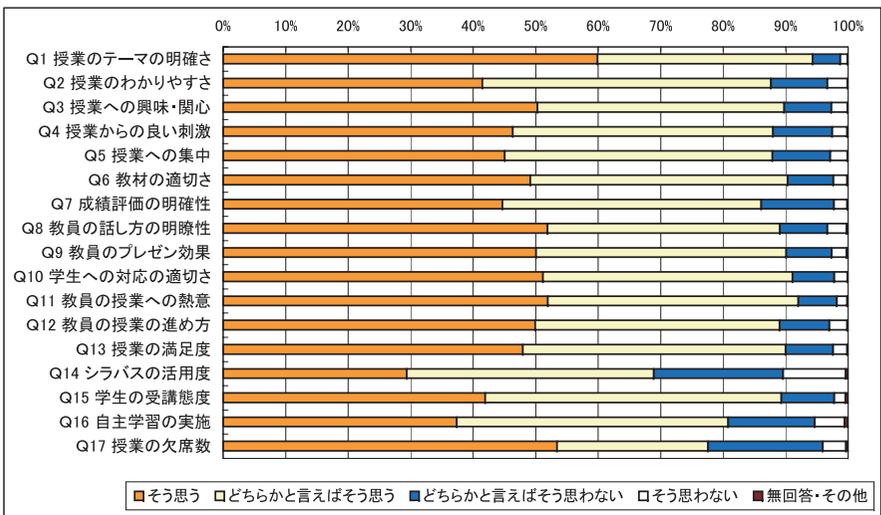
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

学部	(5) 心理学部	教員	曜日・講時	履修者数	3,219名
科目				回収数(率)	2,425名 75.3%

単純集計

(〇…一番回答の多い選択肢 ㊦…全体平均より高い ㊧…去年より平均が0.5以上増加 ㊨…平均が0.1~0.49増加 ㊩…平均が0.1以上減少)

	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業のテーマは、はっきりしていた	人 1395	933	80	16	1	3.5	0.60	3.6	
	% 57.5	38.5	3.3	0.7	0.0				
Q2 授業の内容を理解できた	人 925	1226	239	34	1	3.3	0.69	3.3	
	% 38.1	50.6	9.9	1.4	0.0				
Q3 授業の内容に興味・関心をもてた	人 1114	1082	197	32	0	3.4	0.69	3.4	
	% 45.9	44.6	8.1	1.3	0.0				
Q4 この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	人 1029	1109	243	43	1	3.3	0.72	3.3	
	% 42.4	45.7	10.0	1.8	0.0				
Q5 この授業では、学習に集中することができた	人 990	1140	259	35	1	3.3	0.71	3.3	
	% 40.8	47.0	10.7	1.4	0.0				
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1183	1056	158	26	2	3.4	0.66	3.4	
	% 48.8	43.5	6.5	1.1	0.1				
Q7 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 1049	1106	230	37	3	3.3	0.70	3.4	
	% 43.3	45.6	9.5	1.5	0.1				
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1261	980	153	29	2	3.4	0.67	3.5	
	% 52.0	40.4	6.3	1.2	0.1				
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1173	1065	153	33	1	3.4	0.67	3.5	
	% 48.4	43.9	6.3	1.4	0.0				
Q10 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 1186	1082	131	21	5	3.4	0.64	3.5	
	% 48.9	44.6	5.4	0.9	0.2				
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1238	1051	112	20	4	3.4	0.62	3.5	
	% 51.1	43.3	4.6	0.8	0.2				
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1171	1061	163	27	3	3.4	0.66	3.4	
	% 48.3	43.8	6.7	1.1	0.1				
Q13 私はこの授業に満足した	人 1092	1134	168	25	6	3.4	0.66	3.4	
	% 45.0	46.8	6.9	1.0	0.2				
Q14 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 682	932	558	245	8	2.8	0.95	3.0	
	% 28.1	38.4	23.0	10.1	0.3				
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 898	1238	237	36	16	3.2	0.69	3.3	
	% 37.0	51.1	9.8	1.5	0.7				
Q16 教員から要求された自主学習(予習/復習、宿題や準備)をしましたか	人 895	1091	336	93	10	3.2	0.80	3.2	○
	% 36.9	45.0	13.9	3.8	0.4				
Q17 この授業で、何回欠席しましたか [基準: 4(0回)、3(1回)、2(2~3回)、1(4回以上)]	人 1051	656	599	111	8	3.1	0.93	3.0	
	% 43.3	27.1	24.7	4.6	0.3				

回答群別回答分布表

Q2で授業の理解度が高い群(4,3)の回答分布

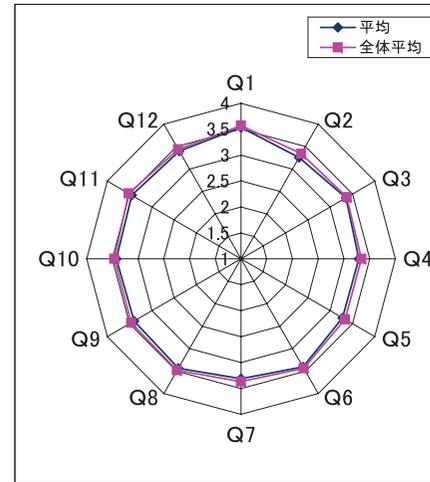
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 1144	921	80	6	0	3.5	0.58	3.5	
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 1211	850	83	6	1	3.5	0.59	3.6	
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 1132	933	77	9	0	3.5	0.59	3.6	
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 1171	912	59	7	2	3.5	0.57	3.6	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 1130	930	78	11	2	3.5	0.59	3.5	
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 875	1111	137	15	13	3.3	0.63	3.4	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 968	579	507	91	6	3.1	0.92	3.0	

Q2で授業の理解度が低い群(2,1)の回答分布

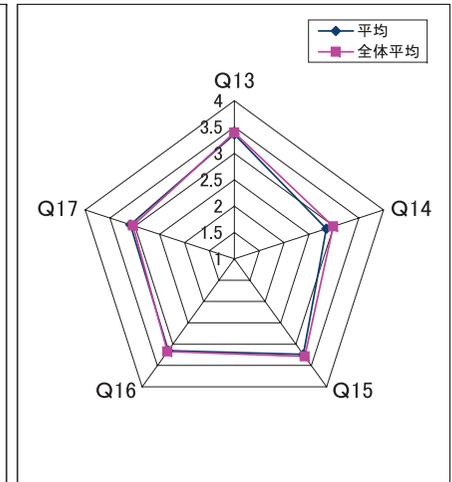
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q6 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 39	134	78	20	2	2.7	0.80	2.6	○
Q8 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	人 50	129	70	23	1	2.8	0.85	2.7	○
Q9 教員のプレゼンテーション(授業における伝達方法)は適切であった	人 41	131	76	24	1	2.7	0.83	2.6	○
Q11 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	人 67	138	53	13	2	3.0	0.80	2.9	
Q12 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 41	131	84	16	1	2.7	0.79	2.6	○
Q15 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 23	127	99	21	3	2.6	0.76	2.5	
Q17 この授業で、何回欠席しましたか	人 83	77	91	20	2	2.8	0.95	2.9	▼

評価レーダーチャート

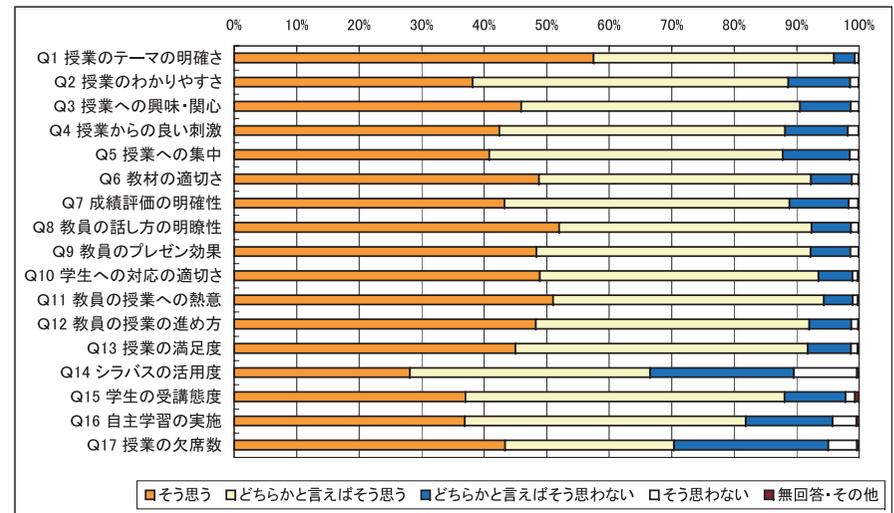
〈教員〉



〈学生〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	全学	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	473名
科目			回収数(率)	436名 92.2%

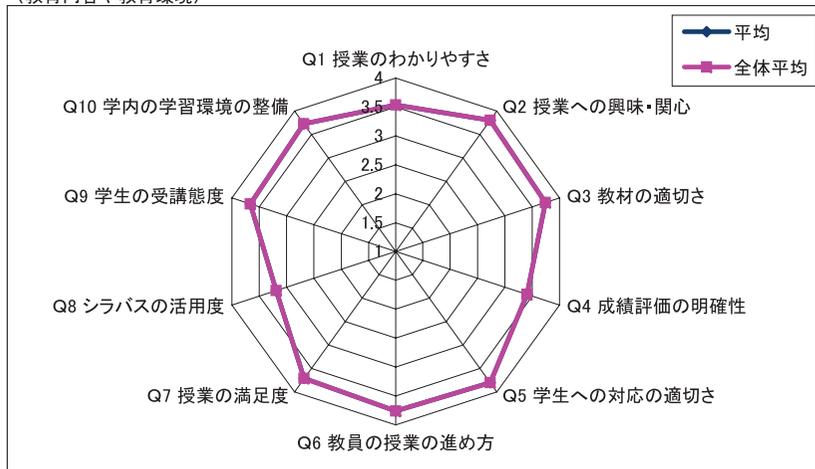
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

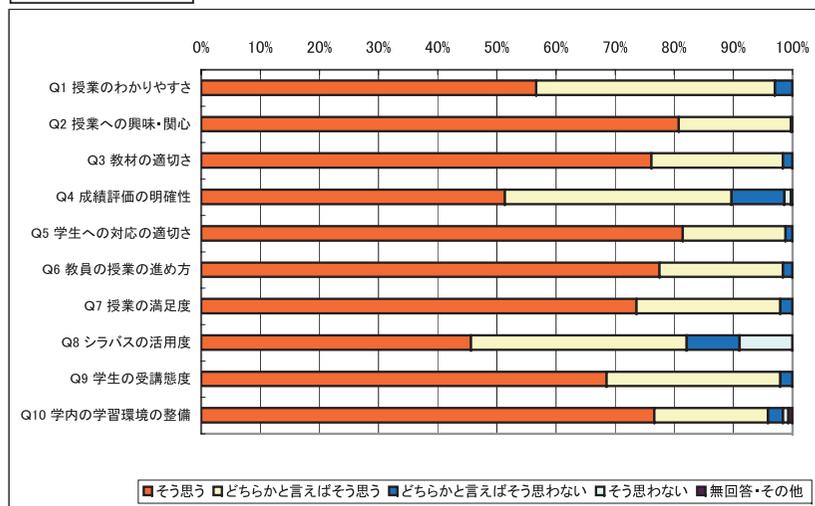
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 247 % 56.7	176 40.4	13 3.0	0 0.0	0 0.0	3.5	0.56	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 352 % 80.7	83 19.0	1 0.2	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.8	○
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 332 % 76.1	97 22.2	7 1.6	0 0.0	0 0.0	3.7	0.47	3.7	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 224 % 51.4	167 38.3	39 8.9	5 1.1	1 0.2	3.4	0.70	3.4	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 355 % 81.4	76 17.4	5 1.1	0 0.0	0 0.0	3.8	0.43	3.8	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 338 % 77.5	91 20.9	7 1.6	0 0.0	0 0.0	3.8	0.46	3.8	○
Q7 私はこの授業に満足した	人 321 % 73.6	106 24.3	9 2.1	0 0.0	0 0.0	3.7	0.49	3.7	○
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 199 % 45.6	159 36.5	39 8.9	39 8.9	0 0.0	3.2	0.93	3.2	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 299 % 68.6	128 29.4	9 2.1	0 0.0	0 0.0	3.7	0.51	3.7	○
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 334 % 76.6	84 19.3	11 2.5	4 0.9	3 0.7	3.7	0.55	3.7	○

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	全学	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	260名
科目			回収数(率)	248名 95.4%

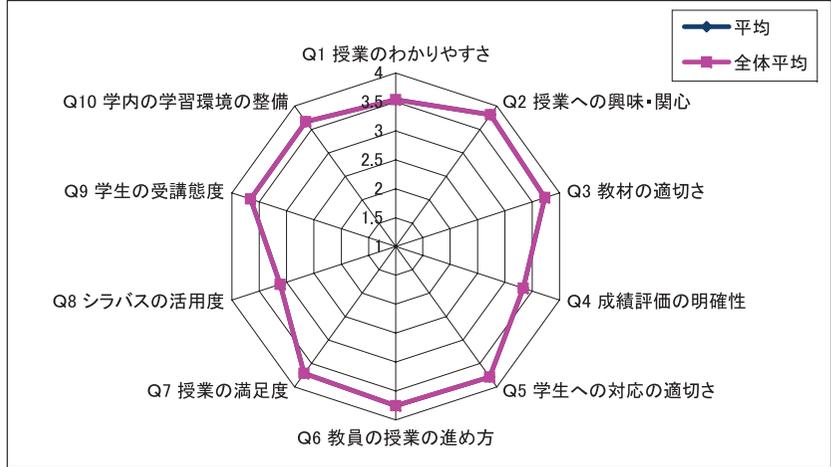
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

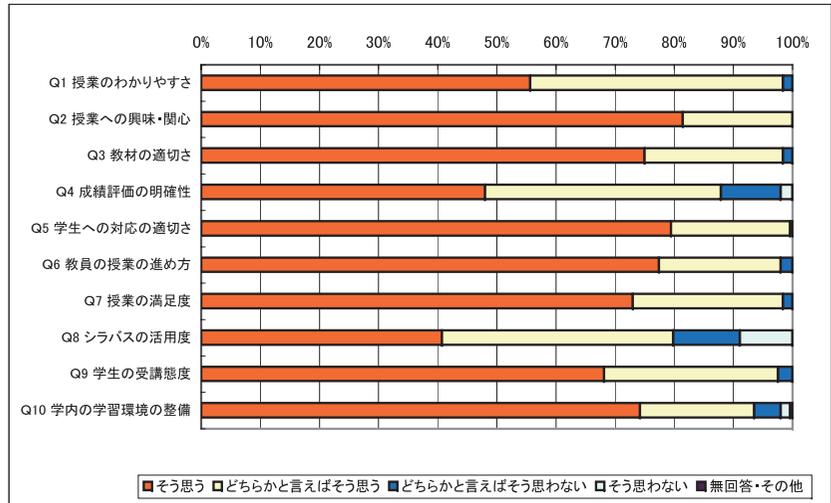
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 138 % 55.6	106 42.7	4 1.6	0 0.0	0 0.0	3.5	0.53	3.5	
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 202 % 81.5	46 18.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.39	3.8	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 186 % 75.0	58 23.4	4 1.6	0 0.0	0 0.0	3.7	0.48	3.7	
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 119 % 48.0	99 39.9	25 10.1	5 2.0	0 0.0	3.3	0.74	3.3	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 197 % 79.4	50 20.2	1 0.4	0 0.0	0 0.0	3.8	0.42	3.8	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 192 % 77.4	51 20.6	5 2.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.48	3.8	○
Q7 私はこの授業に満足した	人 181 % 73.0	63 25.4	4 1.6	0 0.0	0 0.0	3.7	0.49	3.7	○
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 101 % 40.7	97 39.1	28 11.3	22 8.9	0 0.0	3.1	0.93	3.1	
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 169 % 68.1	73 29.4	6 2.4	0 0.0	0 0.0	3.7	0.52	3.7	
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 184 % 74.2	48 19.4	11 4.4	4 1.6	1 0.4	3.7	0.64	3.7	○

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	全学	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	213名
科目			回収数(率)	188名 88.3%

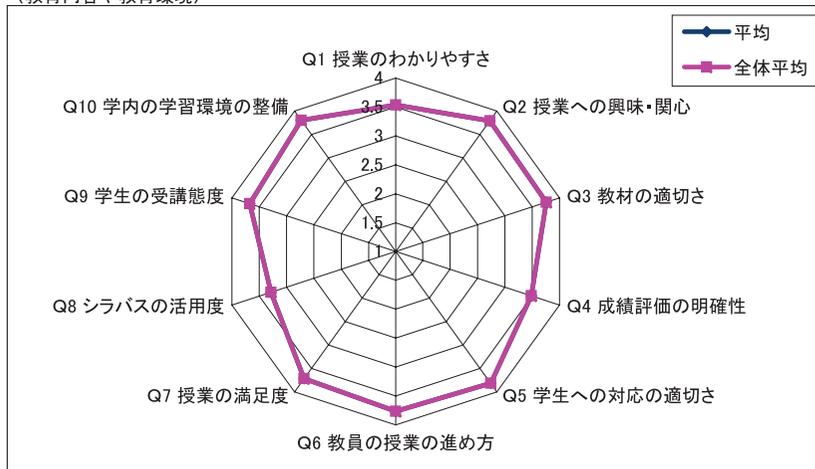
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

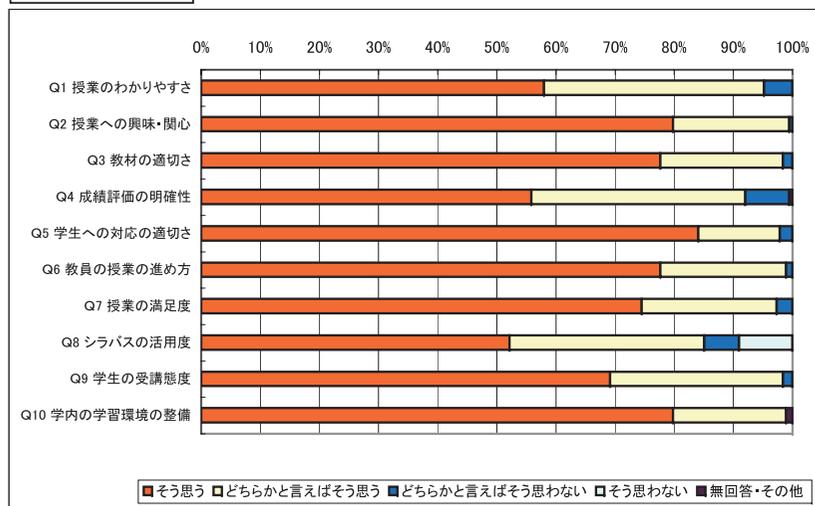
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 109 % 58.0	70 37.2	9 4.8	0 0.0	0 0.0	3.5	0.59	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 150 % 79.8	37 19.7	1 0.5	0 0.0	0 0.0	3.8	0.42	3.8	○
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 146 % 77.7	39 20.7	3 1.6	0 0.0	0 0.0	3.8	0.46	3.8	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 105 % 55.9	68 36.2	14 7.4	0 0.0	1 0.5	3.5	0.63	3.5	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 158 % 84.0	26 13.8	4 2.1	0 0.0	0 0.0	3.8	0.44	3.8	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 146 % 77.7	40 21.3	2 1.1	0 0.0	0 0.0	3.8	0.45	3.8	○
Q7 私はこの授業に満足した	人 140 % 74.5	43 22.9	5 2.7	0 0.0	0 0.0	3.7	0.51	3.7	○
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 98 % 52.1	62 33.0	11 5.9	17 9.0	0 0.0	3.3	0.93	3.3	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 130 % 69.1	55 29.3	3 1.6	0 0.0	0 0.0	3.7	0.50	3.7	○
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 150 % 79.8	36 19.1	0 0.0	0 0.0	2 1.1	3.8	0.40	3.8	◎

評価レーダーチャート

<教育内容や教育環境>



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	162名
科目			回収数(率)	151名 93.2%

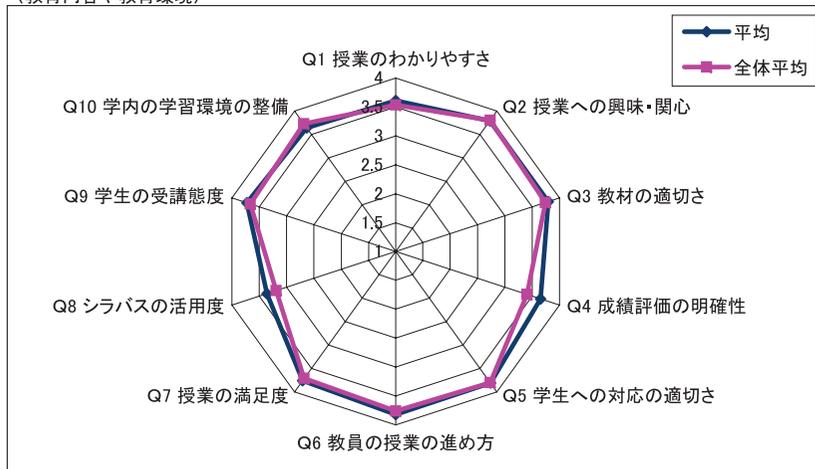
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

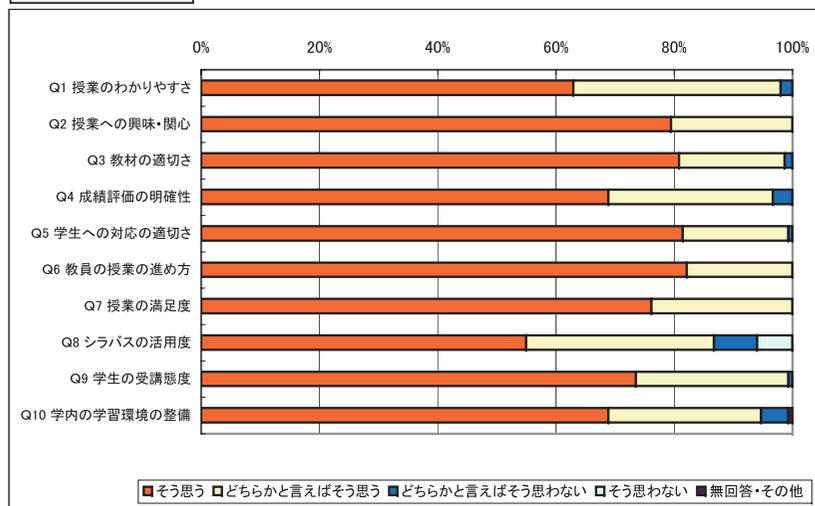
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 95	53	3	0	0	3.6	0.53	3.5	○
	% 62.9	35.1	2.0	0.0	0.0				
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 120	31	0	0	0	3.8	0.40	3.8	
	% 79.5	20.5	0.0	0.0	0.0				
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 122	27	2	0	0	3.8	0.44	3.7	
	% 80.8	17.9	1.3	0.0	0.0				
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 104	42	5	0	0	3.7	0.54	3.4	
	% 68.9	27.8	3.3	0.0	0.0				
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 123	27	1	0	0	3.8	0.41	3.8	▼
	% 81.5	17.9	0.7	0.0	0.0				
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 124	27	0	0	0	3.8	0.38	3.8	
	% 82.1	17.9	0.0	0.0	0.0				
Q7 私はこの授業に満足した	人 115	36	0	0	0	3.8	0.43	3.7	
	% 76.2	23.8	0.0	0.0	0.0				
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 83	48	11	9	0	3.4	0.86	3.2	○
	% 55.0	31.8	7.3	6.0	0.0				
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 111	39	1	0	0	3.7	0.46	3.7	
	% 73.5	25.8	0.7	0.0	0.0				
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 104	39	7	0	1	3.6	0.57	3.7	○
	% 68.9	25.8	4.6	0.0	0.7				

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	87名
科目			回収数(率)	84名 96.6%

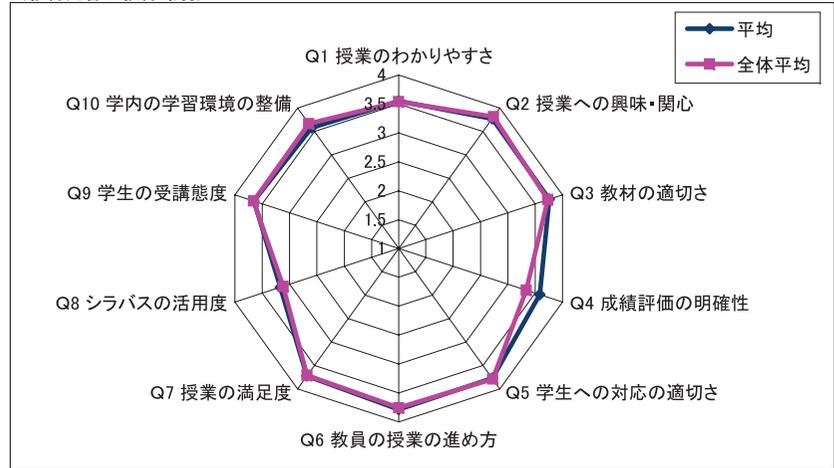
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

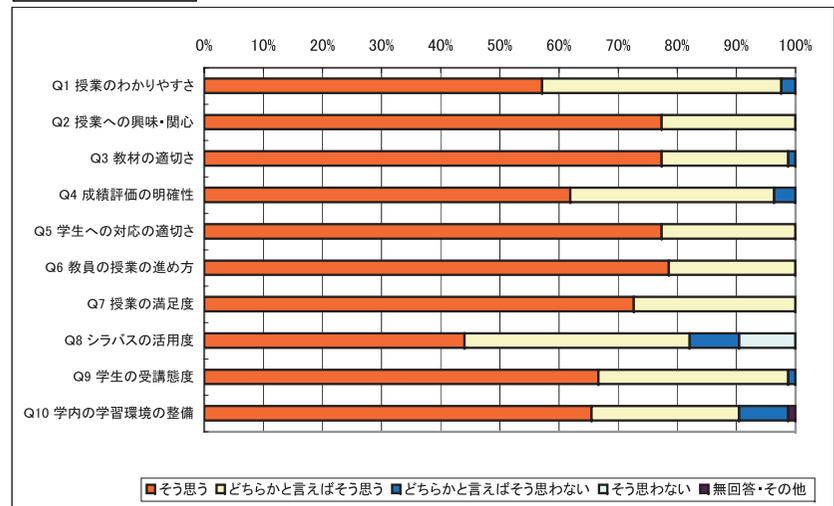
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 48 % 57.1	34 40.5	2 2.4	0 0.0	0 0.0	3.5	0.54	3.5	
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 65 % 77.4	19 22.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.42	3.8	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 65 % 77.4	18 21.4	1 1.2	0 0.0	0 0.0	3.8	0.45	3.7	
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 52 % 61.9	29 34.5	3 3.6	0 0.0	0 0.0	3.6	0.56	3.3	
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 65 % 77.4	19 22.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.42	3.8	▼
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 66 % 78.6	18 21.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.41	3.8	
Q7 私はこの授業に満足した	人 61 % 72.6	23 27.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.7	0.45	3.7	
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 37 % 44.0	32 38.1	7 8.3	8 9.5	0 0.0	3.2	0.94	3.1	
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 56 % 66.7	27 32.1	1 1.2	0 0.0	0 0.0	3.7	0.50	3.7	▼
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 55 % 65.5	21 25.0	7 8.3	0 0.0	1 1.2	3.6	0.64	3.7	○

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	75名
科目			回収数(率)	67名 89.3%

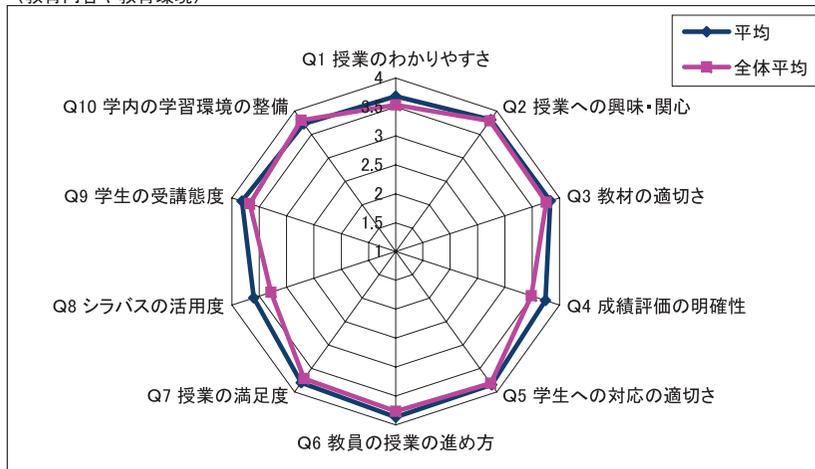
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

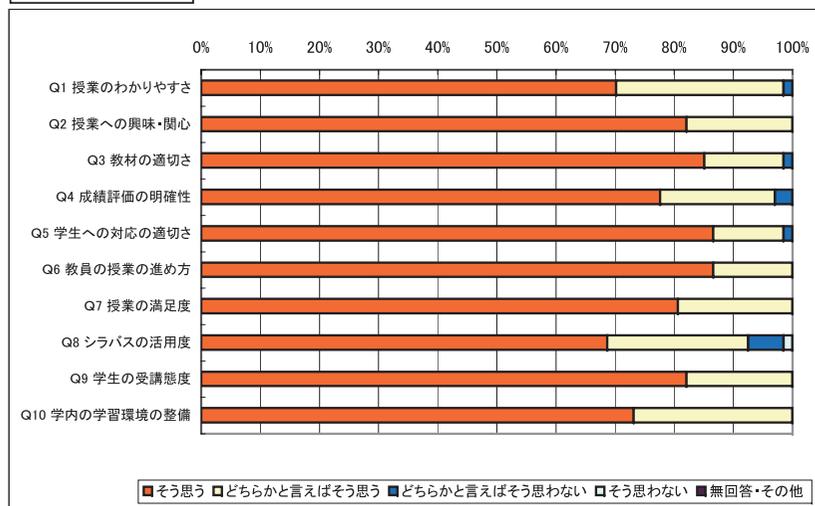
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 47 % 70.1	19 28.4	1 1.5	0 0.0	0 0.0	3.7	0.50	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 55 % 82.1	12 17.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.38	3.8	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 57 % 85.1	9 13.4	1 1.5	0 0.0	0 0.0	3.8	0.41	3.8	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 52 % 77.6	13 19.4	2 3.0	0 0.0	0 0.0	3.7	0.50	3.5	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 58 % 86.6	8 11.9	1 1.5	0 0.0	0 0.0	3.9	0.40	3.8	
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 58 % 86.6	9 13.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.9	0.34	3.8	
Q7 私はこの授業に満足した	人 54 % 80.6	13 19.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.7	
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 46 % 68.7	16 23.9	4 6.0	1 1.5	0 0.0	3.6	0.67	3.3	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 55 % 82.1	12 17.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.38	3.7	○
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 49 % 73.1	18 26.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.7	0.44	3.8	○

評価レーダーチャート

<教育内容や教育環境>



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻	(21) 応用英語専攻		履修者数	18名
科目			回収数(率)	16名 88.9%

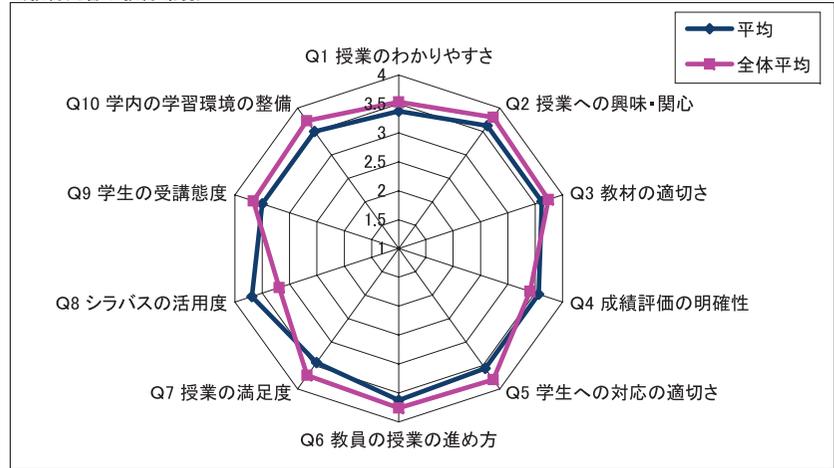
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少

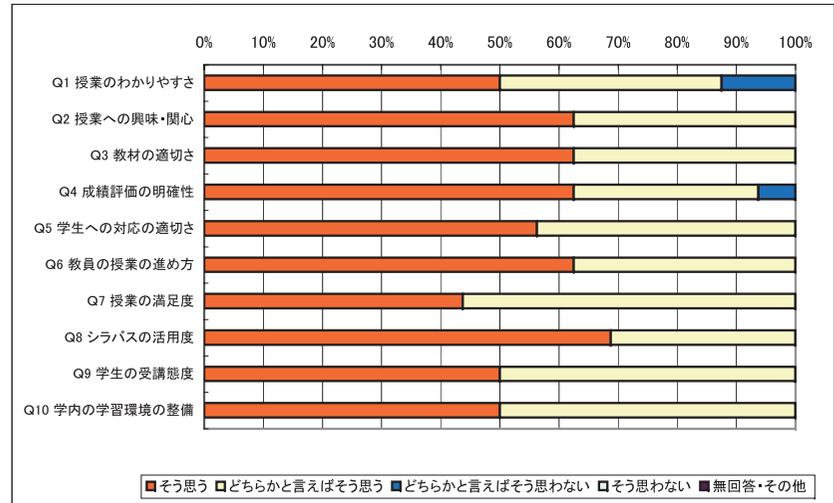
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 8	6	2	0	0	3.4	0.70	3.5	▼
	% 50.0	37.5	12.5	0.0	0.0				
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 10	6	0	0	0	3.6	0.48	3.8	▼
	% 62.5	37.5	0.0	0.0	0.0				
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 10	6	0	0	0	3.6	0.48	3.7	
	% 62.5	37.5	0.0	0.0	0.0				
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 10	5	1	0	0	3.6	0.61	3.4	
	% 62.5	31.3	6.3	0.0	0.0				
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 9	7	0	0	0	3.6	0.50	3.8	▼
	% 56.3	43.8	0.0	0.0	0.0				
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 10	6	0	0	0	3.6	0.48	3.8	▼
	% 62.5	37.5	0.0	0.0	0.0				
Q7 私はこの授業に満足した	人 7	9	0	0	0	3.4	0.50	3.7	▼
	% 43.8	56.3	0.0	0.0	0.0				
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 11	5	0	0	0	3.7	0.46	3.2	○
	% 68.8	31.3	0.0	0.0	0.0				
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 8	8	0	0	0	3.5	0.50	3.7	▼
	% 50.0	50.0	0.0	0.0	0.0				
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 8	8	0	0	0	3.5	0.50	3.7	▼
	% 50.0	50.0	0.0	0.0	0.0				

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻	(21) 応用英語専攻		履修者数	11名
科目			回収数(率)	11名 100.0%

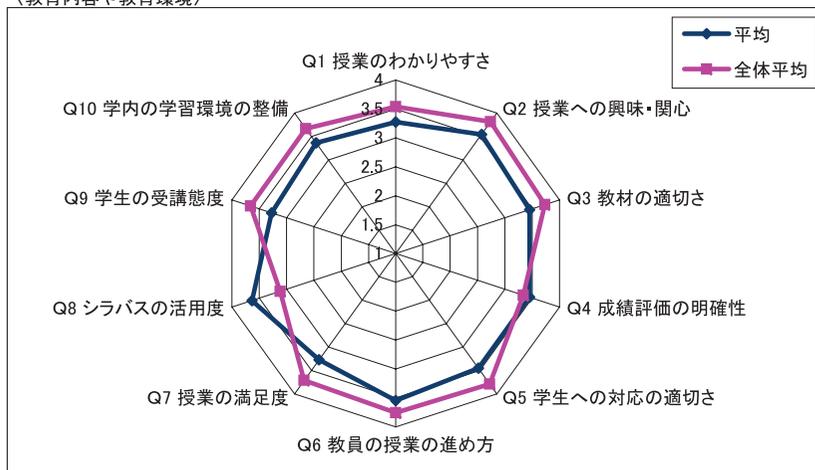
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

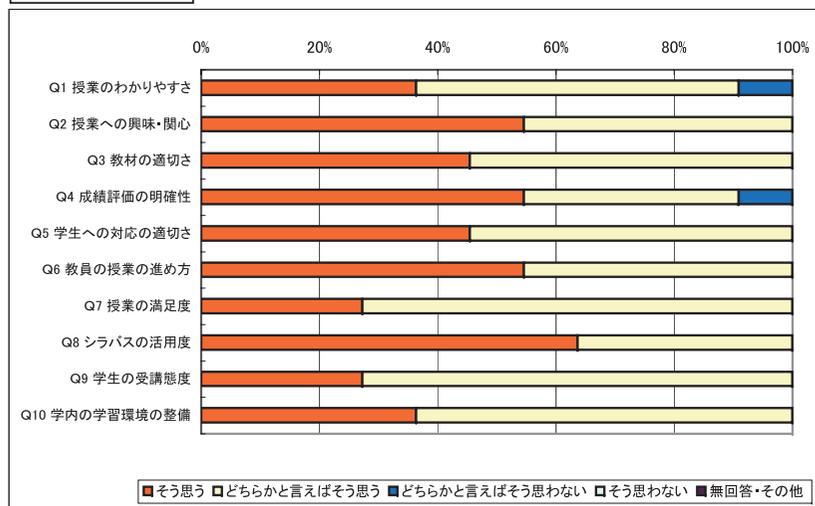
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 4	6	1	0	0	3.3	0.62	3.5	▼
	% 36.4	54.5	9.1	0.0	0.0				
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 6	5	0	0	0	3.5	0.50	3.8	▼
	% 54.5	45.5	0.0	0.0	0.0				
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 5	6	0	0	0	3.5	0.50	3.7	▼
	% 45.5	54.5	0.0	0.0	0.0				
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 6	4	1	0	0	3.5	0.66	3.3	
	% 54.5	36.4	9.1	0.0	0.0				
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 5	6	0	0	0	3.5	0.50	3.8	▼
	% 45.5	54.5	0.0	0.0	0.0				
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 6	5	0	0	0	3.5	0.50	3.8	▼
	% 54.5	45.5	0.0	0.0	0.0				
Q7 私はこの授業に満足した	人 3	8	0	0	0	3.3	0.45	3.7	▼
	% 27.3	72.7	0.0	0.0	0.0				
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 7	4	0	0	0	3.6	0.48	3.1	○
	% 63.6	36.4	0.0	0.0	0.0				
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 3	8	0	0	0	3.3	0.45	3.7	▼
	% 27.3	72.7	0.0	0.0	0.0				
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 4	7	0	0	0	3.4	0.48	3.7	▼
	% 36.4	63.6	0.0	0.0	0.0				

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻	(21) 応用英語専攻		履修者数	7名
科目			回収数(率)	5名 71.4%

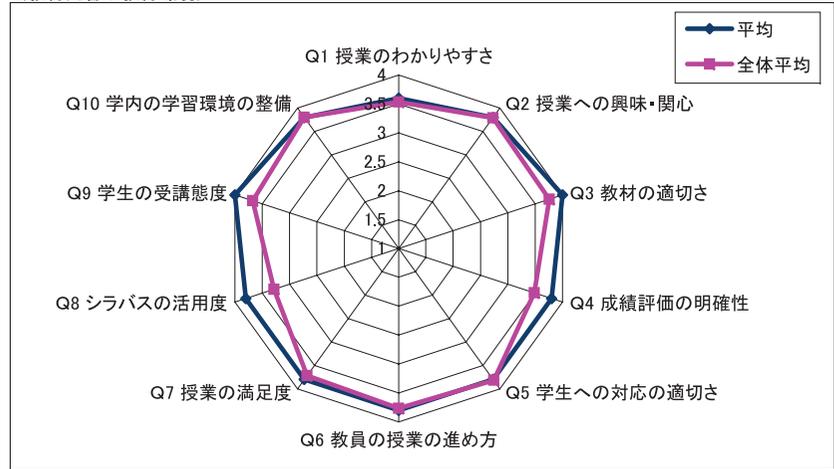
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

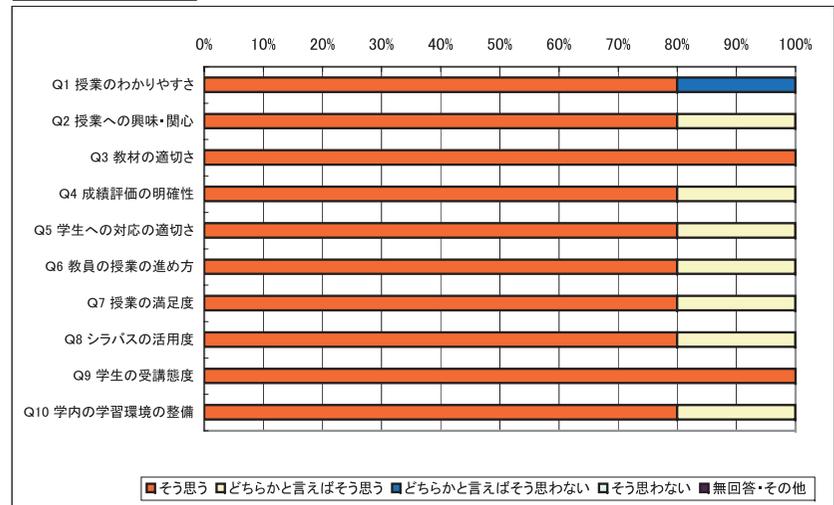
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 4	0	1	0	0	3.6	0.80	3.5	○
	% 80.0	0.0	20.0	0.0	0.0				
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 4	1	0	0	0	3.8	0.40	3.8	
	% 80.0	20.0	0.0	0.0	0.0				
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 5	0	0	0	0	4.0	0.00	3.8	○
	% 100.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 4	1	0	0	0	3.8	0.40	3.5	○
	% 80.0	20.0	0.0	0.0	0.0				
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 4	1	0	0	0	3.8	0.40	3.8	
	% 80.0	20.0	0.0	0.0	0.0				
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 4	1	0	0	0	3.8	0.40	3.8	
	% 80.0	20.0	0.0	0.0	0.0				
Q7 私はこの授業に満足した	人 4	1	0	0	0	3.8	0.40	3.7	
	% 80.0	20.0	0.0	0.0	0.0				
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 4	1	0	0	0	3.8	0.40	3.3	◎
	% 80.0	20.0	0.0	0.0	0.0				
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 5	0	0	0	0	4.0	0.00	3.7	○
	% 100.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 4	1	0	0	0	3.8	0.40	3.8	
	% 80.0	20.0	0.0	0.0	0.0				

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員		曜日・講時	
専攻	(28) 人間文化専攻			履修者数	88名
科目				回収数(率)	87名 98.9%

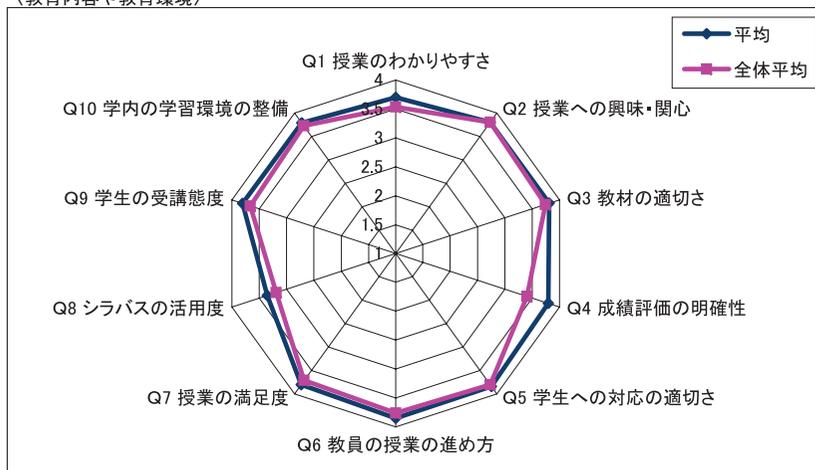
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

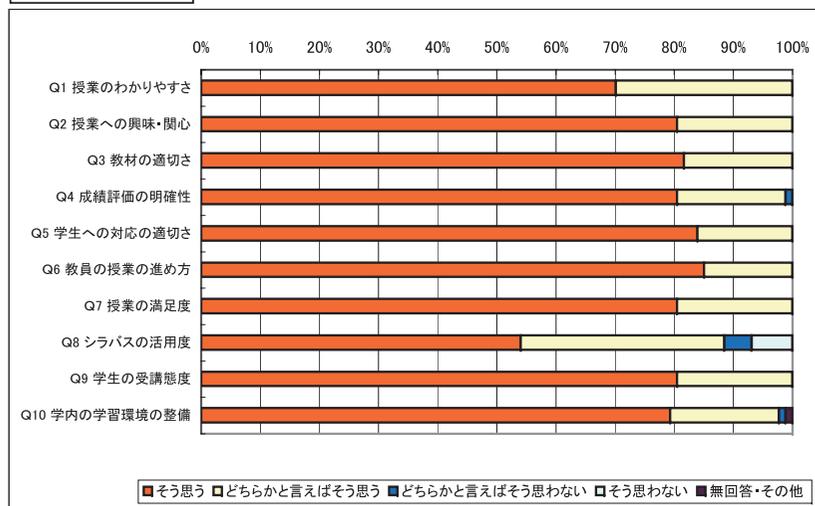
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 61 % 70.1	26 29.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.7	0.46	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 70 % 80.5	17 19.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.8	○
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 71 % 81.6	16 18.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.39	3.7	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 70 % 80.5	16 18.4	1 1.1	0 0.0	0 0.0	3.8	0.43	3.4	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 73 % 83.9	14 16.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.37	3.8	▼
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 74 % 85.1	13 14.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.9	0.36	3.8	
Q7 私はこの授業に満足した	人 70 % 80.5	17 19.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.7	
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 47 % 54.0	30 34.5	4 4.6	6 6.9	0 0.0	3.4	0.86	3.2	◎
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 70 % 80.5	17 19.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.7	○
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 69 % 79.3	16 18.4	1 1.1	0 0.0	1 1.1	3.8	0.43	3.7	○

評価レーダーチャート

<教育内容や教育環境>



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻	(28) 人間文化専攻		履修者数	46名
科目			回収数(率)	45名 97.8%

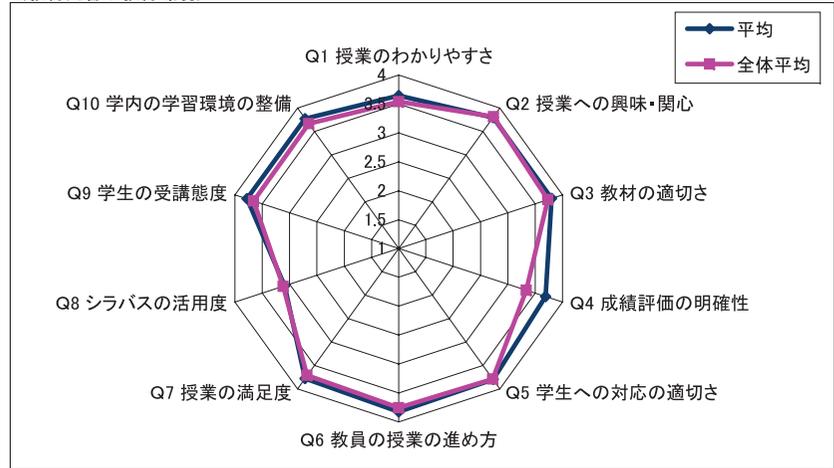
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

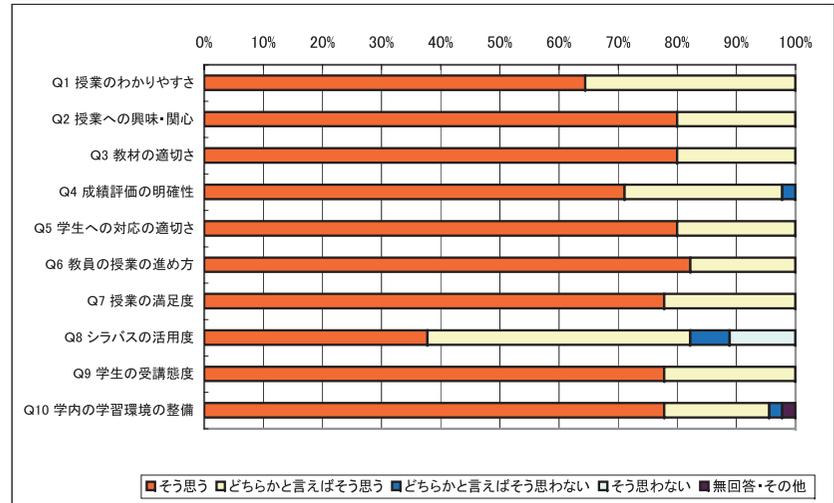
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 29 % 64.4	16 35.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.6	0.48	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 36 % 80.0	9 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.8	
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 36 % 80.0	9 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.7	
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 32 % 71.1	12 26.7	1 2.2	0 0.0	0 0.0	3.7	0.51	3.3	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 36 % 80.0	9 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.8	▼
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 37 % 82.2	8 17.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.38	3.8	
Q7 私はこの授業に満足した	人 35 % 77.8	10 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.42	3.7	
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 17 % 37.8	20 44.4	3 6.7	5 11.1	0 0.0	3.1	0.94	3.1	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 35 % 77.8	10 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.42	3.7	○
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 35 % 77.8	8 17.8	1 2.2	0 0.0	1 2.2	3.8	0.47	3.7	◎

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員		曜日・講時	
専攻	(28) 人間文化専攻			履修者数	42名
科目				回収数(率)	42名 100.0%

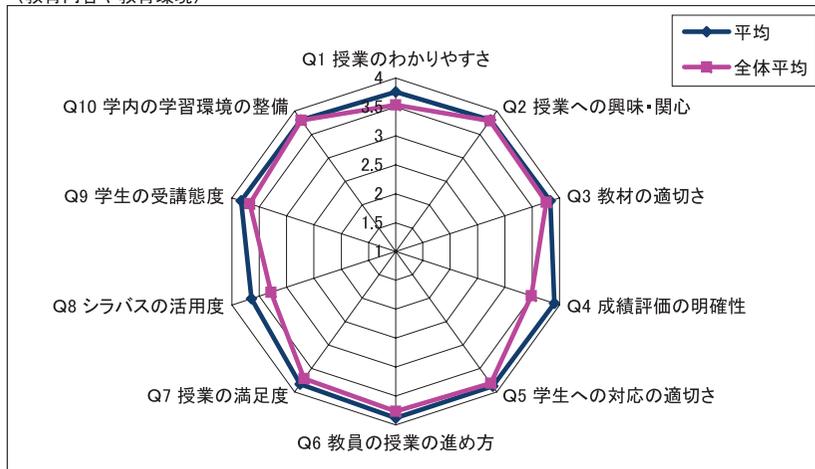
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

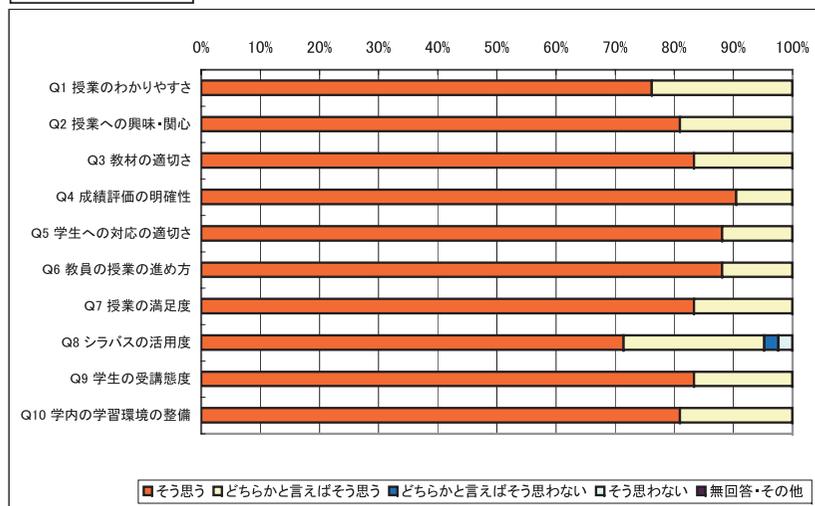
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 32 % 76.2	10 23.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.43	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 34 % 81.0	8 19.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.39	3.8	○
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 35 % 83.3	7 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.37	3.8	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 38 % 90.5	4 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.9	0.29	3.5	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 37 % 88.1	5 11.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.9	0.32	3.8	▼
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 37 % 88.1	5 11.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.9	0.32	3.8	▼
Q7 私はこの授業に満足した	人 35 % 83.3	7 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.37	3.7	○
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 30 % 71.4	10 23.8	1 2.4	1 2.4	0 0.0	3.6	0.65	3.3	◎
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 35 % 83.3	7 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.37	3.7	
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 34 % 81.0	8 19.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.39	3.8	○

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員		曜日・講時	
専攻	(260) 生活福祉文化専攻			履修者数	56名
科目				回収数(率)	48名 85.7%

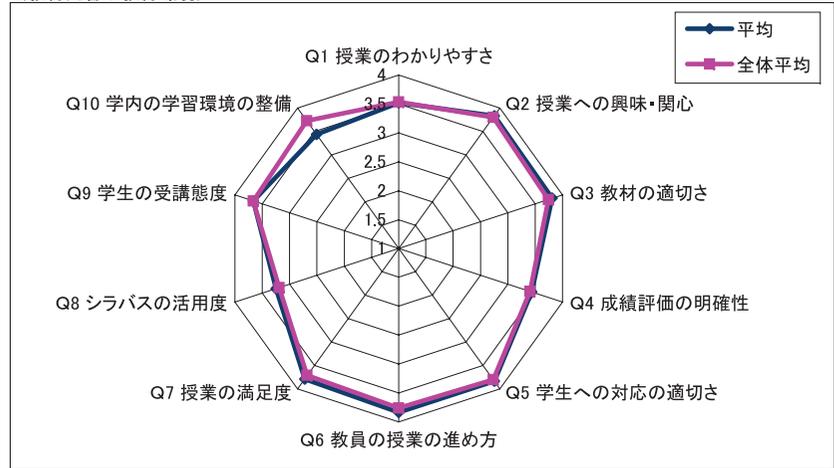
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

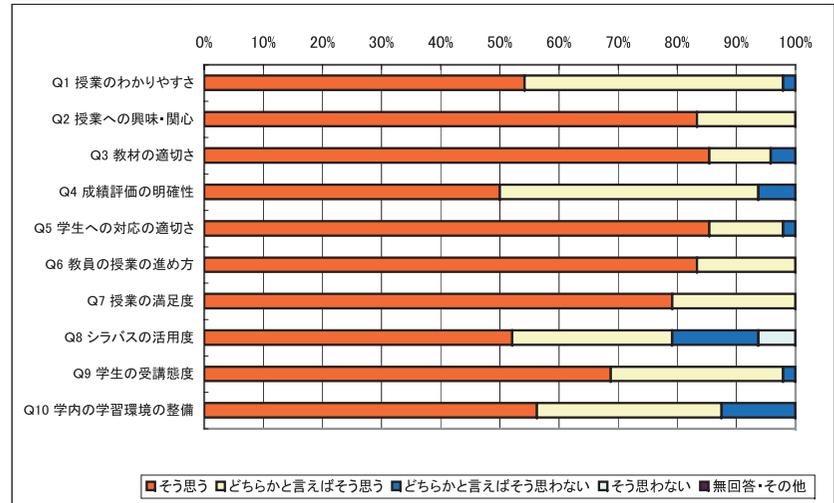
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 26 % 54.2	21 43.8	1 2.1	0 0.0	0 0.0	3.5	0.54	3.5	
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 40 % 83.3	8 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.37	3.8	▼
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 41 % 85.4	5 10.4	2 4.2	0 0.0	0 0.0	3.8	0.49	3.7	
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 24 % 50.0	21 43.8	3 6.3	0 0.0	0 0.0	3.4	0.61	3.4	▼
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 41 % 85.4	6 12.5	1 2.1	0 0.0	0 0.0	3.8	0.42	3.8	▼
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 40 % 83.3	8 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.37	3.8	▼
Q7 私はこの授業に満足した	人 38 % 79.2	10 20.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.41	3.7	▼
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 25 % 52.1	13 27.1	7 14.6	3 6.3	0 0.0	3.3	0.92	3.2	▼
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 33 % 68.8	14 29.2	1 2.1	0 0.0	0 0.0	3.7	0.51	3.7	
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 27 % 56.3	15 31.3	6 12.5	0 0.0	0 0.0	3.4	0.70	3.7	

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員		曜日・講時	
専攻	(260) 生活福祉文化専攻			履修者数	30名
科目				回収数(率)	28名 93.3%

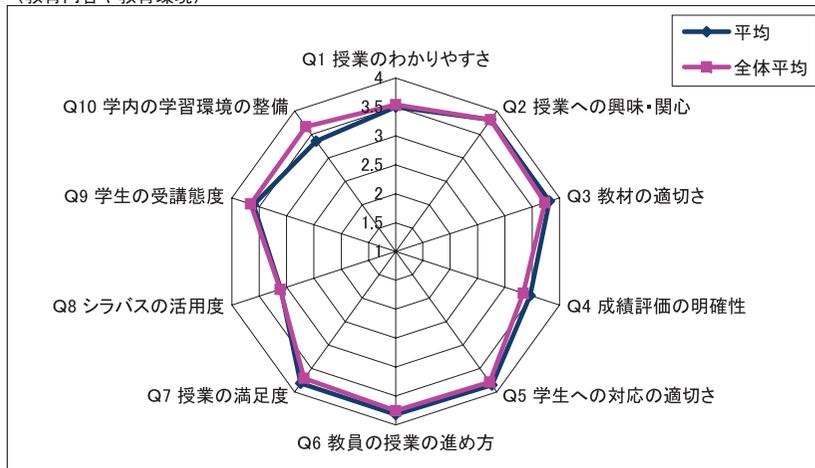
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

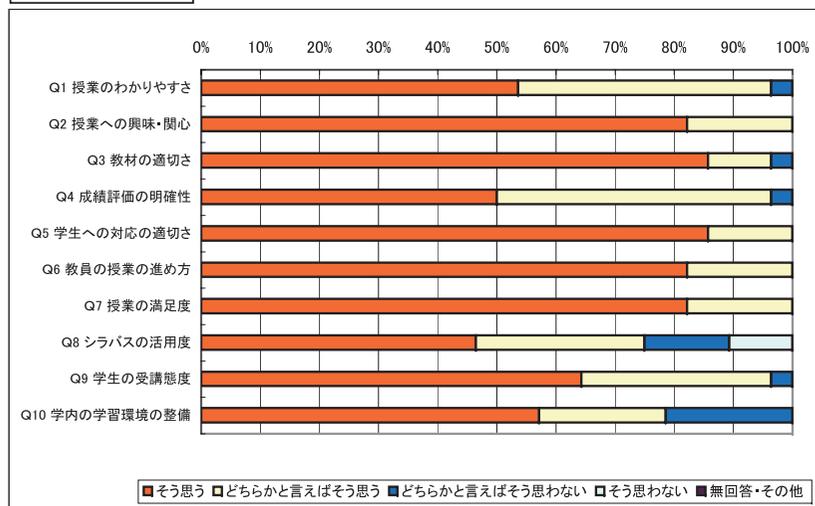
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 15 % 53.6	12 42.9	1 3.6	0 0.0	0 0.0	3.5	0.57	3.5	▼
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 23 % 82.1	5 17.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.38	3.8	▼
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 24 % 85.7	3 10.7	1 3.6	0 0.0	0 0.0	3.8	0.47	3.7	▼
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 14 % 50.0	13 46.4	1 3.6	0 0.0	0 0.0	3.5	0.57	3.3	▼
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 24 % 85.7	4 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.9	0.35	3.8	▼
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 23 % 82.1	5 17.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.38	3.8	▼
Q7 私はこの授業に満足した	人 23 % 82.1	5 17.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.38	3.7	▼
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 13 % 46.4	8 28.6	4 14.3	3 10.7	0 0.0	3.1	1.01	3.1	▼
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 18 % 64.3	9 32.1	1 3.6	0 0.0	0 0.0	3.6	0.56	3.7	▼
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 16 % 57.1	6 21.4	6 21.4	0 0.0	0 0.0	3.4	0.81	3.7	

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(001) 人間文化研究科	教員	曜日・講時	
専攻	(260) 生活福祉文化専攻		履修者数	26名
科目			回収数(率)	20名 76.9%

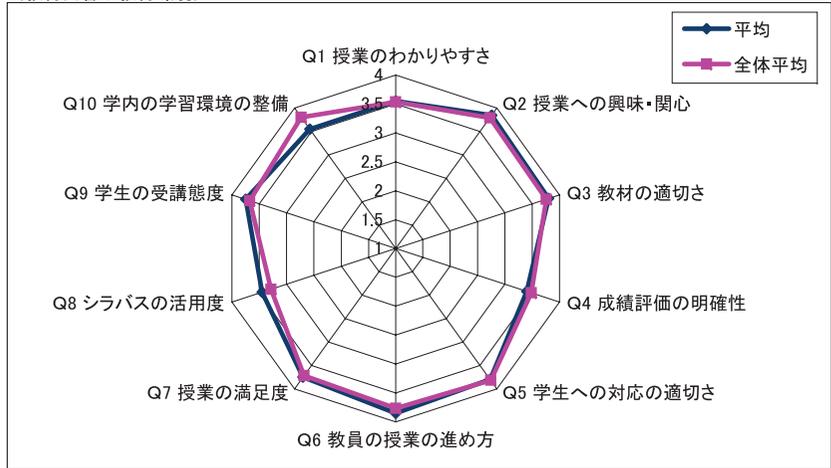
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 ■…全体平均より高い ○…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

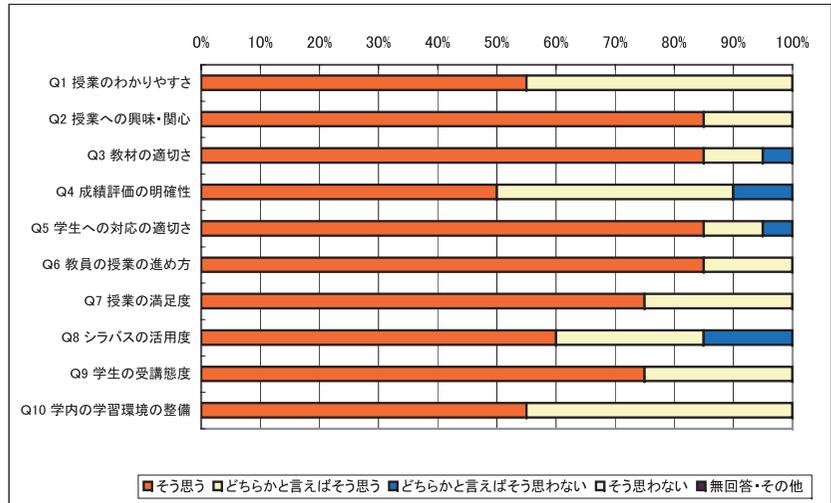
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 11 % 55.0	9 45.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.6	0.50	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 17 % 85.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.9	0.36	3.8	▼
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 17 % 85.0	2 10.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.51	3.8	
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 10 % 50.0	8 40.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	3.4	0.66	3.5	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 17 % 85.0	2 10.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.51	3.8	▼
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 17 % 85.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.9	0.36	3.8	
Q7 私はこの授業に満足した	人 15 % 75.0	5 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.43	3.7	▼
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 12 % 60.0	5 25.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	3.5	0.74	3.3	
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 15 % 75.0	5 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.43	3.7	○
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 11 % 55.0	9 45.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.6	0.50	3.8	

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(002) 心理学研究科	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	311名
科目			回収数(率)	285名 91.6%

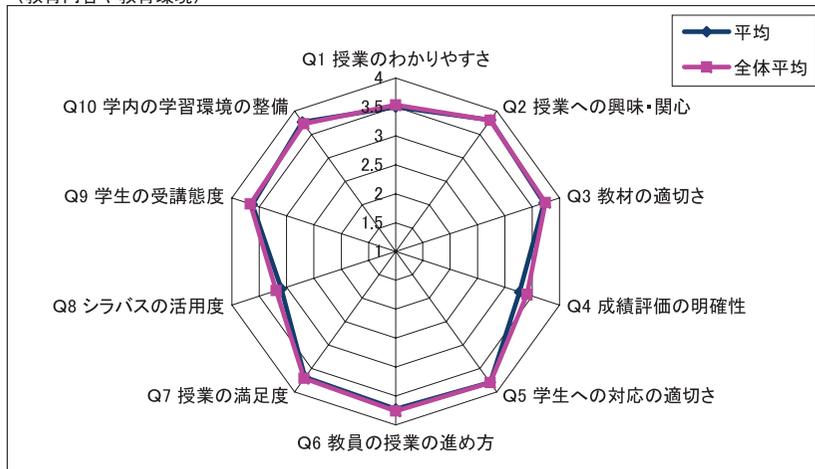
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い □…去年より平均が0.5以上増加 □…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

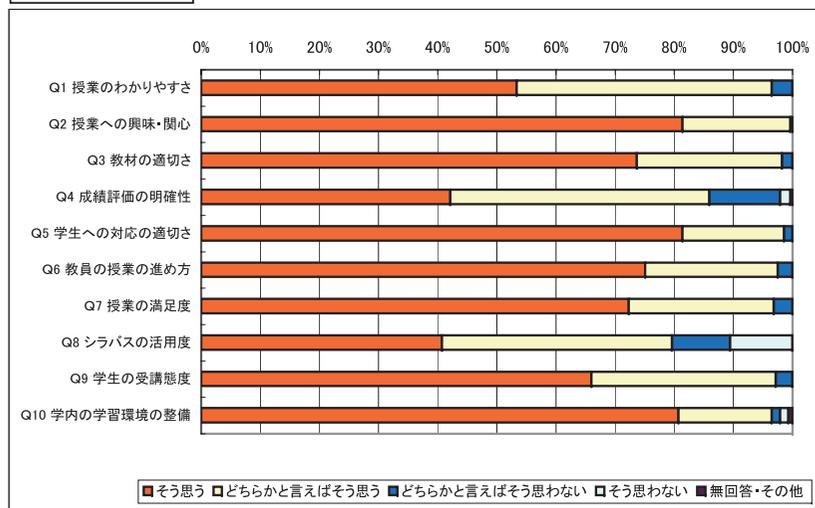
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 152 % 53.3	123 43.2	10 3.5	0 0.0	0 0.0	3.5	0.57	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 232 % 81.4	52 18.2	1 0.4	0 0.0	0 0.0	3.8	0.40	3.8	○
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 210 % 73.7	70 24.6	5 1.8	0 0.0	0 0.0	3.7	0.49	3.7	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 120 % 42.1	125 43.9	34 11.9	5 1.8	1 0.4	3.3	0.74	3.4	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 232 % 81.4	49 17.2	4 1.4	0 0.0	0 0.0	3.8	0.43	3.8	○
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 214 % 75.1	64 22.5	7 2.5	0 0.0	0 0.0	3.7	0.50	3.8	○
Q7 私はこの授業に満足した	人 206 % 72.3	70 24.6	9 3.2	0 0.0	0 0.0	3.7	0.53	3.7	○
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 116 % 40.7	111 38.9	28 9.8	30 10.5	0 0.0	3.1	0.96	3.2	
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 188 % 66.0	89 31.2	8 2.8	0 0.0	0 0.0	3.6	0.54	3.7	○
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 230 % 80.7	45 15.8	4 1.4	4 1.4	2 0.7	3.8	0.54	3.7	◎

評価レーダーチャート

<教育内容や教育環境>



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(002) 心理学研究科	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	173名
科目			回収数(率)	164名 94.8%

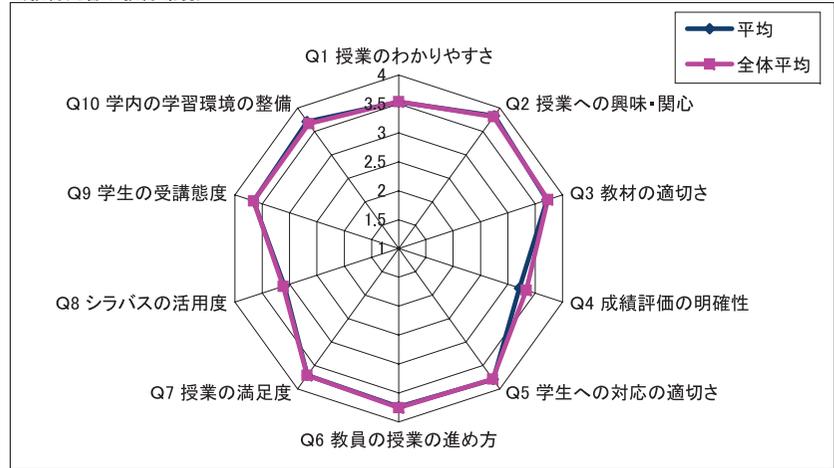
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1~0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

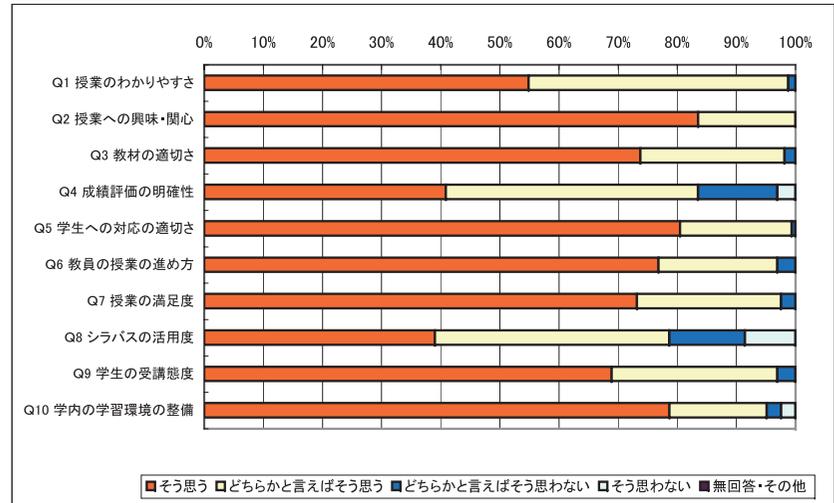
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 90 % 54.9	72 43.9	2 1.2	0 0.0	0 0.0	3.5	0.52	3.5	
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 137 % 83.5	27 16.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3.8	0.37	3.8	○
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 121 % 73.8	40 24.4	3 1.8	0 0.0	0 0.0	3.7	0.49	3.7	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 67 % 40.9	70 42.7	22 13.4	5 3.0	0 0.0	3.2	0.79	3.3	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 132 % 80.5	31 18.9	1 0.6	0 0.0	0 0.0	3.8	0.42	3.8	○
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 126 % 76.8	33 20.1	5 3.0	0 0.0	0 0.0	3.7	0.50	3.8	○
Q7 私はこの授業に満足した	人 120 % 73.2	40 24.4	4 2.4	0 0.0	0 0.0	3.7	0.51	3.7	○
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 64 % 39.0	65 39.6	21 12.8	14 8.5	0 0.0	3.1	0.92	3.1	
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 113 % 68.9	46 28.0	5 3.0	0 0.0	0 0.0	3.7	0.53	3.7	
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 129 % 78.7	27 16.5	4 2.4	4 2.4	0 0.0	3.7	0.63	3.7	○

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



平成23年度 授業評価アンケート結果集計表

研究科	(002) 心理学研究科	教員	曜日・講時	
専攻			履修者数	138名
科目			回収数(率)	121名 87.7%

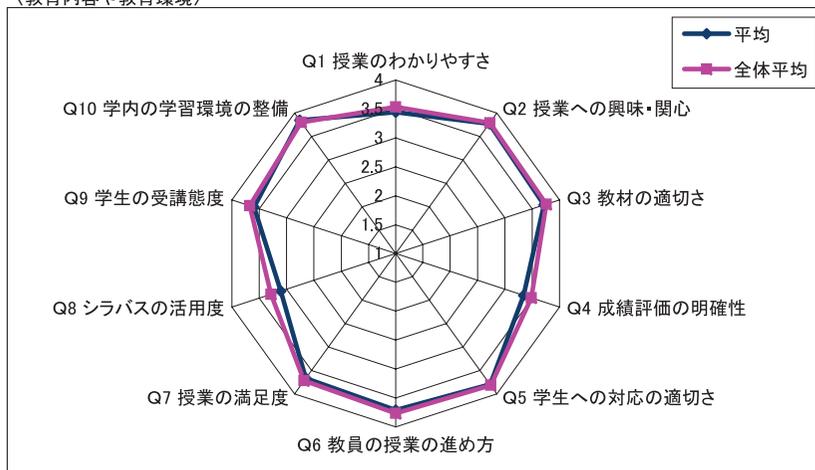
単純集計

(■…一番回答の多い選択肢 □…全体平均より高い ◎…去年より平均が0.5以上増加 ○…平均が0.1～0.49増加 ▼…平均が0.1以上減少)

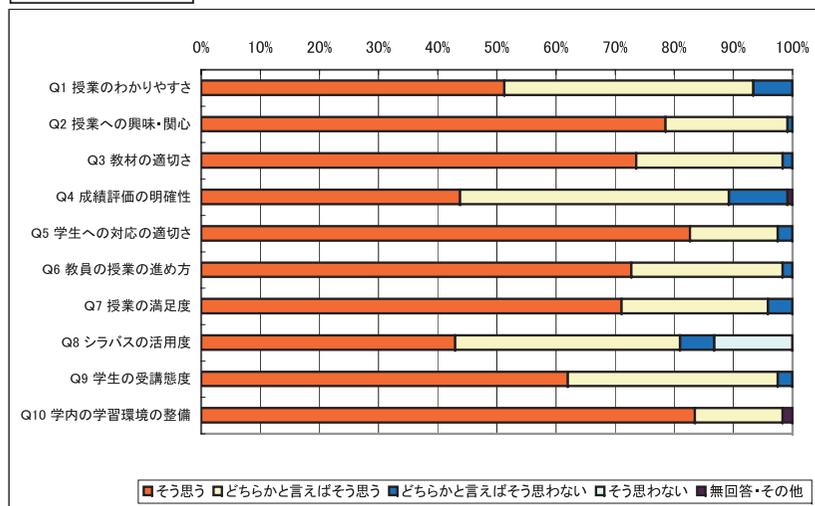
	4	3	2	1	無回答	平均	標準偏差	全体平均	経年比較
Q1 授業の内容を理解できた	人 62 % 51.2	51 42.1	8 6.6	0 0.0	0 0.0	3.4	0.62	3.5	○
Q2 授業の内容に興味・関心をもてた	人 95 % 78.5	25 20.7	1 0.8	0 0.0	0 0.0	3.8	0.44	3.8	○
Q3 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	人 89 % 73.6	30 24.8	2 1.7	0 0.0	0 0.0	3.7	0.48	3.8	○
Q4 成績評価の仕方が明確に示されていた	人 53 % 43.8	55 45.5	12 9.9	0 0.0	1 0.8	3.3	0.65	3.5	○
Q5 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	人 100 % 82.6	18 14.9	3 2.5	0 0.0	0 0.0	3.8	0.46	3.8	○
Q6 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	人 88 % 72.7	31 25.6	2 1.7	0 0.0	0 0.0	3.7	0.49	3.8	○
Q7 私はこの授業に満足した	人 86 % 71.1	30 24.8	5 4.1	0 0.0	0 0.0	3.7	0.55	3.7	○
Q8 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	人 52 % 43.0	46 38.0	7 5.8	16 13.2	0 0.0	3.1	1.00	3.3	○
Q9 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	人 75 % 62.0	43 35.5	3 2.5	0 0.0	0 0.0	3.6	0.54	3.7	○
Q10 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	人 101 % 83.5	18 14.9	0 0.0	0 0.0	2 1.7	3.8	0.36	3.8	◎

評価レーダーチャート

〈教育内容や教育環境〉



評価帯グラフ



4. 学部における全学的観点からみた回答の傾向

(1) 2011（平成 23）年度の全体的傾向

2011（平成 23）年度授業評価アンケート集計結果を全学的に分析した結果として、以下の点をあげることができる。

1) 「授業のテーマの明確さ」について、本学の学生の 6 割以上が「そう思う」と答えており、「どちらかと言えばそう思う」を加えると、95.0% の学生が授業が明確だったと答えた。また 4 点満点における平均値も 3.6 であったことから、授業のテーマの明確さは高く評価されていると言える。

2) 「教員の授業への熱意」についても、93.9% の学生が「そう思う」あるいは「どちらかと言えばそう思う」と答えた。また 4 点満点における平均値も 3.5 であったことから、教員の授業への熱意は高く評価されていると言える。

3) 「教員から要求された自主学習をしたか」については、「どちらかと言えばそう思わない」あるいは「そう思わない」と答えた学生が、18.7% もいることから、約 5 分の 1 もの学生が、教員から要求された自主学習をしないで授業に出ていることが、明らかになった。

4) 「シラバスの活用度」や「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」という項目に関する返答として、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」と答えた学生が、それぞれ、28.2%（シラバスを活用していない割合）、11.6%（授業中に意欲的・積極的でないと自ら認めた割合）もいた。これらの結果から、本学には、主体性を持たずに、受け身の態度で授業に出ている学生が、一定数、存在していると言える。

(2) 2011（平成 23）年度アンケート項目別全学的回答傾向（大学）

次に、2011（平成 23）年度のそれぞれの質問項目について、年度の集計結果から、全学的回答傾向をまとめて以下に報告する。

1) 教員（授業）について

①授業のテーマは、はっきりしていた

全学（大学）の平均は 3.6 であった。この項目は、「英語英文学科」が 3.7 と最も高く、「人間文化学科」「生活福祉文化学部」「その他の資格科目」が 3.6 であったが、「共通教育科目」と「心理学部」が 3.5 と、他と比べて低かった。

②授業の内容を理解できた

全学（大学）の平均は 3.3 であった。この項目で一番高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、一番低かったのは「共通教育科目」の 3.2 であった。

③授業内容に興味・関心をもてた

全学（大学）の平均は 3.4 であった。この項目で一番高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、1 番低かったのは「共通教育科目」の 3.2 であった。

④この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ

全学（大学）の平均は 3.3 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、最も低かったのは「共通教育科目」の 3.2 であった。

⑤この授業では、学習に集中することができた

全学（大学）の平均は 3.3 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、最も低かったのは「共通教育科目」の 3.2 であった。

⑥授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった

全学（大学）の平均は 3.4 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、最も低かったのは「共通教育科目」の 3.3 であった。

⑦成績評価の仕方が明確に示されていた

全学（大学）の平均は 3.3 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.5 であった。またこの項目で最も低かったのは「共通教育科目」と「心理学部」の 3.3 であった。

⑧教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった

全学（大学）の平均は 3.5 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、最も低かったのは「共通教育科目」と「心理学部」の 3.4 であった。

⑨教員のプレゼンテーション(板書・パワーポイント・CD プレーヤーなど)は適切であった

全学（大学）の平均は 3.4 あった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、最も低かったのは「共通教育科目」と「心理学部」と「その他の資格科目」の 3.4 であった。

⑩教員は、学生の質問や相談に適切に対応した

全学（大学）の平均は 3.4 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.7 であった。またこの項目で最も低かったのは「共通教育科目」の 3.3 であった。

⑪教員の授業への取り組みに、熱意を感じた

全学（大学）の平均は 3.5 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.7 であった。またこの項目で最も低かったのは「共通教育科目」と「心理学部」の 3.4 であった。

⑫教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた

全学（大学）の平均は 3.4 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.7 で、最も低かったのは「共通教育科目」の 3.3 であった。

2) あなたについて

⑬私はこの授業に満足した

全学（大学）の平均は 3.4 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.6 で、この項目で最も低かったのは「共通教育科目」の 3.3 であった。

⑭私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ

全学（大学）の平均は 3.0 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」と「人間文化学科」の 3.2 で、最も低かったのは「共通教育科目」と「心理学部」の 2.9 であった。

⑮授業中は意欲的・積極的に取り組んだ

全学（大学）の平均は 3.3 であった。この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.5 で、最も低かったのは「共通教育科目」の 3.2 であった。

⑯教員から要求された自主学習（予習／復習、宿題や準備）をしましたか

全学（大学）の平均は 3.2 で、この項目で最も高かったのは「英語英文学科」の 3.4 で、最も低かったのは「共通教育科目」と「生活福祉文化学部」と「心理学部」の 3.1 であった。

⑰この授業で、何回欠席しましたか

〔基準：4（0回）、3（1回）、2（2～3回）、1（4回以上）〕

全学（大学）の平均は 3.1 で、出席率の得点が最も高かったのは「共通教育科目」と「心理学部」と「その他の資格科目」の 3.2 で、最も低かったのは「英語英文学科」の 2.9 であった。

以上が各項目の今年度の傾向である。

なお、今年度の結果は、過去 3 年間と、非常に共通点の多い結果となっている。3 年間を通じて、どの項目も概して英語英文学科の点数が高い。具体的な結果の比較を表にすると、次のようになる。

I・4・1 平成 21 年度～平成 23 年度の平均値比較

項目 番号	平成 21 年度 平均値	平成 22 年度 平均値	平成 23 年度 平均値	過去 3 年間に共通する傾向
①	3.5	3.6	3.6	「共通教育」の点数が低い
②	3.3	3.3	3.3	「英語英文学科」の点数が高い
③	3.3	3.3	3.4	「共通教育」の点数が低い
④	3.2	3.3	3.3	「共通教育」の点数が低い
⑤	3.3	3.3	3.3	「共通教育」の点数が低い
⑥	3.4	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高い
⑦	3.3	3.3	3.3	「英語英文学科」の点数が高い
⑧	3.4	3.5	3.5	「共通教育」の点数が低い
⑨	3.3	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高い
⑩	3.4	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高く、「共通教育」の点数が低い
⑪	3.5	3.5	3.5	「英語英文学科」の点数が高い
⑫	3.3	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高い
⑬	3.3	3.4	3.4	「英語英文学科」の点数が高く、「共通教育」の点数が低い
⑭	2.9	3.0	3.0	「心理学部」の点数が低い
⑮	3.2	3.3	3.3	「英語英文学科」の点数が高い
⑯	—	3.1	3.2	「英語英文学科」の点数が高い
⑰	3.2	3.1	3.1	「英語英文学科」の点数が低い

文責：吉田 智子（人間文化学科 教授）

5. 学部における共通教育科目・学部・学科ごとの分析と課題

(学生による授業評価アンケート結果に対する全体的解釈等)

(1) 共通教育科目

1) 共通教育科目を全体的にみた現状の説明

授業への満足度をみると(Q13)、3.3と特に悪くはないものの、満足していない学生(「どちらかと言えばそう思わない」+「そう思わない」)が15%弱存在する。その要因として考えられることは、教材や成績評価の妥当性、教員の対応の仕方や熱意の有無などであるが、それらに対応するQ6~12の結果をみる限り、とりたてて悪いものはない。ただし満足度の低い学生を取り出したデータをみると、授業の進め方(Q12)の評価がやや低い。Q14~16の平均値が相対的に低く、むしろ学生自身の授業に向き合う姿勢のほうにやや問題があるといえる。なかでもシラバスをよく読んでいない学生の割合が1/3(33.1%)にのぼる。共通教育科目には選択の余地のない必修科目が多いことも、一因ではないかと推察される。

2) 長所と改善点

出席状況をみると、4回以上欠席した者が4.4%存在するものの、約半数(47.5%)は全回出席している。総じて出席を促すことはまずまずできていると思われる。4回以上欠席した者のその原因の傾向はこのデータからは読み取れず、個々の学生や授業の状況によるとしかいえない。教員の熱意(Q11)を感じないとする学生は1割未満にとどまり(7.7%)、全体的に熱心に授業を運営していると評価されている。個別にみれば、教材や質問への対応、授業の進め方など、教員の授業運営の問題が潜在するものとみられるが、本調査データからは分析不能である。むしろ、学生の履修態度、特に上述したシラバスの活用の点で改善の余地があると考えられる。

3) 改善の方策

シラバスを学生に読ませるには履修指導が基本となるが、日常の授業においても、シラバス表記にしたがって、授業冒頭で当該授業の内容や目標を説明したり、終わりに次回の予告をするなど、シラバスを話題に出すようにして、学生の意識づけを行うことなどが望まれる。

さらに上述したように、学生の反応を見ながらの授業運営ができていない科目があることが、学生の満足度評価に関わっていることから、すべての教員が、学生の理解の度合いを測りながら授業をすすめることを心掛ける必要がある。

4) 今後の課題

2010(平成22)年度と比較すると、提示された情報を見る限りデータの傾向にはほとんど差はない。アンケート回収率が69.6%から74.7%へと5ポイント増えて、授業評価アンケートそのものはいっそう定着した感はあるが、そもそも多様な共通教育科目全体の集計結果をみても、そこから読み取れるものはわずかである。各科目の

結果分析と振り返りは個々に委ねざるを得ないとしても、せめて分類された科目群、「ライフキャリア形成科目」「カトリック教育科目」「リテラシー・スポーツ科目」「外国語科目」「教養科目」（いずれも 2012（平成 24）年度から適用の科目区分）ごとに集計したデータを見る必要がある。また、共通教育科目は非常勤講師の比重が高いが、「専任教員」「非常勤講師」と大まかな担当者別に集計してみることもよいのではないかと考える。

文責：中村 久美（共通教育検討小委員会 幹事 生活福祉文化学部 教授）

（2）人間文化学部 英語英文学科

1）学部・学科の科目を全体的にみた現状の説明

The department seems to have received a very good evaluation, compared to the average; however, as one member mentioned, this may be due to the way students in our department tend to evaluate their classes. That is, our students tend to evaluate their classes and teachers more highly than the rest of the student body.

What seems to be most prominent, as far as the evaluation is concerned, is that our students tend to miss more classes than the average. We discussed in our previous meetings what we could do about this, and this year the situation seems to have improved somewhat, but it is still not as good as the average.

There may be reasons for this. We have classes that meet twice a week, 30 times in total, such as Reading & Writing, Advanced Reading, Speaking & Listening, etc. In these classes, students are obviously going to be absent twice as often as in those classes that meet 15 times per year. The reason for many absences may be due to this.

2）長所と改善点

Lecture (content) classes seem less popular than classes in which students make or do something. It might be better to separate these two types of classes when asking students for evaluation.

3）改善の方策

Q14, which asks whether the students have read the syllabus before taking the class, should be for electives and not for required classes. However, we have agreed to read the syllabus at the first class meeting before beginning class work to make sure the students know what they

are getting into before we actually begin class work. They should get used to the idea of reading the syllabus before taking any class.

As for Q16, which asks whether students study outside the class, we should perhaps ask them how many hours they study instead of whether they study or not. It would at least be more informative for the teacher to know how much work they put in, rather than whether they do any work or not.

The scores on Q2, which asks students whether or not they understood the content, should, according to some teachers, be lower than what we actually received. University classes involve some very difficult content that should not be as easy as students wish. In some classes, where there were many dropouts (starting out with, say, 40 students enrolled and ending up with only 5 to 10 finishing), the evaluation classes tended to be very high. The content was very difficult but the students seemed to be satisfied with what they learned.

4) 今後の課題

Regarding absences, instead of telling the students “they can ...” we should have a system where absences will be costly to their performance in class, which is usually the case, or positively evaluated in their grades. Students tend to work hard if it will influence their grades in some way. As for the syllabus, we should read the syllabus in the first class hour to make sure they understand what they are required to do to get a certain grade.

文責：新井 康友（人間文化学部 英語英文学科長）

（3）人間文化学部 人間文化学科

1) 学部・学科の科目を全体的にみた現状の説明

評価レーダーチャートなどを見る限り、人間文化学科については、昨年度とあまり変わったようには見えない。アンケート回収率が低い科目は、履修者が科目を途中で放棄するためである。ただ、全体的に回収率が昨年よりも少し上がったように見えるのは、GPA 導入と関係があるのではないか。

全学の中で英語英文学科の評価結果がとくに高く、平均点も上昇しているのはなぜか、データ以外の具体的記述などを見て参考にしたい。そもそも強制的に全員が取らされる必修科目と自分の意志で選び取る選択科目とでは、評価に差が出るのは当然であり、共通教育科目の評価が低くなっているのも、そのような事情によるものであろう。

2) 長所と改善点

人間文化学科の一例であるが、昨年と同じ授業で、パワーポイントを新たに導入したら、評価が改善された。やはり、テレビやインターネットなどに親しんできた現代の大学生には、聴覚だけを使う講義よりも、文字や映像で知識をしっかりと整理し、印象づける授業のほうが受け入れられやすいのかもしれない。とくに、聴覚障害の学生には、パワーポイントを用いることは、有効である。

全体的に、改善点が見えにくくなっている。学生たちも毎年每期全クラス、同じ形式で書かされるフォーマットに対し、真剣味を失いおざなりに書く傾向があり、数値にそんなに大きな意味を見出すことはできなくなっているのではないか。

3) 改善の方策

90分間ひたすら教員の話の聴くという授業に付いて来られない学生が増えており、ディスカッションやプレゼンテーションなど、自ら参加する形式の授業を工夫・展開する必要がある。その意味では、大教室での授業ではなく、クラスの少人数化をはかる必要があるだろう。

授業評価アンケートの実施方法について、いつも学期末の慌ただしい時期に、10～20分を割いて実施しているが、試験実施前後ということもあって、学生たちも落ち着いて回答できる状況ではなく、ほとんど何も考えずに機械的に同じ数字に○を付ける光景を目にすることがある。このような状況を改善すべく、他大学が導入しているように、Webを用いた評価システムに改めるべきではないか。

他大学の知人は、毎時間ミニットペーパーを書かせて、それを出席票兼授業評価票として用いている。次の時間に主な質問項目や指摘事項について言及し、フィードバックを行っている。

4) 今後の課題

授業評価アンケートが自己目的化していないか。FDなのだから、developしなければ意味がない。これほど大きなお金をかけて、データを取り証拠を残すことよりも、どのように大学教育を改善していくかということが事業の中心になるべきであり、少し発想を転換すべき時期に来ているのではないか。

データを取ることも、評価結果をどのように授業にフィードバックするかの方がはるかに大切であり、その意味で、学科1年次生必修科目「基礎演習」などにおいて、授業中に実施したアンケートの結果をその都度公開し、教育効果向上の一助としているが、そのような取り組みや、個々の教員が独自に行っている創意工夫など、さまざまな活動の総体をFDとして認定すべきである。

他大学の方法などを参考にして、評価方法を少し見直してもよいのではないか。教員への遠慮もあり、現状のアンケート質問項目は、学生も遠慮しがちになる。具体的に「もっと……すべきである」といった項目を設定してもよいのではないか。また、自由記述がもっと書きやすくなる質問用紙にすべきではないか。

文責：堀 勝博（人間文化学部 人間文化学科長）

(4) 生活福祉文化学部

1) 学部・学科の科目を全体的にみた現状の説明

- ① 回収率については前年度と比較して前期は低かったが、後期になると高くなり、年度の平均では昨年を少し上回った 2.2%アップの 74.3%であったが、昨年、一昨年と後期になると低下していた回収率を少し (7.3%) は改善させることができたのではないかとと思われる。
- ② 評価項目 17 のうち 6 項目が本学の全体評価平均より高く、10 項目に関しては同結果、後の 1 項目に関しては 0.1 低かった。0.1 低く評価されたのは昨年と同様に「教員から要求された自主学習をしましたか」に対しての評価であった。この項目に関しては昨年度よりも 0.1 改善されたが、本学全体でも 0.1 改善され、本学部での改善が及ばなかったことになる。
- ③ 評価項目ごとに学部の昨年度の結果と比較すると、昨年度の評価よりも高く評価された項目は「理解度の低い群で、教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」のみで、昨年の評価よりも低く評価された項目は 6 項目あり、それぞれ 0.1 低かった。
- ④ 授業内容の理解度が高い群と低い群で評価項目の評価値を比較すると、昨年同様、教員への評価は高い群で高く、低い群で低く、学生自身の評価である「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」の項目評価は低い群で非常に低くなっているが、「この授業で何回欠席しましたか」では欠席は少ないとしている学生が多いことから、授業に対する理解度の低い学生の中にも、やる気はあるが理解ができていない学生のいることが分かる。

2) 長所と改善点

- ① 評価項目 17 のうち学生自身の評価項目に低い評価が多い傾向にある。これは昨年度と同様の結果で、この点つまり学生たち自身の評価も高められるように教員が指導を行っていかなければならない。
- ② 「履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」「教員から要求された自主学習をしましたか」の項目において、選択肢 3 を選択した学生が最も多かったことより、この点での指導に力を注いでいく必要を感じた。
- ③ 授業の理解度の低い学生の割合が昨年度 (14.4%) に続き今年度 (8.6%) も減少しているが、この割合を更に減少させなければならない。

3) 改善の方策

- ① 回収率の改善、シラバスの活用改善のために、授業 1 回目のオリエンテーション時に必ずシラバスの説明を行い、この科目を履修するかどうかを決定させ、教務学事課に登録の変更をさせる。この指導を教員が徹底して行う。
- ② 授業に対する理解度の低い学生の支援をどのようにおこなうか。授業の終わりにコミュニケーションペーパーなどを配布し、理解できなかつたことなどを書かせ

る。またオフィスアワーを利用して質問に来させるなどの方法を提案する。

- ③ 評価項目に挙げられ、授業を進めるにあたって大切かつ必要と思われる事項については授業時ごとに学生に徹底させることに努める。特に成績評価の仕方などを詳しく説明する。
- ④ 授業改善に向けて、教員間の情報交換の場が持てる機会をつくる。

4) 今後の課題

- ① 今年度の評価結果で目立ったのが前期の評価よりも後期の評価が高かったことで、教員側としてはいつ、如何なるときも同様に努力をしているつもりであるが、科目の違いもあり、理由を見つけることはできないが、前期から全力で授業に臨みたい。
- ② 授業や教員に対する評価結果はほとんどが 3.3～3.6 の範囲であったが、これを 0.1 ずつでも高める努力をしなければならないのと同時に学生が正しく評価できるための工夫も求められていると思われる。
- ③ 生活福祉文化学部では、資格試験をクリアするために必要な科目と資格試験に縛られない科目とでは授業方法にも違いが出てくると思われるが、できるだけ評価項目に沿って授業を進めるように努力したい。

文責：米田 泰子（生活福祉文化学部長）

(5) 心理学部

1) 学部・学科の科目を全体的にみた現状の説明

回収率は前期 75.4%、後期 75.3%、年度 75.4%であり、前期・後期・年度ともに昨年度を下回った。

すべての項目において、全学平均と同程度の評価を得ており、心理学部の授業が学生に興味・関心を抱かせ、良い刺激を与えるものになっていることが窺える。特に、「授業のテーマは、はっきりしていた」「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」「教員の授業への取り組みに、熱意を感じた」の項目では、過半数の学生が「そう思う」と回答しており、心理学部の授業に対する学生の満足度は高いと思われる。その一方で、「授業の内容を理解できた」「この授業では、学習に集中することができた」「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」「教員から要求された自主学習をしましたか」の項目では、「そう思う」よりも「どちらかと言えばそう思う」と回答した学生の方が多いという結果になった。経年比較では、大きな変化は見られなかったが、「自主学習」が昨年度よりやや向上した。

2) 長所と改善点

長所として、「授業のテーマの明確さ」に対する評価が高いこと、「授業への出席回数」が全学平均をやや上回っていることが挙げられる。また、教員の取り組みに対しては、いずれの項目においても高い評価を得ている。すべての項目で全学平均を大きく下回るものはなく、心理学部の学生は、授業に対して十分な程度の満足感を得てい

ることができる。

改善すべき点としては、授業の内容を理解することや、授業に集中し、刺激を受け、視野を広げるということに満足できていない学生がいることが挙げられる。この背景には、学生の取り組みの熱心さや習熟度にばらつきがあることが考えられる。後期から意欲や集中力が低下していく傾向が見られるのも、同様である。自ら授業に関心を持ち、内容を消化し、視野を広げていくことができるようにするため、それぞれの学生の興味・関心・習熟度に見合った授業の進め方、授業内容の工夫などが必要である。

また、シラバスが有効に活用されておらず、学生は科目の目標や内容をよく理解しないまま授業に臨んでいる。自主学習は、昨年度より向上したものの、なお全学平均を下回っており、自主学習を促すことも改善すべき点である。

3) 改善の方策

各授業の特性や目的に応じて、学生に興味や関心を抱かせ、刺激を与えうるような授業の内容と方法を具体的に考える必要がある。

また、授業のあり方だけでなく、心理学を学ぶ上で必要とされる基礎学力を高めるための取り組みが必要である。そのための方策としては、学生の習熟度に合わせたクラス編成や授業内容の工夫・指導が必要ではないかと思われる。

シラバスの活用については、授業内容の意味と目的を理解するために必要であること、予習・復習の目安にもなることなど、その必要性を年度の初めに各授業で学生に説明し、よく理解させるよう努める。

4) 今後の課題

学生が学問としての心理学の面白さ、重要性、実用性をよく理解し、授業から充実感や満足感を得られるよう、さらなる工夫を心がけることが必要である。授業の内容を理解できることは、学生が授業に対して関心を持てるかどうかを左右する重要な要因であるので、学生の個人差を考慮したきめ細やかな指導が求められる。

また、授業形態や受講者数の差異も考慮し、個々の授業改善に役立つ授業評価の方法について、検討が必要である。

文責：上田 恵津子（心理学部長）

6. 大学院における全学的観点からみた回答の傾向

(1) 2011（平成 23）年度の全体的傾向

2011（平成 23）年度、大学院授業評価アンケート集計結果を全学的に分析した結果、以下のような傾向が見られた。

1) 全体的に見ると、「授業の内容を理解できた」「授業の内容に興味・関心をもてた」「授業中に使う教材は適切であった」「成績評価の仕方が明確に示されていた」「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」「私はこの授業に満足した」「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」「自習室、研究設備等、学内の学習環境は、十分に整備されている」といった、ほぼ全ての項目について、学生評価の平均の増加が見られた。しかし、これらの結果は、平均が 0.1～0.49 の微増であり、前年度よりも改善の傾向が見られるとは言え、更なる授業内容や方法についての見直し、工夫の必要があることを示している。また、「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」については、経年比較で変化が見られなかったが、81.4%の学生が「そう思う」と答えていることから、高い満足度が維持されていることがわかった。

2) 平均が 3.7 以上の評価が高い項目について見てみると、「授業の内容に興味・関心をもてた」について 80.7%の学生が「そう思う」と答えており「そう思わない」は 0%であった。「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」については、(1)に記述した通りである。「授業中に使う教材は適切であった」「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」「私はこの授業に満足した」「自習室、研究設備等、学内の学習環境は、十分に整備されている」は、いずれも 70%以上の学生が「そう思う」と評価している。しかし、どの項目も約 20%の学生が、「どちらかと言えばそう思う」と答えており、「自習室、研究設備等、学内の学習環境は、十分に整備されている」については、「どちらかと言えばそう思わない」あるいは「そう思わない」と答えている学生が 1.6%いるため、今後、改善の余地があることを示唆する結果となっている。

3) 一方、平均が 3.5 未満の評価の低い項目については、「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」が「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」をあわせて 17.8%学生が答えており、「成績評価の仕方が明確に示されていた」が「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」という答えがあわせて 10.0%という結果になっている。「授業中は意欲的・積極的に取り組んだ」も、2.1%の学生が「どちらかと言えばそう思わない」と答えている。その原因が、教員や授業の側にあるのか、学生自身の問題にあるのか定かではないが、全体の評価の高さから考えると、学生の中に、授業についていけない者、授業内容に不満を持つ者、研究に主体的に取り組む意欲に欠ける者がいることなどが予想される。このような少数の、問題を抱えた学生に対する支援体制作りも、本学大学院の課題としてあげられる。

(2) 2011 (平成 23) 年度アンケート項目別全学的回答傾向 (大学院)

次に、2011 (平成 23) 年度のそれぞれの質問項目について、全学的回答傾向をまとめて以下に報告する。

1) 授業について

①授業の内容を理解できた。

全学 (大学院) の平均は 3.5 であった。「人間文化研究科」は 3.6 で、「人間文化専攻」は 3.7、と平均を上回っていたが「応用英語専攻」は 3.4 と、やや低めであった。「生活福祉文化専攻」「心理学研究科」は、3.5 と全学平均と同じであった。

②授業の内容に興味・関心をもてた。

全学 (大学院) の平均は 3.8 であった。「応用英語専攻」は 3.6 とやや平均より低かった。「人間文化研究科」「人間文化専攻」「生活福祉文化専攻」「心理学研究科」は、3.8 と全学平均と同じであった。

③授業中に使う教材 (テキスト・配付資料など) は適切であった

全学 (大学院) の平均は 3.7 であった。「人間文化研究科」「人間文化専攻」「生活福祉文化専攻」は 3.8 と全学平均よりやや高かった。「応用英語専攻」は 3.6 でやや低めであった。「心理学研究科」は、3.7 と全学平均と同じであった。

④成績評価の仕方が明確に示されていた

全学 (大学院) の平均は 3.4 と他の項目よりやや低めであった。「人間文化研究科」は 3.7、「応用英語専攻」は 3.6、「人間文化専攻」は 3.8 と、いずれも平均を上回っていた。「生活福祉文化専攻」は 3.4 で全学平均と同じであった。「心理学研究科」は、3.3 でやや低めであった。

2) 教員について

⑤教員は学生の質問や相談に適切に対応した

全学 (大学院) の平均は 3.8 であった。「応用英語専攻」は、3.6 で「人間文化研究科」「人間文化専攻」「生活福祉文化専攻」「心理学研究科」は、いずれも 3.8 と平均と同じであった。

⑥教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた

全学 (大学院) の平均は 3.8 と、他の項目より高めであった。「人間文化研究科」は 3.8 で、「人間文化専攻」が 3.9、「生活福祉文化専攻」は、3.8 と全体に平均より高い数値であった。「応用英語専攻」は 3.6、「心理学研究科」は、3.7 とやや低めであった。

3) あなたについて

⑦私はこの授業に満足した

全学（大学院）の平均は3.7であった。「人間文化研究科」「人間文化専攻」「生活福祉文化専攻」は3.8と平均を上回っていたが「応用英語専攻」は3.4と、やや低めであった。「心理学研究科」は、3.7であった。

⑧私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ

全学（大学院）の平均は3.2と、他の項目より低めであった。「人間文化研究科」は3.7で、「人間文化専攻」は3.4と、平均を上回っていたが「応用英語専攻」は3.7、「生活福祉文化専攻」は、3.3と、「応用英語専攻」の数値が高かった。「心理学研究科」は、3.1と、最も低かった。

⑨授業中は意欲的・積極的に取り組んだ

全学（大学院）の平均は3.7であった。「人間文化研究科」は3.7で、「人間文化専攻」は3.8、「生活福祉文化専攻」は3.7であった。「応用英語専攻」は3.5と、やや低めであった。「心理学研究科」も3.6と全学平均よりやや低めであった。

4) 教育環境について

⑩自習室、研究設備等、学内の学習環境は、十分に整備されている

全学（大学院）の平均は3.7であった。「人間文化研究科」は3.6で、「人間文化専攻」「心理学研究科」は、3.8と全学平均よりやや高めであった。「応用英語専攻」は3.5、「生活福祉文化専攻」は、3.4とやや低めであった。

以上が各項目の今年度の傾向である。

文責：田中 誉樹（心理学研究科 准教授）

7. 大学院における研究科・専攻ごとの分析と課題

(大学院生による授業評価アンケート結果に対する全体的解釈等)

(1) 人間文化研究科 応用英語専攻

1) 研究科・専攻の科目を全体的に見た現状の説明

Due to the very small size of our sample (and our student body), the results of the questionnaire are not very meaningful. However, overall our results are slightly worse this year in several areas as well as being slightly worse in comparison with the entire graduate school average. More specifically, for three questions, our results have improved, while they have worsened for the remaining seven. For two questions, we are better than average, while for eight, we are slightly, generally .1 or .2, worse.

2) 長所と改善点

Our students read the syllabus and understand our grading more than average. The general levels of contentment and interest in the classes, however, are slightly below average. Again, due to the smallness of the sample, it is difficult to judge the importance of the results.

3) 改善の方策

On the basis of the questionnaire, it is difficult to make any specific proposals. However, it seems likely that an increased personalization of our very small classes will involve the students more and increase both their satisfaction and their intellectual development.

4) 今後の課題

As was the case last year, the most important problem is the smallness of our enrollments, and we must continue to make the program more attractive to prospective students.

文責：Robert Kritzer (人間文化研究科 応用英語専攻 教授)

(2) 人間文化研究科 人間文化専攻

1) 研究科・専攻の科目を全体的に見た現状の説明

本年も、授業評価アンケートの方法そのものについての議論に始まり、そのことの改善策の検討で研修会の大学院割り当て時間は終始した。われわれ自身、専攻の科目の集計を全体的に見て、その現状について議論することは大いに望むところであり、授業評価アンケートの大学院における実施自体は意義のあることとするが、以下の理由から、方法において問題を含んでいると考えられる。また、その結果は完全に信頼はできないのではないかと。理由1. 記入者が容易に特定できることから、客観的な回

答が期待できない。理由 2. 記入自体は意義のあることとしても、記入者の絶対数が少なく、分母数の極小な統計に大きな信頼はよせられない。

この調査に大学が支出する費用は大変大きなものであるし、われわれ教員も（学生の）貴重な授業時間を割いて行うのであるからには、上記 1. 2. の理由以前に、学部と大学院で同じ方法のアンケート調査を行うという、それ自体無理があることをよしとすべきではなく、より実質的な調査の手立てが講じられるべきである。このようなデータに現れない、明確に意見をいう大学院生の提案などを尊重し、それを授業にいかす努力をすべきではないか。

2) 長所と改善点

評価レーダーチャートから大学院生の授業評価のポジティブ、ネガティブな面が読み取れるが、上記の理由から、これもまったく信頼できるデータかどうかは定かではない。現在の学生は、やさしいというか、人との対立を避ける傾向もあり、仮にある教員の授業に関して批判的に考えていても、それを書かないのではないか。また、学生の側の慣れから機械的に評価されているということも考えられるし、また、1) の理由 1. でも述べたことだが、人数が少ない授業の場合、書いた者が特定されるので自分が不利になるなどと考えてしまうこともあるし、学生の本意は評価レーダーチャートに示されにくいのではないか。

3) 改善の方策

大学院もデータをとることが義務づけられており、それゆえに行われる授業評価であるが、その評価結果にこのような問題点があると感じる限り、今後はアンケートの方法と内容を考えるべきである。例えば、一律データではなく、「ここがこうなったら、もっとよくなるのに」のような、授業がどうあるべきかについての学生の考えをくみ上げられるものに工夫し、より建設的な意見が書けるような自由記述式にすれば、学生も書きやすくなるのではないか。また、授業ごとに調査するのではなく、カリキュラム全体に関して、どのように変更すればよりよくなるかを、大学院生とのフレンドリーな意見交換会を実施して、その中から個別の科目の改善提案も吸い上げていく方式もあって然るべきではないか。

これとは別に、われわれ教員が個々の授業で改善に鋭意努力していくことは当然のことである。

4) 今後の課題

授業評価が目指すことは、授業の質の向上であることは論を俟たない。それを大前提とした上で、以上の問題点が指摘された事実は決して軽くはない。今後は FD 委員会において、学生（大学院生）が主観によらず、また、臆することなく存分に考えを表現できるよりよい方策を講じるべきではないか。例えば、教室におけるアンケート用紙配布も教員以外の第三者が行うなどもそのひとつで、アンケート結果において授業の内実がより客観的に示される実質的な調査が行われることを強く要望する。

大学院という文字どおりの少数教育の場では、教員個人の斬新なやり方は尊重され

るべきであるし、それが、単に一方的な授業でなく教員、学生間の双方向性をもった授業につながり、学生の集中が高まり研究に資する内容になるのが望ましい。手始めにまず、必修授業の中でこういった授業改善の方策を実践していけばいいのではないか。

文責：小川 光（人間文化研究科 人間文化専攻主任）

（3）人間文化研究科 生活福祉文化専攻

1）研究科・専攻の科目を全体的に見た現状の説明

生活福祉文化専攻では、前期・後期全体で、16科目の授業評価アンケートが実施され、回収率は85.7%であった。前期は9科目で実施され回収率は93.3%、後期は7科目で実施され、回収率は76.9%であった。全体的な傾向として、Q10以外は、全体平均より高いポイントを示していた。

今回注目した点は経年比較で、平均が0.1以上減少した項目であった。とくにQ8「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」は3.3(全体3.2)で、かろうじて全体平均より上回っているが、昨年と比べて平均値が減少していた。しかし、本専攻では「そう思う」が52.1%と過半数を占めた。Q4「成績評価の仕方が明確に示されていた」は本専攻の平均3.4(全体3.4)で、昨年と比べて減少していた。Q2「授業の内容に興味・関心を持てた」は3.8(全体3.8)、Q5「教員は学生の質問や相談に適切に対応した」3.8(全体3.8)、Q6「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」3.8(全体3.8)、Q7「私はこの授業に満足した」は3.8(全体3.7)で、すべて4点満点中の3.8であるが、経年比較で減少となっていた。

前期と後期の評価を見ると、Q4とQ5以外は前期と比べて後期のポイントが同じか0.2ポイント増加していた。これは、教員と学生との関わりがより良くなったことが考えられる。Q8では3.1(全体3.1)が、後期では全体の平均より0.2ポイント上回って3.5(全体3.3)へと増加していた。学生の満足度については、Q7が全体平均より0.1ポイント高く、満足している学生が「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせて100%であった。また、Q2で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると100%となり、このことは、本専攻教員の授業内容や進め方、学生への対応の仕方などにおいて、きめ細やかな指導ができていると思われた。

2）長所と改善点

長所としては、Q7「私はこの授業に満足した」、Q2「授業の内容に興味・関心を持てた」、Q6「教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた」などが高い評価を得ていることである。特に、「どちらかと言えばそう思う」という回答を含めると100%の満足度を得ていることが挙げられる。これは、大学院に進学する学生の専門領域への興味関心が、教員からの授業により、一層高められたことに対し、満足を得ているためと思われる。つまり、教員の授業内容や進め方、学生への対応の仕方などにおいて、きめ細やかな指導ができている結果であると思われた。

改善点としては、Q8の「私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ」について、よく読み込んでいる学生が大半とは言えない状況であったが、設問が「よく読む」

となっており、答えにくい設問となっているという指摘があった。また、Q1の「授業の内容を理解できた」が前期・後期を通し「そう思う」と回答したものが半数程度であった。これは、「どちらかと言えばそう思う」を合わせると96.5%になることより、学生がより深く理解することに対して、厳しい評価をしていることが考えられる。つまり、教員の態度や授業の進め方などに対しては満足できたが、授業の内容を深く理解できなかつたことが考えられる。このことより、本専攻の授業において、さらに学生が理解できるような工夫が必要であると思われる。夜間の事務対応などのサービスの改善では、本年度より、事務の終了時間が一部18:30となったことで、さらに社会人に対するサービスの促進にもつながっていくと思われる。

3) 改善の方策

第1回目の授業でシラバスのコピーを配布し、よく読んで授業を登録するかどうか決めるように指導する。授業内容の理解については、学習環境の評価が前期に比べて後期で良くなっていたことで、これが授業内容の理解度の向上に繋がるようにすることが必要である。また、授業の内容が現場での実践に繋がる内容となっているものが多いため、基本的な事項についてより深い理解が求められる。そのために、それぞれの学生に対する指導方法の工夫が必要であると思われる。

4) 今後の課題

今回の結果では、教員からの学生への指導については、一定の評価を得られていると思われる。しかし、Q1の「授業の内容理解」の改善についての議論が不足していたと思われる。今後、この評価を改善するための具体的な方策を検討していくことが必要である。また、修了生に対して、「入学時から修了まででどのようなところが改善されたか」といった具体的な質問をして、研究指導や環境面でのさらなる改善点を探ることも必要である。学生のニーズは年々変化するので、これらに対して教育環境を整え、高度なレベルの講義内容をより分かりやすく伝える工夫が求められていると考える。

文責：萩原 暢子（人間文化研究科 生活福祉文化専攻主任）

(4) 心理学研究科

1) 研究科・専攻の科目を全体的に見た現状の説明

今年度の授業評価アンケートの回収率は91.6%で、前期は94.8%、後期は87.7%であった。評価に関しては、前期・後期ともに同様の傾向が見られたものも多く、前期・後期を平均すると「授業への興味・関心」「質問・相談への対応の適切さ」「学習環境の整備」の項目には約80%の学生が「そう思う」と回答している。また、「教材の適切さ」「学生の反応を見た授業の進め方」「授業の満足度」については、「そう思う」という回答が70%程度であった。「成績評価の明確性」「シラバスの活用度」については、「そう思う」と答えた学生は40%程度であり、「授業内容を理解できた」は55%程度、「学生の受講態度」については60%をやや超える程度であった。しかし、「どちらかと言えばそう思う」という回答を加えると、ほとんどの項目について90%以上の

学生が心理学研究科の授業について肯定的な評価をしていることがわかった。

経年比較でみると、前期は、「授業内容を理解できた」「シラバスの活用度」「学生の受講態度」以外は、前年度よりも評価が高くなっており、後期にはこれらの項目も含めて全ての項目で前年よりも高くなっている。前期・後期全体の平均では、「シラバスの活用度」以外の項目で、前年度よりも良い評価を得ており、特に「学習環境の整備」についての満足度は高くなっている。

2) 長所と改善点

後期に回収率が下がっているのは、修士論文の作成が佳境に差し掛かり、授業への出席率が下がったことが原因の一つとして考えられる。「授業内容を理解できた」に「そう思う」と答えた学生は心理学研究科だけでなく、全学的に見ても55%程度に留まっている。これは、前年度からの課題ではあるが、本大学院、または心理学研究科において学生に要求される専門領域に関する知識、学力のレベルと、学生のそれとの間のギャップを埋めることが困難であることが考えられる。これは、学部教育の質的向上の問題とも関連する深刻な課題である。「成績評価の明確性」については、本研究科では実習系の授業が含まれていることもあり、一定の基準で採点が可能な筆記試験などによる成績評価が困難であるため、学生に「成績評価の明確性」が必ずしも十分ではないと感じさせる一因となっているように思われる。

「授業への興味・関心」「質問・相談への対応の適切さ」は、他研究科と同様、本学の特色である少人数制のきめ細やかな指導体制が評価されたものと思われる。「教材の適切さ」「学生の反応を見た授業の進め方」「授業の満足度」も70%の学生が肯定的に評価しており、授業内容、指導内容に対する本研究科学生の評価は低くないと言えるが、70%という数値からはまだ改善の余地があると考えられ、今後はさらにこの評価を高めていく努力が必要である。その一方で、上記の「授業内容を理解できた」に関わる問題（学生の専門領域についての知識不足等）などもこれらの評価に影響している可能性が考えられる。

「学習環境の整備」についての学生の満足度は高く、今後も、学生のニーズや心理学研究の多様化に伴って、ソフト面、ハード面での整備の充実を怠らないことが肝要である。

3) 改善の方策

改善の方策としては、専攻によっては既に行われていることであるが、入学前教育を如何に充実させていくかを引き続き検討することが必要である。また、各授業においては、少人数制であることの利点を活かし、現在、行われている授業の質やレベルを落とさずに、「わかりずらさ」を感じている学生を、どのようにサポートしていくかを、それぞれの授業の内容、目的、形態に応じて担当教員がさらに工夫していくことも必要である。具体的な方策は、受講している学生の特徴にあわせて、個別に検討せざるをえないと考えられる。「成績評価の明確性」については、出席率、課題レポート、授業内での発表の質など、様々な基準が考えられるが、例えば発表内容の質などは、研究内容や方法の違い等によって進展度や評価のポイントが違ってくこともあり、

明確な基準を設けて評価することが難しいのが現状である。そのため改善の方策については、今後も検討していくことになる。「シラバスの活用度」については、年度初めのオリエンテーションでも、その重要性を学生に伝えている。また、授業内でも、その日の講義内容が、シラバスに記述された授業の流れの中で、どのように位置づけられているかを確認するなど、それぞれの教員が工夫している。それにもかかわらず、シラバスの活用度は毎年低い。その理由を探る試みとして、授業評価のアンケート項目の中に、シラバスのことを、学生がどのように認識しているかを問う項目を設けて、学生が何故、シラバスを活用しようとししないのかを分析してみるのも、一つの方策ではないかと思われる。

4) 今後の課題

課題としては、3) で記述したように、学生の全体的な研究能力をどのようにして伸ばしていくかについて検討していくことが挙げられる。「成績評価の明確性」についても、可能な限り、学生に提示することができるような明確な基準を設けていくことが課題となる。「シラバスの活用度」については、学生のシラバスに対する意識を調査してみる必要があるのではないかと思われる。

文責：河瀬 雅紀（心理学研究科長）

8. 全学的観点から見た今後の課題と展望

(1) 評価対象科目について

今年 2011（平成 23）年度の学部の評価対象科目について、過去 2 年（平成 21 年と平成 22 年）度と全く同様の規則に従い、①10 名以下の科目、②オムニバス方式つまり複数の教員が担当する科目も学生による授業評価アンケート実施の対象とした。

大学院の評価について、昨年 2010（平成 22）年度から始めた方法で、つまり学部と同様に科目ごとに学生によるアンケート調査を行った。大学院の評価は、オムニバス方式も含めた科目を評価の対象とした。

今後の課題として、受講生の人数が非常に少ない授業科目にアンケート調査をすることの意義に懸念を持つ意見が出ている。この点について引き続き検討していかねばならない。

(2) 調査項目について

1) 学部の質問項目について

経年比較をすることを目的とし、本年度は昨年度の質問項目をそのまま使用した。

2) 大学院の質問項目について

大学院の各科目対象の質問項目についても同様に、経年比較をすることを目的に、本年度も 2009 年度・2010 年度と同一の質問項目を使用した。

なお、大学院のアンケート調査項目に関して、実習系の授業を評価するに相応しいものに改善する必要があるとの意見があった心理学研究科には、FD 委員会が実施するアンケート調査項目は全大学院科目対象に統一した項目を引き続き用い、それに加えて心理学研究科独特の調査項目を加えるかたちをとるよう依頼した。

(3) 評価結果データについて

学部の授業評価結果データについて、昨年度は「年度」のデータが欠けていたが、本年度は滞りなく「年度」「前期」「後期」の 3 つのセットで提示されたので、経年比較を順調にすることができたことは評価できる。

また昨年度の大学院の授業評価において、対象として含まれるべきではなかった聴講生もアンケートに回答したため、回収率が 100%を超えた結果が出たが、本年度はこの問題は解消された。

最後に、経年比較のための工夫である「変動値の表示」について、昨年度は大まかな変動のみ認知できる状態であったため、前年度からの増減は 1 つも拾うことができなかった。この問題を解消するため、今年度は表 I・8・1 のように、それぞれの印（◎・○・▼）の増加・減少の幅を狭く設定した結果、思いどおりに経年比較ができたことは評価される。

表 I・8・1 経年比較の変動値のポイント変更

変更後 2011（平成 23）年度	変更前 2010（平成 22）年度
◎・・・平均値が 0.5 以上増加	◎・・・平均値が 1 以上増加
○・・・平均値が 0.1～0.49 増加	○・・・平均値が 0.5～0.99 増加
▼・・・平均値が 0.1 減少	▼・・・平均値が 0.5 減少

（４）学生による授業評価の実施時期・頻度について

今年度も学生による授業評価を前期と後期のそれぞれ終りの時期に 1 回ずつ実施した。この回数については妥当であると思われる。

（５）評価結果のフィードバックと教育の質の向上・改善のための取組について

本報告書の「はじめに」でも述べたように、本学では、学生による評価の結果を受けて、それを教育の質の向上・改善に結びつけるために多々の工夫をこらしている。

1) 各学部・学科、研究科・専攻、共通教育小委員会での話し合い

まず、評価結果のデータを受けて今年度も例年通り、年度末（3 月）に各学科・各専攻ごとに全教員が集まり、その分析を通して課題の明確化をはかり、今後の対策を講じた。その話し合いの内容は本報告書第 5 節、第 6 節に記載されている。

2) 各教員の評価結果の反映

各教員は学生から自分の科目の評価を受け、それに関する意見・自ら講じた改善策等を、本学の Web 上の「教育・研究活動」にある「教員のデータベース」の中の「2. 研究活動 - (1)教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）」の欄に自主的に記載し、公開している。学生もこれら閲覧できる体制をとっている。

3) 評価結果の開示

同時に、学生による授業評価アンケート実施報告書は本学の Web 上の「教育・研究活動」にある「授業評価」にアップロードされており、学生を含め、誰でも閲覧できるようになっている。

4) オープンクラス（公開授業）

本年度の新たな試みとしてオープンクラスを実施し、前期・後期にわたり計 8 クラスのオープンクラスに延べ 57 名の教職員が参加した。オープンクラスに関する詳細は本報告書第Ⅲ章を参照されたい。

5) FD に関する研究や情報交換を目的とする他大学との意見交換会

もう 1 つの本年度の新たな試みとして、FD に関する研究や情報交換を目的とした他大学との意見交換会を開始した。第 1 回目の本年度は、包括協定を結ぶ京都工芸繊維大学の総合教育センター「教育評価・FD 部会」と我々 FD 委員会の教職員が集会を持ち、実りのある意見交換がなされた。

以上が全学的観点からみた今後の課題と展望の概要である。今後に向けての課題として、①学生の授業評価アンケートを実施すると同時に、その授業担当教員が同じアンケートに回答し、教員の自己評価と学生の評価の二者比較をすること、②秋に開催

される ND 祭で卒業生の集いの場を設け、卒業生に教育総合評価アンケートの回答を依頼することを検討している。

文責：桐野 由美子（FD 委員長）

2011 年度 学生による授業評価アンケート

京都ノートルダム女子大学

- * このアンケート用紙は、下記の科目専用です。履修している科目名を確認してください。
- * 「聴講生」および「大学コンソーシアムによる受講生」は回答しないでください。
- * 下記の注意事項をよく読んで回答してください。

科目 CODE

科目名

I. あなたの学年の番号に○をつけてください。(※科目等履修生・交換留学生の方は学年は記入不要です。)

1. 1年次生 2. 2年次生 3. 3年次生 4. 4年次生

II. あなたの所属学部(学科)の番号に○をつけてください。

1. 人間文化(英語英文) 2. 人間文化(人間文化) 3. 生活福祉文化 4. 心理 5. 科目等履修生等

III. 標題の科目について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、○をつけてください。

【教員（授業）について】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
① 授業のテーマは、はっきりしていた	4	3	2	1
② 授業の内容を理解できた	4	3	2	1
③ 授業の内容に興味・関心をもてた	4	3	2	1
④ この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ	4	3	2	1
⑤ この授業では、学習に集中することができた	4	3	2	1
⑥ 授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった	4	3	2	1
⑦ 成績評価の仕方が明確に示されていた	4	3	2	1
⑧ 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4	3	2	1
⑨ 教員のプレゼンテーション（授業における伝達方法）は適切であった	4	3	2	1
⑩ 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	4	3	2	1
⑪ 教員の授業への取り組みに、熱意を感じた	4	3	2	1
⑫ 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	4	3	2	1
【あなたについて】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
⑬ 私はこの授業に満足した	4	3	2	1
⑭ 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	4	3	2	1
⑮ 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	4	3	2	1
⑯ 教員から要求された自主学習（予習/復習、宿題や準備）をしましたか	4	3	2	1
⑰ この授業で、何回欠席しましたか 〔基準：4（0回）、3（1回）、2（2～3回）、1（4回以上）〕	4	3	2	1

IV. この科目(授業)について「よかった点」や「改善すべき点」等を記入してください（自由記述）。

(注意事項)

- ・ 複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・ このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。

2011 年度 大学院生による授業評価アンケート

京都ノートルダム女子大学

- ❖ このアンケート用紙は、下記の科目専用です。履修している科目名を確認してください。
- ❖ 「聴講生」および「大学コンソーシアムによる受講生」は回答しないでください。
- ❖ 下記の注意事項をよく読んで回答してください。

科目 CODE

科目名

I. あなたの学年の番号に○をつけてください。(※科目等履修生の方は学年記入不要です。)

1. 修士課程(M1) 2. 修士課程(M2) 3. 博士前期課程(M1) 4. 博士前期課程(M2)
5. 博士後期課程(D1) 6. 博士後期課程(D2) 7. 博士後期課程(D3)

II. あなたの専攻の番号に○をつけてください。

- 【人間文化研究科】 1. 応用英語専攻 2. 生活福祉文化専攻 3. 人間文化専攻
【心理学研究科】 4. 発達・学校心理学専攻 5. 臨床心理学専攻 6. 心理学専攻
7. 科目等履修生

III. 標題の科目について、設問ごとに最もあてはまる回答番号を1つ選び、○をつけてください。

【授業について】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
① 授業の内容を理解できた	4	3	2	1
② 授業の内容に興味・関心をもてた	4	3	2	1
③ 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は適切であった	4	3	2	1
④ 成績評価の仕方が明確に示されていた	4	3	2	1
【教員について】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
⑤ 教員は学生の質問や相談に適切に対応した	4	3	2	1
⑥ 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた	4	3	2	1
【あなたについて】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
⑦ 私はこの授業に満足した	4	3	2	1
⑧ 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ	4	3	2	1
⑨ 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ	4	3	2	1
【教育環境について】	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
⑩ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている	4	3	2	1

IV. この科目(授業)について「よかった点」や「改善すべき点」等を記入してください(自由記述)。

(注意事項)

- ・ 複数の教員が指導する科目については、当学期にこれまで行われたすべての授業を振り返り、総合的に判断して記入してください。
- ・ このアンケートは、授業をよりよくし、本学の教育をさらに充実させるために行うものです。成績評価とは全く関係ありませんので、設問に対して率直に答えてください。また、回答を強制するものではありません。

()

II 平成 21 年度～平成 23 年度「FD 講演会」実施報告

1. 実施概要

大学設置基準の改正により、ファカルティ・ディベロップメント (FD) が義務化され、授業の内容や方法の改善を図るための組織的な研修や研究を実施することが定められた (大学設置基準第 25 条の 3)。これを受けて本学では、2009 (平成 21) 年度より「FD 講演会」を実施しており、FD 推進と授業改善への積極的な取り組みを行っている。

2011 (平成 23) 年度 FD 講演会

- 日 時： 2011 (平成 23) 年 6 月 22 日(水) 17:00～18:15
- 場 所： 京都ノートルダム女子大学 ユニソン会館 大会議室
- 講 師： 立命館大学 共通教育推進機構教授 木野茂先生
- テーマ： 「学生とともに作る授業 –大学授業のパラダイム転換を–」
- 講演概要：

1991 (平成 3) 年の大学設置基準大綱化以後の教育改革に取り組む中で、大学授業自体の改革が必要なことを痛感し、従来の知識伝授型授業から学生自身の自主的能動的な学びを引き出す双方向型授業を提唱するとともに、自らいくつかの授業を開発してきた。アメリカではいわゆる大学授業のパラダイム・シフトが早くから実践されているが、わが国ではいまだに古いパラダイムの授業の方が多いのが現実であろう。

古いパラダイムの授業を新しいパラダイムの授業に変えるためには「学生とともに作る授業」という考え方への転換が必要である。両者のパラダイムでは何が違うのかを考え、私の授業実践の紹介を通して新しいパラダイムの授業を作るためのヒントにしていきたい。

2010 (平成 22) 年度 FD 講演会

- 日 時： 2010 (平成 22) 年 6 月 24 日(木) 16:40～18:00
- 場 所： 京都ノートルダム女子大学 大会議室
- 講 師： 同志社大学文学部教授 圓月勝博先生
- テーマ： 「新たな大学教員像の構築に向けて–学士課程教育と FD–」
- 講演概要：

2008 (平成 20) 年 4 月の「FD の義務化」を受けて、同年末に公表された中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」は、FD を「学士課程教育の充実を支える学内の教職員の職能開発」として定義しており、学生の学習活動を主眼とする大学運営を強く提唱している。しかし、上記答申が要約する新たな高等教育政策は、従来の大学教員像を否定するものであり、近年の大学改革の象徴となった FD に対して反発する大学教員も少なくない。FD に対する反発の背後には、自分が目指すべき理想像を見失った大

学教員の不安と苛立ちがある。現在、FDの最大の課題は、FDに反発する大学教員をいたずらに批判することではなく、その不安と苛立ちの原因を冷静に分析した上で、大学教員という職業集団の社会的使命に関する共通理解を確立し、新たな大学教員像の構築に向けて、率直な議論を始めることであろう。今回の講演がそのささやかなきっかけとなれば幸いである。

2009（平成 21）年度 F D 講演会

- 日 時： 2009（平成 21）年 6 月 24 日(水) 16：40～18：00
- 場 所： 京都ノートルダム女子大学 ユージニア館 R249
- 講 師： 京都大学 高等教育研究開発推進センター教授 大塚雄作先生
- テー マ： 「実質的な FD と授業改善を目指して—新たなる学問学習共同体の形成に向けて—」

■ 講演概要：

2008（平成 20）年度に FD が義務化され、それにいかに対応していけばよいかという課題が、すべての大学に突きつけられている。そのために、多くの大学で、ある種のイベント的な「FD」がさらに広がっていくことが容易に想像されるが、これからの時代に求められることは、実質的に教育「改善」に結び付く FD を私たち自身の手で作りに出していくということだろう。しかし、一口に、「実質的な FD」と言っても、それが何であるのかは、まだコンセンサスが得られている段階ではない。そこで、その基本として、教員・職員・学生間の繋がりを創り、今の時代、それぞれの大学の風土に合った学問学習共同体を形成していくことが重要という視点から、FD のあり方について共に考えてみる機会をもちたいと思う。

表 II - 1 出席者数

単位：(人)

	出席者	人間文化学部		生活福祉文化学部	心理学部	各センター	現員数	参加率 (%)	職員 (その他)
		英語 英文	人間 文化						
平成 23 年度	60	11	12	16	17	4	70	85.7	12
平成 22 年度	39	7	11	5	12	4	68	57.4	16
平成 21 年度	56	9	10	15	18	4	68	82.3	27

2. 今後の課題と展望

過去三年間に本学で実施された「FD 講演会」は、FD 推進と授業改善のために必要な活動として、教員に受け入れられていると考えられる。それは、2011（平成 23）年度の教員の参加率が 85.7%（専任教員 70 名中 60 名）と、比較的高いことからわかる。

そして、実際の講演内容に関して、教員全体に意見を求めたところ、「ためになった」という肯定的な意見がほとんどで、今後も続けていくべきだと思っているという

意見が、大半を占めた。ただし、より詳しい内容に関しては、過去3年間で、いわゆるFDの専門家による講演であったため、今後は、内容を以下のように改善してはどうかという意見も出ている。

(1) 一方的な講演ではなく、たとえば「学生の参加型授業の推進」に関してなら、講師が教員となり、実際の授業のデモンストレーションをして欲しい。

(2) 「画期的な工夫をしている複数の教員」から、その具体的な内容を聞くような講演会がよい。

また、2012(平成24)年3月7日(水)に開催された全学教員研修会において、今後のFD活動をさらに充実させるために、「FD講演会」をはじめとする、現在実施されているFD活動以外にも、以下の項目を行ってはどうかという意見が出された。

- ・教員相互の授業参観(教員が互いに授業を参観し、評価し合う)
- ・卒業生・修了生調査協力者会議(学生が社会に出た後の意見の聴衆)
- ・卒業生・修了(卒業時)への教育総合評価アンケート
- ・教員から見た授業評価アンケート(教員の自己評価及び学生との二者比較)

文責：吉田 智子(人間文化学科 教授)

Ⅲ 2011（平成 23）年度「オープンクラス」実施報告

1. 実施概要

平成 23 年度より、新たに「オープンクラス（公開授業）」を実施した。オープンクラス（公開授業）によって、より質の高い、魅力的な授業を学生へ提供することを基本的な目標とし、他の教員の授業や優れた教授法を参考とすることで、各自の授業改善に活かし、授業内容や授業方法の質の向上を図ることを目標としている。

2011（平成 23）年度 前期

（1）授業名：「生活福祉文化基礎演習Ⅰ」

■ 担当教員：生活福祉文化学部

萩原暢子教授、桐野由美子教授、鳥居本幸代教授、牛田好美准教授
石井浩子准教授、佐藤純准教授、畠山寛講師

■ 実施日時：2011（平成 23）年 6 月 10 日（金）、6 月 17 日（金）、7 月 1 日（金）、
7 月 8 日（金） 3 講時 授業（13:10～14:30）、授業終了後の教員ミー
ティング（14:30～14:40）

■ 授業概要：

本ゼミは本学科 1 年次生必修科目であり、ホームルーム機能を持つ。同時に前期では学生が「読む力・話し合う力・書く力」をつけることを目標とする。各教員は統一された授業計画書に従い、毎週各クラスで同じ内容を教え、授業後に 10 分程度ミーティングを持ち、学生の状況等を話し合う場を持つ。前期の最終目標は全員が大学生としてレポートを書きあげる力を十分につけることにある。

2011（平成 23）年度 後期

（2）授業名：「比較文学講読Ⅱ」

■ 担当教員：人間文化学部人間文化学科 服部昭郎教授

■ 実施日時：2011（平成 23）年 10 月 21 日（金） 4 講時（15:05～16:35）

■ 授業概要：

漱石「倫敦塔」第 2 週

「倫敦塔」のテキストの厳密な読みにひき続き、作品としての特徴を考える。「倫敦塔」は複数の西洋絵画をヒントに書かれたと考えられているが、それは主に英国史の中の有名な 1 シーンを描く歴史画であった。それらの絵画を実際に鑑賞して、漱石の初期作品を比較文学的に分析してみる。

（3）授業名：「教育方法学」

■ 担当教員：心理学部心理学科 神月紀輔准教授

■ 実施日時：2011（平成 23）年 11 月 1 日（火） 2 講時（10:55～12:25）

■ 授業概要：

先進の教育方法について理解を深め、実践につなげる。ここでは主体的に学ぶ方法について、4～5人によるグループ学習で考えた内容を発表により相互評価を行う。

(4) 授業名：「英語英文学特論」(スペシャリストセミナー)

■ 担当教員：人間文化学部英語英文学科 小山哲春准教授

■ 実施日時：2011(平成23)年11月30日(水) 3講時(13:10～14:40)

■ 授業概要：

このゼミは「スペシャリスト領域」の学生専用、徹底した実践英語訓練の場として提供している。毎回の授業は、スピーチやディベートの基礎理論を学ぶための英語テキストの口頭発表、その内容の英語による討議、英語ディベートの実践等で構成する。

(5) 授業名：「生活福祉文化基礎演習Ⅱ」

■ 担当教員：生活福祉文化学部

萩原暢子教授、桐野由美子教授、鳥居本幸代教授、牛田好美准教授
石井浩子准教授、佐藤純准教授、畠山寛講師

■ 実施日時：2012(平成24)年1月13日(金) 3講時(13:10～14:40)

■ 授業概要：

前期に修得した「学ぶ力」を発展させ生活・福祉・文化の諸問題に取り組む。具体的には少人数グループで調査テーマを決定し、調べ・議論し・まとめ・発表する。その過程で主体的に学習する態度を身につけることを目標にする。

表Ⅲ-1 2011(平成23)年度オープンクラス実施状況

	実施日	学部/学科名	公開科目名	教職員 参観者数	期別合計
(1)	6月10日(金)	生活福祉文化学部	生活福祉文化基礎演習Ⅰ	9名	前期 29名
	6月17日(金)	生活福祉文化学部	生活福祉文化基礎演習Ⅰ	6名	
	7月1日(金)	生活福祉文化学部	生活福祉文化基礎演習Ⅰ	5名	
	7月8日(金)	生活福祉文化学部	生活福祉文化基礎演習Ⅰ	9名	
(2)	10月21日(金)	人間文化学科	比較文学講読Ⅱ	4名	後期 28名
(3)	11月1日(火)	心理学部	教育方法学	7名	
(4)	11月30日(水)	英語英文学科	英語英文学特論	7名	
(5)	平成24年 1月13日(金)	生活福祉文化学部	生活福祉文化基礎演習Ⅱ	10名	
年間合計(延べ人数)					

2. オープンクラスにおける今後の課題と展望

2012(平成24)年3月7日(水)に開催した全学教員研修会にて行われた2011(平成23)年度オープンクラスについて実施したアンケートにより、英語英文学科からは、「英文科の授業が重なっていて参加できなかった」、「評価をすることなしに、教員が自由に入出りできるオープンクラスと、教務課の管理下にあるモデルクラスとが混同されている」などの感想が出された。人間文化学科からは、「2人の先生がペアになって見学、コメントし合う」、「ある期間、どの授業見学に行っても良いこととしてはどうか」といった意見が出された。また、「英語英文学科に高い評価のものが多く、その授業を公開してほしい」という要望が出された。生活福祉文化学部からは、学生にわかりやすい「授業評価法」のサンプルが欲しいとの要望が出された。心理学部からは、「公開されている授業時間と自分の授業が重なって行けなかった」という意見や「基礎演習について心理学部でも検討中なので、非常に参考になった」との感想が出された。また、公開した教員からは、「教壇からは見えない学生の実態について、参観者から指摘を受けることができた。見学した先生と意見交換したい」との感想が出された。

以上の内容を集約すると、全学的に、オープンクラスについて教員の関心が高まってきていると言える。研修会では、どの学部・研究科においても、来年度に公開可能な授業について積極的に提示されるなど、その意義は、認められている。

しかし公開された授業と担当授業が重なって出席できなかったという感想もあり、検討を要する課題となった。「評価が高い授業の公開」、「授業を公開した教員と参加した教員との対話の場を設ける」などの案は、来年度、検討可能であると思われた。

文責：田中 誉樹（心理学部 教授）